2.　Ⅱ 工事計画

申請範囲目次

（変更の工事に該当するものに限る。）

1.　原子炉本体

5　原子炉本体の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2) 適用基準及び適用規格

2.　核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設

4　使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備

4.1　燃料プール冷却浄化系

(3)　容器

・常設

a.　燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩器逆洗水受タンク

(6)　ろ過装置

・常設

a.　燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩器

(8)　主配管

・常設

4.3　代替燃料プール冷却系

(1)　熱交換器

・常設

a.　代替燃料プール冷却系熱交換器

(2)　ポンプ

・常設

a.　代替燃料プール冷却系ポンプ

(8)　主配管

・常設

5　核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

3　原子炉冷却系統施設

4　原子炉冷却材の循環設備

4.1　主蒸気系

(8)　主配管

4.2　復水給水系

(8)　主配管

4.3　復水脱塩系

(4)　ろ過装置

a.　脱塩器

b.　陽イオン樹脂再生塔

c.　陰イオン樹脂再生塔

d.　樹脂貯槽

(8)　主配管

4.4　給水加熱器ドレン系

(8)　主配管

4.5　抽気系

(8)　主配管

6　非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

6.7　低圧代替注水系

(3)　貯蔵槽

b.　西側淡水貯水設備

(7)　主配管

・常設

6.8　代替循環冷却系

(1)　ポンプ

・常設

a.　代替循環冷却系ポンプ

(7)　主配管

・常設

7　原子炉冷却材補給設備

7.2　補給水系

(2)　容器

a.　復水貯蔵タンク

(5)　主配管

・常設

8　原子炉補機冷却設備

8.1　原子炉補機冷却系

(2)　熱交換器

・常設

a.　原子炉補機冷却系熱交換器

(9)　主配管

・常設

8.3　緊急用海水系

(6)　ろ過装置

・常設

a.　緊急用海水系ストレーナ

(9)　主配管

・常設

8.4　補機冷却系海水系

(3)　ポンプ

・常設

a.　補機冷却系海水ポンプ

(6)　ろ過装置

・常設

a.　補機冷却系海水ストレーナ

(9)　主配管

・常設

9　原子炉冷却材浄化設備

9.1　原子炉冷却材浄化系

(1)　熱交換器

a.　再生熱交換器

b.　非再生熱交換器

(3)　ろ過装置

a.　原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器

(6)　主配管

11　原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

蒸気タービン

1　蒸気タービン本体

(2)　車室，円板，隔板，噴口，翼，車軸及び管

a.　蒸気タービンの管

(4)　復水器

イ　主復水器

2　蒸気タービンの附属設備

(2)　熱交換器

a.　湿分分離器

2.1　抽気系

(4)　管等

イ　主配管

2.2　給水加熱器ドレン系

(4)　管等

イ　主配管

2.3　復水系

(4)　管等

イ　主配管

2.4　復水器空気抽出系

(4)　管等

イ　主配管

ロ　蒸気だめ，ドレンタンク

a.　湿分分離器ドレンタンク

3　蒸気タービンの基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

4　計測制御系統施設

3　制御材駆動装置

(2)　制御棒駆動水圧設備

(2.1)　制御棒駆動水圧系

ロ　容器

・常設

c.　スクラム排出水容器

ホ　主配管

・常設

5　計測装置

(2)　原子炉圧力容器本体の入口又は出口の原子炉冷却材の圧力，温度又は流量を計測する装置

・常設

e.　代替循環冷却系原子炉注水流量

f.　代替循環冷却系ポンプ入口温度

(3)　原子炉圧力容器本体内の圧力又は水位を計測する装置

・常設

a.　原子炉圧力

e.　原子炉水位（燃料域）

(4)原子炉格納容器本体内の圧力，温度，酸素ガス濃度又は水素ガス濃度を計測する装置

・常設

a.　ドライウェル圧力

(5)　非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る容器内又は貯蔵槽内の水位を計測する装置

・常設

b.　西側淡水貯水設備水位

(10)　原子炉格納容器本体への冷却材流量を計測する装置

・常設

c.　代替循環冷却系格納容器スプレイ流量

6　原子炉非常停止信号の種類

・常設

a.　原子炉圧力高

b.　原子炉水位低

c.　ドライウェル圧力高

d.　中性子束高（手続き対象外）

e.　スクラム水排出容器水位高（手続き対象外）

f.　原子炉出力ペリオド短（手続き対象外）

g.　中性子束計装動作不能（手続き対象外）

h.　中性子束低（手続き対象外）

i.　主蒸気管放射能高

j.　主蒸気隔離弁閉（手続き対象外）

k.　主蒸気止め弁閉（手続き対象外）

l.　蒸気加減弁急速閉（手続き対象外）

m. 原子炉モード・スイッチ「停止」
n. 手動
o. 地震加速度大

7 工学的安全施設等の起動信号の種類，検出器の種類，個数及び取付箇所，工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件

7.1 主蒸気隔離弁

・常設

a. 原子炉水位異常低下
b. 主蒸気管圧力低
c. 主蒸気管放射能高
d. 主蒸気管トンネル温度高
e. 主蒸気管流量大
f. 復水器真空度低

7.2 その他の原子炉格納容器隔離弁

・常設

(1)

a. ドライウェル圧力高
b. 原子炉水位低

(2)

a. 原子炉水位低

(3)

a. 原子炉水位異常低下

7.3 原子炉建屋ガス処理系

・常設

a. 原子炉建屋放射能高
b. ドライウェル圧力高
c. 原子炉水位低

7.4 高圧炉心スプレイ系

・常設

a. ドライウェル圧力高
b. 原子炉水位異常低下

7.5 低圧炉心スプレイ系

・常設

a. ドライウェル圧力高
b. 原子炉水位異常低下

7.6　残留熱除去系

・常設

低圧注水系

a.　ドライウェル圧力高

b.　原子炉水位異常低下

格納容器スプレイ冷却系

a.　手動

8　制御用空気設備

8.2　非常用窒素供給系

(5)　主配管

・常設

8.3　非常用逃がし安全弁駆動系

(2)　容器

・可搬型

a.　高圧窒素ボンベ

(5)　主配管

・常設

10　計測制御系統施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

5　放射性廃棄物の廃棄施設

1　気体，液体又は固体廃棄物貯蔵設備

1.2　固体廃棄物貯蔵タンク

(2)　容器

a.　使用済樹脂貯蔵タンク

b.　クラッドスラリタンク

2　気体，液体又は固体廃棄物処理設備

2.1　気体廃棄物処理系

(1)　熱交換器

a.　排ガス復水器

b.　排ガス前置除湿器

d.　再生ガス加熱器

(4)　容器

a.　排ガス再結合器

(8)　ろ過装置

a.　排ガス気水分離器

b.　排ガス前置フィルタ

c.　気水分離器

d.　排ガス後置除湿器

e.　排ガスメッシュフィルタ

f.　排ガス活性炭ベッド

g.　再生ガスメッシュフィルタ

h.　再生ガス気水分離器

i.　再生ガス油分離器

j.　排ガスフィルタ

(10)　主配管

a.　管

(a).　排ガス空気抽出器

(b).　排ガス消音器

(c).　再生ガス消音器

(d).　主配管

2.2　液体廃棄物処理系

2.2.1　機器ドレン処理系

(2)　ポンプ

a.　廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ

(4)　容器

a.　廃液収集タンク

b.　サージタンク

c.　凝集装置供給タンク

d.　凝縮水サンプルタンク

e.　廃棄物処理建屋機器ドレンサンプタンク

f.　機器ドレン処理水タンク

g.　電磁ろ過器供給タンク

(8)　ろ過装置

a.　電磁ろ過器

b.　超ろ過器

(9)　主要弁

(10)　主配管

2.2.2　床ドレン処理系

(2)　ポンプ

a.　廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ

(4)　容器

a.　床ドレン収集タンク

b.　床ドレンサンプルタンク

(9)　主要弁

(10)　主配管

2.2.3　再生廃液処理系

(1)　熱交換器

a.　廃液濃縮器加熱器

b.　廃液濃縮器

(4)　容器

a.　廃液中和タンク

b.　廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク

(10)　主配管

2.3　固体廃棄物処理系

2.3.1　固体廃棄物処理系

(1)　熱交換器

a.　蒸気加熱器

b.　タンクベント冷却器

(4)　容器

a.　廃液フィルタ逆洗水受タンク

b.　原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器逆洗水受タンク

c.　床ドレンフィルタ逆洗水受タンク

d.　廃液スラッジ貯蔵タンク

e.　床ドレンスラッジ貯蔵タンク

f.　濃縮廃液貯蔵タンク

g.　使用済樹脂貯蔵タンク

h.　使用済粉末樹脂貯蔵タンク

(10)　主配管

(14)　減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器

a.　減容機

2.3.2　使用済樹脂移送系

(10)　主配管

2.3.3　濃縮廃液減容固化系

(10)　主配管

(14)　減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器

a.　減容固化系乾燥機

b.　減容固化系ミストセパレータ

2.3.4　雑固体廃棄物焼却設備

(4)　容器

a.　廃油タンク

(10)　主配管

2.3.5　雑固体減容処理設備

(10)　主配管

2.3.6　サイトバンカプール水浄化系

(8)　ろ過装置

a.　プール水脱塩器

(10)　主配管

5　放射性廃棄物の廃棄施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

6　放射線管理施設

1　放射線管理用計測装置

(1)　プロセスモニタリング設備

ハ　放射性物質により汚染するおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を測定する装置

・常設

a.　排ガス放射線モニタ

b.　排ガス線形放射線モニタ

c.　主排気筒放射線モニタ

2　換気設備

2.1　中央制御室換気系

(4)　送風機

・常設

a.　中央制御室換気系空気調和機ファン

(5)　排風機

・常設

a.　中央制御室換気系フィルタ系ファン

3　生体遮蔽装置

a.　二次遮蔽

b.　中央制御室遮蔽

c.　中央制御室遮蔽（待避室）

e.　緊急時対策所遮蔽

4　放射線管理施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

7　原子炉格納施設

3　圧力低減設備その他の安全設備

(6)　原子炉格納容器安全設備

(6.5)　代替循環冷却系

ヌ　主配管

・常設

(6.13)　ペデスタル排水系

ヌ　主配管

・常設

(7)　放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備

(7.1)　原子炉建屋ガス処理系

(7.1.2)　非常用ガス処理系

ヨ　排風機

・常設

a.　非常用ガス処理系排風機

(8)　原子炉格納容器調気設備

(8.1)　不活性ガス系

ニ　主要弁

・常設

(8.2)　窒素ガス代替注入系

ホ　主配管

・常設

・可搬型

(9)　圧力逃がし装置

(9.1)　格納容器圧力逃がし装置

ロ　主要弁

・常設

4　原子炉格納施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

8　その他発電用原子炉の附属施設

1　非常用電源設備

2　非常用発電装置

2.1　非常用ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　軽油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

2.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　軽油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

2.3　常設代替高圧電源装置

(2)　内燃機関

イ　機関及び過給機

・常設

a.　常設代替高圧電源装置内燃機関

ロ　調速装置及び非常調速装置

a.　常設代替高圧電源装置調速装置

b.　常設代替高圧電源装置非常調速装置

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備

・常設

a.　常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンク

・常設

a.　常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　軽油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

(5)　発電機

イ　発電機

・常設

a.　常設代替高圧電源装置

ロ　励磁装置

・常設

a.　常設代替高圧電源装置励磁装置

ハ　保護継電装置

a.　常設代替高圧電源装置保護継電装置

ニ　原動機との連結方法

（直結）

2.4　緊急時対策所用発電機

(2)　内燃機関

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンク

・常設

a.　緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク

(4)　燃料設備

イ　ポンプ

・常設

a.　緊急時対策所用発電機給油ポンプ

ロ　容器

・常設

a.　緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク

ニ　主配管

・常設

3　その他の電源装置

3.1　その他の電源装置

(2)　電力貯蔵装置

・可搬型

a.　逃がし安全弁用可搬型蓄電池

4　非常用電源設備の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

2　常用電源設備

2　変圧器

(1)　変圧器

a.　主要変圧器

(2)　保護継電装置

a.　主要変圧器

4　常用電源設備の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

3　補助ボイラー

15　ボイラーの基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

4　火災防護設備

3　火災防護設備の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

5　浸水防護施設

3　浸水防護施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2) 適用基準及び適用規格

6　補機駆動用燃料設備

1　燃料設備

(2)　容器

・常設

b.　ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク

(4)　主配管

・常設

2　補機駆動用燃料設備の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

7　非常用取水設備

1　取水設備

a.　取水構造物

b.　貯留堰

2　非常用取水設備の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

9　緊急時対策所

2　緊急時対策所の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

原子炉本体

5　原子炉本体の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 原子炉本体に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 原子炉本体に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 原子炉本体に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日決定 平成13年3月29日一部改訂） ・軽水型動力炉の非常用炉心冷却系の性能評価指針（平成4年6月11日原子力安全委員会一部改訂）	第2章　個別項目 原子炉本体に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日決定 平成13年3月29日一部改訂） ・軽水型動力炉の非常用炉心冷却系の性能評価指針（平成4年6月11日原子力安全委員会一部改訂）

変　更　前	変　更　後
・発電用軽水型原子炉施設の反応度投入事象に関する評価指針について（昭和 59 年 1 月 19 日原子力安全委員会決定）	・発電用軽水型原子炉施設の反応度投入事象に関する評価指針について（昭和 59 年 1 月 19 日原子力安全委員会決定）
・発電用軽水型原子炉施設の反応度投入事象における燃焼の進んだ燃料の取扱いについて（平成 10 年 4 月 13 日原子力安全委員会了承）	・発電用軽水型原子炉施設の反応度投入事象における燃焼の進んだ燃料の取扱いについて（平成 10 年 4 月 13 日原子力安全委員会了承）
・原子力発電所用機器に対する破壊靭性の確認試験方法（JEAC4206-2007）	・原子力発電所用機器に対する破壊靭性の確認試験方法（JEAC4206-2007）
	・原子炉構造材の監視試験方法（JEAC4201-2007（2013 年追補版含む））
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005（2007 年追補版含む）発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004）	・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004）
・原子力圧力容器規定（JEAC4701-1973）	
・ASME CODE SEC Ⅲ（1971）	・ASME CODE SEC Ⅲ（1971）
・ASME CODE SEC Ⅱ Part D Materials（2001 Edition（2003 Addenda 含む））	・ASME CODE SEC Ⅱ Part D Materials（2013 Edition）

核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設

4　使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項

4.1　燃料プール冷却浄化系

(3)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前	変更後
名　　称			フィルタ脱塩器逆洗水受タンク	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/個	23*2	
最高使用圧力		MPa	静水頭*3	
最高使用温度		℃	94	
主要寸法	胴内径*4	mm	2896*2	
	胴板厚さ*5	mm	[redacted] (9.0*2)	
	鏡板厚さ*7	mm	[redacted] (9.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2896*2, *6 (鏡板の中央部における内面の半径)	
			289.6*2, *6 (すみの丸みの内半径)	
	平板厚さ	mm	9.0*2, *8	
	高さ	mm	3815*2, *8, *9	
材料	胴板	―	SUS304L	
	鏡板	―	SUS304L	
個　　数		―	1	
*8 取付箇所	系統名（ライン名）	―	フィルタ脱塩器逆洗水受タンク (燃料プール冷却浄化系) *10	
	設置床	―	原子炉建屋　EL.29000 mm*10	
	溢水防護上の区画番号	―	―	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年8月30日

付け建建発第98号にて届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-5-3　フィルタ脱塩器逆洗水受タンクの規格計算書」による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4400」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(6) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前	変更後
名称			フィルタ脱塩器	変更なし
種類		―	縦置き円筒型*1	
容量		m^3/h/個	125 以上（125*2）	
最高使用圧力		MPa	1.38*3	
最高使用温度		℃	94	
主要寸法	胴内径	mm	1100*2	
	胴板厚さ*4	mm	上部胴体：[redacted]（13.0*2,*6） 下部胴体：[redacted]（13.0*2）	
	鏡板厚さ*7	mm	[redacted]（13.0*2）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1100*2,*5 （鏡板の中央部における内面の半径）	
		mm	110*2,*5 （鏡板のすみの丸みの内半径）	
	管台外径（入口管）	mm	165.2*2,*5	
	管台厚さ（入口管）	mm	[redacted]（7.1*2,*5）	
	管台外径（出口管）	mm	165.2*2,*5	
	管台厚さ（出口管）	mm	[redacted]（7.1*2,*5）	
	本体フランジ厚さ	mm	70.0*2,*5	
	平板厚さ	mm	[redacted]（110*2,*5）	
	高さ*8	mm	2538*2,*9,*10	
材料	胴板*11	―	上部胴板：SB42 [redacted] 下部胴板：SUS304	
	鏡板	―	SUS304	
	平板*12	―	SF45 [redacted]	
	本体フランジ	―	SF45 [redacted] *5	
個数		―	2	

（続き）

			変　更　前		変更後
取付箇所	系統名（ライン名）	－	フィルタ脱塩器Ａ（燃料プール冷却浄化系）*13	フィルタ脱塩器Ｂ（燃料プール冷却浄化系）*13	変更なし
	設置床	－	原子炉建屋 EL. 38800 mm*13	原子炉建屋 EL. 38800 mm*13	
	溢水防護上の区画番号	－	－		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒竪形（四脚支持)」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年6月5日付け50資庁第4488号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4-2　フィルタ脱塩器規格計算書」による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「13 mm[redacted]」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4035 mm」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「上蓋板」と記載。

＊13：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(8)　主配管（スプレイヘッダを含む。）の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
燃料プール冷却浄化系	ポンプ吐出口 ～ 熱交換器入口		1.38	66	89.1	5.5	STPT42	燃料プール冷却浄化系	変更なし					
					165.2	7.1	STPT42							
	熱交換器出口 ～ 弁 G41-20A,B*3		1.38	66	165.2	7.1	STPT42							
					216.3	8.2	STPT42							
	フィルタ脱塩器入口管	弁 G41-20A,B ～ フィルタ脱塩器*4	1.38	94	165.2	7.1	STPT42							
	フィルタ脱塩器戻り管	フィルタ脱塩器 ～ 弁 G41-102A,B*5	1.38	94	165.2	7.1	SUS304TP							
					139.8	6.6	SUS304TP							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「熱交換器出口よりフィルタ脱塩装置まで」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器入口管　燃料プール熱交換器よりフィルタ脱塩器まで」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器戻り管　フィルタ脱塩器より燃料プールへ」と記載。

4.3　代替燃料プール冷却系

(1)　熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変　更　後
名称				代替燃料プール冷却系熱交換器
種類		－		プレート式
容量（設計熱交換量）*1		MW/個		2.31 以上 (2.31)
胴側	最高使用圧力*1	MPa		0.98
	最高使用温度*1	℃		80
管側	最高使用圧力*1	MPa		0.98
	最高使用温度*1	℃		66
伝熱面積		m^2/個		52.0 以上 (57.8*2)
主要寸法	伝熱板幅	mm	－	358*2
	伝熱板高さ	mm		932*2
	伝熱板厚さ	mm		0.7 (0.7*2)
	側板間長さ	mm		778*2
	側板厚さ	mm		70.0 (70.0*2)
	全長	mm		1671*2
材料	側板	－		SGV410
	伝熱板	－		NAS254N (SUS836L)
個数		－		1
取付箇所	系統名（ライン名）	－		代替燃料プール冷却系熱交換器 代替燃料プール冷却系
	設置床	－		原子炉建屋原子炉棟　EL.29.00 m
	溢水防護上の区画番号	－		－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

(2) ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変 更 後
名称					代替燃料プール冷却系ポンプ
ポンプ	種類		－		ターボ形
	容量*1		m^3/h/個		124 以上 (124*2)
	揚程*1		m		40 以上 (40*2)
	最高使用圧力*1		MPa		0.98
	最高使用温度*1		℃		80
	主要寸法	吸込内径	mm		125.0*2
		吐出内径	mm		125.0*2
		ケーシング厚さ	mm		16.3 (19.0*2)
		たて	mm		500*2
		横	mm		1080*2
		高さ	mm		850*2
	材料	ケーシング	－	－	SFVC2B
		ケーシングカバー	－		SFVC2B
	個数		－		1
	取付箇所	系統名（ラインナ名）	－		代替燃料プール冷却系ポンプ 代替燃料プール冷却系
		設置床	－		原子炉建屋原子炉棟　EL.29.00 m
		溢水防護上の区画番号	－		－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		
原動機	種類		－		誘導電動機
	出力		kW/個		30*2
	個数		－		1
	取付箇所		－		ポンプと同じ

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：公称値を示す。

(8)　主配管（スプレイヘッダを含む。）の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径（mm）	厚さ（mm）	名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料
代替燃料プール冷却系	—					代替燃料プール冷却系	代替燃料プール冷却系配管分岐点～代替燃料プール冷却系ポンプ	1.38*2	80*2	216.3	8.2*1, *3	STPT410
								0.98*2		216.3	8.2*1, *3	STPT410
										216.3 /139.8	8.2*1 /6.6*1	STPT410
										139.8	6.6*1	STPT410
							代替燃料プール冷却系ポンプ～代替燃料プール冷却系熱交換器	0.98*2	80*2	165.2 /139.8	7.1*1 /6.6*1	STPT410
										165.2	7.1*1, *3	STPT410
										165.2 /114.3	7.1*1 /6.0*1	STPT410
										114.3	6.0*1	STPT410
							代替燃料プール冷却系熱交換器～代替燃料プール冷却系配管合流点	0.98*2	80*2	114.3	6.0*1	STPT410
										165.2 /114.3	7.1*1 /6.0*1	STPT410
										165.2	7.1*1, *3	STPT410
								1.38*2		165.2	7.1*1, *3	STPT410
										165.2	5.5（7.1*1）	SF440A
										165.2	7.1*1, *3	SUS304TP

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊3：エルボについては取り合う配管と同等以上の厚さである。

以下の設備は，既存の使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プール冷却浄化系）であり，使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール冷却系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

スキマサージタンク～代替燃料プール冷却系配管分岐点

代替燃料プール冷却系配管合流点～残留熱除去系及び燃料プール冷却系配管合流点

残留熱除去系及び燃料プール冷却系配管合流点～使用済燃料プール

5　核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 核燃料物資の取扱施設及び貯蔵施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・実用発電用原子炉の設置，運転等に関する規則の規程に基づく線量限度を定める告示（平成13年経済産業省告示第187号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・原子力発電所内の使用済燃料の乾式キャスク貯蔵について（平成4年8月27日原子力安全委員会了承） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＦＡ１－2007　日本機械学会　使用済燃料中間貯蔵規格　金属キャスク構造規格 ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009）	第2章　個別項目 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・実用発電用原子炉の設置，運転等に関する規則の規定に基づく線量限度を定める告示（平成13年経済産業省告示第187号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・原子力発電所内の使用済燃料の乾式キャスク貯蔵について（平成4年8月27日原子力安全委員会了承） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＦＡ１－2007　日本機械学会　使用済燃料中間貯蔵規格　金属キャスク構造規格 ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009）

変　更　前	変　更　後
・安全機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針（JEAG4612-2010） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1970）	・安全機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針（JEAG4612-2010） ・原子力発電所耐震設計技術指針　重要度分類・許容応力（JEAG4601・補-1984）

原子炉冷却系統施設

4　原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項

4.1　主蒸気系

(8)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
主蒸気系	主蒸気ヘッダ	主蒸気ヘッダ ～ 高圧タービン主塞止弁*3	8.62	302	762.0	56.4	STPT49	主蒸気系	変更なし						
					660.4	33.3	STPT49								
		主蒸気ヘッダ ～ バイパスチェスト*4	8.62	302	660.4	33.3	STPT49		変更なし						
					457.2	23.8	STPT49								
		バイパスチェスト ～ タービンバイパス減圧管*4	6.38	302	267.4	15.1	STPT49		変更なし						
					267.4	15.1	STPT480								
		主蒸気ヘッダ ～ 原子炉給水ポンプ駆動用 蒸気タービン主蒸気止め弁及び 弁 5-1V13*5	8.62	302	267.4	18.2	STPT42		変更なし						
					165.2	11.0	STPT49								
					165.2	11.0	STPT480								

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気ヘッダー　主蒸気ヘッダーより高圧タービン主蒸気止め弁入口まで」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気ヘッダーよりバイパスチェストをへて復水器まで」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気ヘッダーより原子炉給水ポンプ駆動用タービン主蒸気止め弁入口までおよびタービングランド蒸気蒸発器へ」と記載。

4.2　復水給水系

(8)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
復水給水系	タービン駆動原子炉給水ポンプ出口～原子炉給水ポンプ出口ヘッダ*3	15.51	233	609.6	52.4*2	STPT42	復水給水系	変更なし					
		12.93		609.6	46.0*2	STPT42							
		15.51		406.4	36.5*2	STPT42		—*4					
		12.93		406.4	30.9*2	STPT42							
	電動機駆動原子炉給水ポンプ出口～原子炉給水ポンプ出口ヘッダ*5	15.51	233	406.4	36.5*2	STPT49		変更なし					
				406.4	36.5*2	STPT42							
		12.93		406.4	30.9*2	STPT42							
	原子炉給水ポンプ出口ヘッダ～第1給水加熱器分岐支点*6	12.93	233	609.6	46.0*2	STPT42		変更なし					
				762.0	47.8*2	STPT49							
	第1給水加熱器分岐支点～第1給水加熱器*7	12.93	233	457.2	34.9*2	STPT42		変更なし					
	弁 6-3V65A～高圧復水ポンプ*8	1.38	63	318.5	10.3*2	STPT42		変更なし					
				457.2	[redacted](12.7*2)	SM50A							
				609.6	[redacted](12.7*2)	SM50A							
				762.0	[redacted](12.7*2)	SM50A							
				762.0	[redacted](15.1*2)	SM50A							
				914.4	[redacted](15.1*2)	SM50A							
				762.0	[redacted](12.0*2)	SM41B							
				457.2	[redacted](9.5*2)	SM41A		—*4					
	原子炉給水ポンプ吸込管 高圧復水ポンプ～タービン及び電動機駆動原子炉給水ポンプ	6.14	205	508.0	[redacted](20.6*2)	SM50A		変更なし					
				762.0	[redacted](28.6*2)	SM50A							
				609.6	[redacted](24.6*2)	SM50A							
				457.2	[redacted](19.0*2)	SM50A							
				457.2	[redacted](19.0*2)	SB480							
				457.2	19.0*2	STPT410							
				660.4	[redacted](25.4*2)	SM50A							
				457.2	34.9*2	STPT42							

注記　＊ 1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊ 2：公称値を示す。
＊ 3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン駆動原子炉給水ポンプ出口管」と記載。
＊ 4：当該ラインについては，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
＊ 5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動機駆動原子炉給水ポンプ出口管」と記載。
＊ 6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉給水ポンプ出口ヘッダ」と記載。
＊ 7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉給水ポンプ出口ヘッダより第 1 給水加熱器まで」と記載。
＊ 8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「復水脱塩装置入口ヘッダ第 1 弁（バイパスライン：第 1 仕切弁）より高圧復水ポンプまで」と記載。
＊ 9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-5　復水給水系配管の規格計算書」による。
＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号による工事計画の添付資料「Ⅲ-1-5-2　給水系配管の規格計算書」による。
＊11：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成 20 年 10 月 23 日付け発室発第 381 号による工事計画の添付資料「Ⅳ-2-1-3-2　主配管の強度計算書」による。

4.3　復水脱塩系

(4)　ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変　更　前	変更後
名称			脱塩器	変更なし
種類		－	球形*1	
容量		m³/h/個	818 以上*2 (818*3)	
最高使用圧力		MPa	1.38*4	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴内径*5	mm	3000*3	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted] (14.0*3)	
	管台外径（復水入口）	mm	318.5*3,*7	
	管台厚さ（復水入口）	mm	[redacted] (17.4*3,*7)	
	管台外径（復水出口）	mm	318.5*3,*7	
	管台厚さ（復水出口）	mm	[redacted] (17.4*3,*7)	
	管台外径（樹脂出口）	mm	165.2*3,*7	
	管台厚さ（樹脂出口）	mm	[redacted] (7.1*3,*7)	
	上部マンホール外径	mm	457.0*3,*7	
	上部マンホール厚さ	mm	[redacted] (14.0*3,*7)	
	上部マンホール平板厚さ	mm	[redacted] (50.0*3,*7)	
	下部マンホール外径	mm	457.0*3,*7	
	下部マンホール厚さ	mm	[redacted] (14.0*3,*7)	
	下部マンホール平板厚さ	mm	[redacted] (50.0*3,*7)	
	高さ	mm	3452*3,*8	
材料	胴体	－	SB42	
	上部マンホール	－	SB42*7	
	下部マンホール	－	SB42*7	
	上部マンホール蓋板	－	SF45*7	
	下部マンホール蓋板	－	SF45*7	
個数		－	10	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「混床式球形イオン交換器」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：公称値を示す。

＊4：ＳＩ単位に換算したものである。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 49 年 12 月 3 日付け 49 資庁第 19356 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4　復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-4-1　脱塩器」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4636mm」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			陽イオン樹脂再生塔	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形*1	
容　　量		m³/個	16.8 以上*2 (16.8*2,*3)	
最高使用圧力		MPa	0.70*4	
最高使用温度		℃	60	
主要寸法	胴内径*5	mm	2200*3	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted] (12.0*3)	
	鏡板厚さ（上部鏡板）*8	mm	[redacted] (12.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法（上部鏡板）	mm	2200*3,*7 (鏡板の内面における長径)	
			550*3,*7 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	鏡板厚さ（下部鏡板）*8	mm	17.3*7 (19.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法（下部鏡板）	mm	2200*3,*7 (鏡板の内面における長径)	
			550*3,*7 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	管台外径（新樹脂入口）	mm	60.5*3,*7	
	管台厚さ（新樹脂入口）	mm	[redacted] (5.5*3,*7)	
	管台外径（カチオン樹脂出口）	mm	89.1*3,*7	
	管台厚さ（カチオン樹脂出口）	mm	[redacted] (7.6*3,*7)	
	マンホール外径	mm	468.0*3,*7	
	マンホール厚さ	mm	[redacted] (9.0*3,*7)	
	マンホール蓋板厚さ	mm	[redacted] (35.0*3,*7)	
	高さ	mm	5081*3,*9	
材料	胴板	－	SB42	
	上部鏡板	－	SB42	
	下部鏡板	－	SB42	
	マンホール	－	SB42*7	
	マンホール蓋板	－	SB42*7	
個　　数		－	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦型円筒圧力式」と記載。
＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊3：公称値を示す。
＊4：ＳＩ単位に換算したものである。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4　復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-4-3　陽イオン樹脂再生塔」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「5661mm」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			陰イオン樹脂再生塔	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形*1	
容　　量		m³/個	8.1以上*2（8.1*2,*3）	
最高使用圧力		MPa	0.70*4	
最高使用温度		℃	60	
主要寸法	胴内径*5	mm	1750*3	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted]（12.0*3）	
	鏡板厚さ（上部鏡板）*8	mm	[redacted]（12.0*3）	
	鏡板の形状に係る寸法（上部鏡板）	mm	1750*3,*7 （鏡板の内面における長径）	
			438*3,*7 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	鏡板厚さ（下部鏡板）	mm	[redacted]（19.0*3）	
	鏡板の形状に係る寸法（下部鏡板）	mm	1750*3,*7 （鏡板の内面における長径）	
			438*3,*7 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	管台外径（空気入口）	mm	60.5*3,*7	
	管台厚さ（空気入口）	mm	[redacted]（5.5*3,*7）	
	管台外径（樹脂出口）	mm	89.1*3,*7	
	管台厚さ（樹脂出口）	mm	[redacted]（7.6*3,*7）	
	マンホール外径	mm	468.0*3,*7	
	マンホール厚さ	mm	[redacted]（9.0*3,*7）	
	マンホール蓋板厚さ	mm	[redacted]（35.0*3,*7）	
	高さ	mm	3992*3,*9	
材料	胴板	－	SB42	
	上部鏡板	－	SB42	
	下部鏡板	－	SB42	
	マンホール	－	SB42*7	
	マンホール蓋板	－	SB42*7	
個数		－	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦型円筒圧力式」と記載。
＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊3：公称値を示す。
＊4：ＳＩ単位に換算したものである。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4　復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-4-4　陰イオン樹脂再生塔」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4612mm」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			樹脂貯槽	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形*1	
容　　量		m³/個	16.3以上*2（16.3*2,*3）	
最高使用圧力		MPa	0.70*4	
最高使用温度		℃	60	
主要寸法	胴内径*5	mm	2200*3	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted]（12.0*3）	
	鏡板厚さ（上部鏡板）*8	mm	[redacted]（12.0*3）	
	鏡板の形状に係る寸法(上部鏡板)	mm	2200*3,*7 （鏡板の内面における長径）	
			550*3,*7 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	鏡板厚さ（下部鏡板）*8	mm	[redacted]（19.0*3）	
	鏡板の形状に係る寸法（下部鏡板）	mm	2200*3,*7 （鏡板の内面における長径）	
			550*3,*7 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	管台外径（樹脂出口）	mm	114.3*3,*7	
	管台厚さ（樹脂出口）	mm	[redacted]（8.6*3,*7）	
	マンホール外径	mm	468.0*3,*7	
	マンホール厚さ	mm	[redacted]（9.0*3,*7）	
	マンホール蓋板厚さ	mm	[redacted]（35.0*3,*7）	
	高さ	mm	4801*3,*9	
材料	胴板	－	SB42	
	上部鏡板	－	SB42	
	下部鏡板	－	SB42	
	マンホール	－	SB42*7	
	マンホール蓋板	－	SB42*7	
個数		－	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦型円筒圧力式」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：公称値を示す。

＊4：ＳＩ単位に換算したものである。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4　復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-4-5　樹脂貯槽」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「5573mm」と記載。

(8)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
復水脱塩系	脱塩器入口止め弁 ～ 脱塩器	1.38	66	318.5	10.3	STPT42	復水脱塩系	変更なし					
	脱塩器 ～ 脱塩器出口止め弁	1.38	66	318.5	10.3	STPT42		変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
　　＊2：公称値を示す。

4.4　給水加熱器ドレン系

(8)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前								変更後						
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
給水加熱器ドレン系	第1給水加熱器ドレン管	第1給水加熱器 ～ 第2給水加熱器*2	2.97*3	235	216.3	8.2*1	STPT49	給水加熱器ドレン系	変更なし					
			1.81*3	210	267.4	12.7*1	STPA23							
		第1給水加熱器ドレン管 ～ 弁 LCV-5-11.54A，B，C*2	2.97*3	235	216.3	8.2*1	STPT49		—*4					
	第2給水加熱器ドレン管	第2給水加熱器 ～ 第3給水加熱器*5	1.81*3	210	318.5	10.3*1	STPT42		変更なし					
			0.69*3	172	355.6	15.1*1	STPA23							
		第2給水加熱器ドレン管 ～ 弁 LCV-5-12.54A，B，C*5	1.81*3	210	318.5	10.3*1	STPT42		—*4					
	第3給水加熱器ドレン管	第3給水加熱器 ～ 第4給水加熱器*6	0.69*3	172	457.2	[redacted] (12.7*1)	SB42		変更なし					
					406.4	[redacted] (9.5*1)	SB42							
			0.42*3	155	457.2	[redacted] (12.7*1)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
		第3給水加熱器ドレン管 ～ 弁 LCV-5-13.54A，B，C*6	0.69*3	172	406.4	[redacted] (9.5*1)	SB42		—*4					
	第4給水加熱器ドレン管	第4給水加熱器 ～ 第5給水加熱器*8	0.42*3	155	508.0	[redacted] (9.5*1)	SB42		変更なし					
					457.2	[redacted] (9.5*1)	SB42							
			(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	508.0	[redacted] (12.7*1)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
給水加熱器ドレン系	第4給水加熱器ドレン管	第4給水加熱器ドレン管 ～ 弁 LCV-5-14.54A，B，C*8	0.42*3	155	457.2	[redacted] (9.5*1)	SB42	給水加熱器ドレン系	第4給水加熱器ドレン管	－*4					
	第5給水加熱器ドレン管	第5給水加熱器 ～ ドレンポンプ*9	(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	508.0	[redacted] (9.5*1)	SB42			変更なし					
					508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41B								
		第5給水加熱器ドレン管 ～ 弁 LCV-5-15.54A，B，C*9	(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	508.0	[redacted] (9.5*1)	SB42			－*4					
		ドレンポンプ ～ 第6給水加熱器	0.69	149	406.4	[redacted] (9.5*1)	SB42			変更なし					
			(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3		711.2	[redacted] (12.7*1)	STPA23相当 (ASTM A387 GR.C)								
	第6給水加熱器ドレン管	第6給水加熱器 ～ 弁 LCV-5-16.53A，B，C*10	(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	508.0*11	[redacted] (9.5*1)	SB42			変更なし					
		弁 LCV-5-16.53A，B，C ～ 主復水器*12	(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	558.8	[redacted] (12.7*1)	STPA23相当 (ASTM A387 GR.C)			－*4					
		第6給水加熱器 ～ 弁 LCV-5-16.54A，B，C*10	(正圧) 0.35*3 (負圧) 0.10*3	149	508.0*11	[redacted] (9.5*1)	SB42			－*4					
	湿分分離器ドレンタンク ～ 主復水器への管より分岐する給水加熱器への管*13		1.81*3	210	318.5*14	10.3*1	STPT42			変更なし					
					355.6	15.1*1	STPA23								
			0.69*3	172	355.6	15.1*1	STPA23								

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第一給水加熱器より第2給水加熱器および主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。
＊4：当該ラインについては，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第2給水加熱器より第3給水加熱器および主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第3給水加熱器より第4給水加熱器および主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊7：工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ－1-8 給水加熱器ドレン系配管の規格計算書」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第4給水加熱器より第5給水加熱器および主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第5給水加熱器よりドレンポンプおよび主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第6給水加熱器より主復水器入口調整弁まで」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「508」と記載。記載内容は，設計図書による。
＊12：記載の適正化を行う。本設備は既存の設備であり，既工事計画書では､原子炉冷却系統施設「蒸気タービンの附属設備」に記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「湿分分離器ドレンタンクから主復水器への管より分岐する給水加熱器への管（逆止弁より第3給水加熱器へ)」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「318.0」と記載。記載内容は，設計図書による。

4.5　抽気系

(8)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
抽気系	弁 RCV 6-2-11-50A，B，C ～ 第1給水加熱器（3系列）*3	2.97	235	355.6	11.1*2	STPA23	抽気系	変更なし					
	弁 RCV 6-2-12-50A，B，C ～ 第2給水加熱器（3系列）*4	1.81	210	508.0	□ (9.5*2)	STPA23 相当 □		変更なし					
	弁 RCV 6-2-13-50A，B，C ～ 第3給水加熱器（3系列）*6	0.69	172	406.4	□ (9.5*2)	STPA23 相当 □		変更なし					
				406.4	9.5*2	STPA23							
				267.4	9.3*2	STPA23							
		1.03	233	406.4	□ (9.5*2)	STPA23 相当 □		—*7					
	弁 RCV 6-2-14-50A，B，C ～ 第4給水加熱器（3系列）*8	0.42	155	762.0	□ (9.5*2)	STPA23 相当 □		変更なし					
				762.0	□ (9.5*2)	SCMV3							
	弁 RCV 6-2-15-50A，B，C ～ 第5給水加熱器（3系列）*11	(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	149	1016.0	□ (12.7*2)	STPA23 相当 □		変更なし					
				1016.0	□ (12.7*2)	SCMV3							
				762.0	□ (12.7*2)	SCMV3							
				762.0	□ (9.5*2)	STPA23 相当 □							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
抽気系	低圧タービン出口 ～ 第6給水加熱器 （主復水器内抽気管）	0.35	138	762.0*13	9.5*2*13	SCMV3*13	抽気系	変更なし					
				891.0*13	2.0*13×2*14	SUS316L*13		—*15					
				762.0*13	12.0*2*13	SUS316L*13							
				762.0	[redacted] (9.5*2)	SCMV3		変更なし					
	弁6-2V21 ～ 原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン*16	1.81	210	355.6	11.1*2	STPA23		変更なし					
				267.4	9.3*2	STPA23							
				318.5	10.3*2	STPA23							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧タービン出口逆止弁より第一給水加熱器まで（3系列）」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第２給水加熱器入口逆止弁より第二給水加熱器まで（3系列）」と記載。
＊5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月12日付け　51資庁第12241号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-7　抽気系配管の規格計算書」による。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン出口逆止弁より第三給水加熱器及びタービングランド蒸気蒸発器入口弁まで（3系列）」と記載。
＊7：記載の適正化を行う。主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン出口逆止弁より第四給水加熱器まで（3系列）」と記載。
＊9：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和56年9月14日付け　発発発第316号にて届け出た工事計画書の添付書類「1-1-2-1　管の強度計算書」による。
＊10：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年9月17日付け　発業発第315号にて届け出た工事計画書の添付書類「1-1-2-1　管の強度計算書」による。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン出口逆止弁より第五給水加熱器まで（3系列）」と記載。
＊12：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，平成23年5月25日付け　発室第77号にて届け出た工事計画書の添付書類「資料2-1-2　主配管の強度計算書」による。
＊13：記載の適正化を行う。建設時第16回工事計画認可申請書（50資庁第8313号　昭和50年10月6日認可）の「Ⅰ　工事計画書」に記載なし。工事計画届出書（発室発第381号　平成20年10月23日届出）にて，設計図書を確認し，記載。
＊14：2層構造を示す。
＊15：当該継手については，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。
＊16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン入口逆止弁よりタービンまで」と記載。

6　非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

6.7　低圧代替注水系

(3)　貯蔵槽の名称，種類，容量，主要寸法，材料，個数及び取付箇所

・常設

			変更前	変更後					
名称				西側淡水貯水設備*1					
				水槽A	水槽B	水槽C	水槽D	水槽E	水槽F
種類		―		鉄筋コンクリート貯槽					
容量		m³/個		4300 以上 (5000*2)					
最高使用圧力*3		MPa		静水頭					
最高使用温度*3		℃		66					
主要寸法	たて	mm	―	24500*2	24500*2	35000*2	44000*2	44000*2	5000*2
	横	mm		7000*2	7000*2	8000*2	8000*2	8000*2	8000*2
	高さ	mm		5000*2	5000*2	5000*2	5000*2	5000*2	5000*2
材料		―		鉄筋コンクリート					
個数		―		1					
取付箇所	系統名（ラインナ名）	―		西側淡水貯水設備 低圧代替注水系					
	設置床	―		常設代替高圧電源装置置場　EL.-21.00 m					
	溢水防護上の区画番号	―		―					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―							

注記　＊1：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール注水系及び代替水源供給設備），非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替水源供給設備），原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系，格納容器下部注水系，低圧代替注水系及び代替水源供給設備），原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器圧力逃がし装置及び代替水源供給設備）と兼用する。

＊2：公称値を示す。

＊3：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備に使用する場合の記載事項。

(7)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料(常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
低圧代替注水系	－						低圧代替注水系	高所西側接続口及び高所東側接続口～高所接続口配管合流点*2	1.4*3	66*3	216.3	7.1 (8.2*1)	SUS304TP
											216.3*4	7.1 (8.2*1) *4	SUS304TP*4
											216.3 /216.3 /216.3	7.1 (8.2*1) /7.1 (8.2*1) /7.1 (8.2*1)	SUS304TP

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系，格納容器下部注水系，低圧代替注水系）と兼用する。

＊3：重大事故等時における使用時の値

＊4：エルボを示す。

6.8　代替循環冷却系

(1)　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変　更　後	
名称					代替循環冷却系ポンプ*1	
ポンプ	種類		―		ターボ形	
	容量		m^3/h/個		250 以上（250*2）	
	揚程		m		120 以上（120*2）	
	最高使用圧力		MPa		吸込側 0.86 吐出側 3.45	
	最高使用温度		℃		80	
	主要寸法	吸込内径	mm		199.9*2	
		吐出内径	mm		151.0*2	
		ケーシング厚さ	mm		[redacted](55.0*2)	
		たて	mm		860*2	
		横	mm		2093*2	
		高さ	mm		1530*2	
	材料	ケーシング	―	―	[redacted]	
		ケーシングカバー	―		[redacted]	
	個数		―		1（予備 1）	
	取付箇所	系統名（ライン名）	―		代替循環冷却系ポンプ A 代替循環冷却系	代替循環冷却系ポンプ B 代替循環冷却系
		設置床	―		原子炉建屋 原子炉棟 EL.-4.00 m	原子炉建屋 原子炉棟 EL.-4.00 m
		溢水防護上の区画番号	―		RB-B2-9	RB-B2-4
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.-2.98 m 以上	EL.-2.98 m 以上

（続き）

			変更前	変　更　後
原動機	種　　類	－	－	誘導電動機
	出　　力	kW/個		140
	個　　数	－		1（予備 1）
	取　付　箇　所	－		ポンプと同じ

注記　＊1：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系）と兼用する。

＊2：公称値を示す。

(7)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
代替循環冷却系	—						代替循環冷却系	*2 A系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点 ～ 代替循環冷却系ポンプA	3.45*3	174*3	457.2	14.3	STPT410
											457.2 /318.5	14.3 /10.3	STPT410
											318.5	10.3*4	STPT410
									0.86*3	80*3	318.5	10.3*4	STPT410
											318.5 /216.3	10.3 /8.2	STPT410
								*2 代替循環冷却系ポンプA ～ 代替循環冷却系 代替格納容器スプレイ 配管A系分岐点	3.45*3	80*3	165.2	7.1	STPT410
											216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410
											216.3	8.2*4	STPT410
											216.3 /216.3 /165.2	8.2 /8.2 /7.1	STPT410
								*2 代替循環冷却系 代替格納容器スプレイ 配管A系分岐点 ～ 代替循環冷却系 テスト配管A系分岐点	3.45*3	80*3	216.3 /216.3 /216.3	8.2 /8.2 /8.2	STPT410
								*2 代替循環冷却系 テスト配管A系分岐点 ～ A系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点	3.45*3	80*3	216.3 /114.3	8.2 /6.0	STPT410
											114.3	6.0*4	STPT410
									3.45*3	174*3	114.3	6.0*4	STPT410
											216.3 /114.3	8.2 /6.0	STPT410

（続き）

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
代替循環冷却系	—						代替循環冷却系	B系統代替循環冷却系ポンプ吸込管分岐点 ～ 代替循環冷却系ポンプB *2	3.45*3	174*3	457.2	14.3	STPT410
											457.2 /318.5	14.3 /10.3	STPT410
											318.5	10.3*4	STPT410
									0.86*3	80*3	318.5	10.3*4	STPT410
											318.5 /216.3	10.3 /8.2	STPT410
								代替循環冷却系ポンプB ～ 代替循環冷却系代替格納容器スプレイ配管B系分岐点 *2	3.45*3	80*3	165.2	7.1	STPT410
											216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410
											216.3	8.2*4	STPT410
											216.3 /216.3 /216.3	8.2 /8.2 /8.2	STPT410
								代替循環冷却系代替格納容器スプレイ配管B系分岐点 ～ 代替循環冷却系テスト配管B系分岐点 *2	3.45*3	80*3	216.3	8.2	STPT410
											216.3 /216.3 /114.3	8.2 /8.2 /6.0	STPT410
								代替循環冷却系テスト配管B系分岐点 ～ B系統代替循環冷却系原子炉注水配管合流点 *2	3.45*3	80*3	114.3	6.0*4	STPT410
									3.45*3	174*3	114.3	6.0	STPT410
											216.3 /114.3	8.2 /6.0	STPT410

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替循環冷却系）と兼用。

＊3：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊4：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

7　原子炉冷却材補給設備に係る次の事項

7.2　補給水系

(2)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変　更　前	変更後
名称			復水貯蔵タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形*1	
容量		m^3/個	2000*2	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴内径*3	mm	13400*2	
	胴板厚さ*4	mm	[redacted](20.0*2)	
	底板厚さ*4	mm	20.0*2	
	平板（屋根）厚さ*4	mm	9.0*2	
	管台外径（HPCS給水用座）	mm	508.0*2,*6	
	管台厚さ（HPCS給水用座）	mm	[redacted](16.0*2,*5)	
	管台外径（復水戻り用座）	mm	114.3*2,*6	
	管台厚さ（復水戻り用座）	mm	[redacted](6.0*2,*5)	
	管台外径（復水移送ポンプ用座）	mm	267.4*2,*6	
	管台厚さ（復水移送ポンプ用座）	mm	[redacted](9.3*2,*5)	
	管台外径（CRD出口用座）	mm	165.2*2,*6	
	管台厚さ（CRD出口用座）	mm	[redacted](7.1*2,*5)	
	管台外径（ラドウェスト系座）	mm	114.3*2,*6	
	管台厚さ（ラドウェスト系座）	mm	[redacted](6.0*2,*5)	
	管台外径（マンホール座）	mm	624*2,*6	
	管台厚さ（マンホール座）	mm	[redacted](12.0*2,*5)	
	胴マンホール平板厚さ	mm	19.0*2,*6	
	高さ	mm	16000*2	
材料	胴板	―	SM41C*7	
	底板	―	SM41C*7	
	胴マンホール平板	―	SM41C*7	
個数		―	2	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全溶接鋼板円筒縦形固定屋根地上貯槽」と記載。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。
＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 49 年 7 月 22 日付け 49 資庁第 14239 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-2　補給水系復水貯蔵タンクの規格計算書」による。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41C[redacted]」と記載。

(5)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
補給水系	復水貯蔵タンク ～ 主復水器及び復水移送ポンプ*3	1.03	66	267.4	9.3*2	STPG38	補給水系	変更なし					
				267.4	9.3*2	SUS304TP							
				267.4	4.0*2	SUS304TP							
				165.2	7.1*2	SUS304TP							
				165.2	3.4*2	SUS304TP							
				165.2	7.1*2	STPG38							
				165.2	7.1*2	STPT42							
	復水貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系	1.03	66	508.0	[redacted] (16.0*2)	SUS304TP		変更なし					
				508.0	9.5*2	SUS304TP							
				508.0*5, *6	9.5*2, *5, *6	SUS304*5, *6							
				508.0	[redacted] (9.5*2)	SM41B							
				216.3	4.0*2	SUS304TP							
				216.3*5, *6	12.7*2, *5, *6	SUS304*5, *6							
				216.3*5, *6	8.2*2, *5, *6	SUS304*5, *6							
				216.3*5, *6	4.0*2, *5, *6	SUS304*5, *6							
				216.3	12.7*2	SUS304TP							
	復水系 ～ 復水貯蔵タンク*7	1.38	63	114.3	6.0*2	STPG38		変更なし					
				114.3	6.0*2	STPG370							
				114.3	6.0*2	STPT42		－*8					
		1.03	66	114.3	6.0*2	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
補給水系	放射性廃棄物処理系 ～ 復水貯蔵タンク*9	1.03	66	216.3	4.0*2	SUS304TP	補給水系	－*8					
				216.3	8.2*2	SUS304TP							
				216.3	8.2*2	STPG370							
				114.3	3.0*2	SUS304TP		変更なし					
				114.3	6.0*2	SUS304TP							
	復水移送ポンプ ～ 主復水器*10	1.32	66	165.2	3.4*2	SUS304TP		－*8					
				114.3	6.0*2	SUS304TP		変更なし					
				114.3	6.0*2	STPG38							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「復水貯蔵タンクより復水器，復水移送ポンプ吸込みおよび復水脱塩系へ」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年8月2日付け50資庁第6924号にて認可された工事計画書の添付資料「Ⅲ-1-2 補給水系配管の規格計算書」による。
＊5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。
＊6：エルボを示す。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「復水系より復水貯蔵タンクまで及び残留熱除去系，制御棒駆動水圧系へ」と記載。
＊8：当該ラインについては，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料プール冷却浄化系および放射性廃棄物処理系より復水貯蔵タンクまで」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「復水移送ポンプ出口ヘッダより復水器およびグランド蒸気蒸発器まで」と記載。

8　原子炉補機冷却設備に係る次の事項

8.1　原子炉補機冷却系

(2)　熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変　更　前	変更後
名　　称				原子炉補機冷却系熱交換器	変更なし
種　　類			―	横置直管式*1	
容　　量*2			MW/個	14.944*3	
管側	最高使用圧力		MPa	0.86*3	
	最高使用温度		℃	66	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.86*3	
	最高使用温度		℃	66	
伝熱面積			m²/個	1580 以上（1580*4）	
主要寸法	管側	胴内径*5	mm	2200*4	
		胴板厚さ*6	mm	[redacted](16.0*4)	
		鏡板厚さ	mm	[redacted](19.0*4,*7)	
		平板厚さ	mm	[redacted](130.0*4,*7)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	2200*4,*7（鏡板の中央部における内面の半径）	
			mm	220*4,*7（鏡板のすみの丸みの内半径）	
		管台外径（管側入口）	mm	609.6*4,*7	
		管台厚さ（管側入口）	mm	[redacted](9.0*4,*7)	
		管台外径（管側出口）	mm	609.6*4,*7	
		管台厚さ（管側出口）	mm	[redacted](9.0*4,*7)	
		胴フランジ厚さ	mm	90.0*4,*7	
	胴側	胴内径*7	mm	2200*4	
		胴板厚さ*8	mm	[redacted](19.0*4)	
		管台外径（胴側入口）	mm	406.4*4,*7	
		管台厚さ（胴側入口）	mm	[redacted](14.0*4,*7)	
		管台外径（胴側出口）	mm	406.4*4,*7	
		管台厚さ（胴側出口）	mm	[redacted](14.0*4,*7)	

（続き）

				変　更　前			変更後
主要寸法	管板厚さ		mm	[redacted]（115.0*4）			変更なし
	伝熱管外径*10		mm	22.22*4			
	伝熱管厚さ*11		mm	[redacted]（1.24*4）			
	全長		mm	8300*4			
材料	管側	胴板*12	－	SM41A			
		鏡板	－	SM41A*7			
		平板	－	SM41A*7			
		胴フランジ	－	SF50*7			
	胴側	胴板*12	－	SM41A			
	管板		－	SB42*13			
	伝熱管*14		－	B_sTF3-0			
個数			－	3*15			
*16 取付箇所	系統名（ライン名）		－	原子炉補機冷却系熱交換器A 原子炉補機冷却系	原子炉補機冷却系熱交換器B 原子炉補機冷却系	原子炉補機冷却系熱交換器C 原子炉補機冷却系	
	設置床		－	タービン建屋 EL.10.00 m	タービン建屋 EL.10.00 m	タービン建屋 EL.10.00 m	
	溢水防護上の区画番号		－	－			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		－	－			

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横置直管形」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。
＊4：公称値を示す。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「二次側内径」と記載。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「二次側板厚」と記載。
＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 49 年 12 月 3 日付け 49 資庁第 19356 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-2　原子炉補機冷却系熱交換器の規格計算書」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「一次側内径」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「一次側板厚」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却管外径」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却管厚さ」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SB42+NB_sPⅠクラッド」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却管」と記載。
＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3（常用 2 予備 1）」と記載。
＊16：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(9)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却系	原子炉補機冷却水ポンプ出口管	原子炉補機冷却水ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系 熱交換器及び 原子炉冷却材浄化系非再生熱交換器*3	0.86	66	318.5	10.3*2	STPG38	原子炉補機冷却系	変更なし						
					406.4	[redacted] (9.5*2)	SM41A								
					609.6	[redacted] (9.5*2)	SM41A								
					508.0	[redacted] (9.5*2)	SM41A								
					267.4	9.3*2	STPG38								
					216.3	8.2*2	STPG38								
					165.2	7.1*2	STPG38								
	原子炉補機冷却系熱交換器入口管	燃料プール冷却浄化系 熱交換器及び原子炉冷却材浄化系非再生熱交換器 ～ 原子炉補機冷却系熱交換器*5	0.86	66	216.3	8.2*2	STPG38		変更なし						
					318.5	10.3*2	STPG38								
					165.2	7.1*2	STPG38								
					267.4	9.3*2	STPG38								
					406.4	[redacted] (9.5*2)	SM41A								
					609.6	[redacted] (9.5*2)	SM41A								

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力[*1] (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径[*2] (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却系	原子炉補機冷却水ポンプ出口管 ～ 排ガス復水器及び廃液濃縮器 復水器[*6]	0.86	66	406.4	[redacted] (9.5[*2])	SM41A	原子炉補機冷却系	変更なし					
				165.2	7.1[*2]	STPG38							
				406.4	21.4[*2]	STPT42							
				318.5	10.3[*2]	STPT42							
						STPT410							
				267.4	9.3[*2]	STPT42							
				165.2	7.1[*2]	STPT42		—[*7]					
				89.1	5.5[*2]	STPG38							
				89.1	5.5[*2]	STPT42							
				76.3	5.2[*2]	STPG38							
	排ガス復水器及び廃液濃縮復水器 ～ 原子炉補機冷却系熱交換器 入口管[*6]	0.86	66	165.2	7.1[*2]	STPG38		変更なし					
				406.4	[redacted] (9.5[*2])	SM41A							
				267.4	9.3[*2]	STPT42							
				318.5	10.3[*2]	STPT42							
				165.2	7.1[*2]	STPT42		—[*7]					
				89.1	5.5[*2]	STPG38							
				89.1	5.5[*2]	STPT42							
				76.3	5.2[*2]	STPG38							

（続き）

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却系	原子炉補機冷却水ポンプ出口 分岐点 ～ 原子炉冷却材浄化系循環ポンプクーラ，サンプルクーラ，制御棒駆動水圧系ポンプオイルクーラ，原子炉棟機器ドレンサンプ熱交換器の入口母管*6	0.86	66	89.1	5.5*2	STPG38	原子炉補機冷却系	—*7					
	原子炉補機冷却器熱交換器出口 ～ 原子炉補機冷却水ポンプ入口	0.86	66	406.4	[redacted] (9.5*2)	SM41A		変更なし					
				609.6	[redacted] (9.5)	SM41A							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料プール冷却浄化系熱交換器および原子炉冷却材浄化系非再生熱交換器入口管」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け　50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-3　原子炉補機冷却系配管の規格計算書」による。

＊5：当該ラインについては，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉冷却材浄化系循環ポンプクーラ，サンプルクーラ，制御棒駆動水圧系ポンプオイルクーラ，原子炉建屋機器ドレンサンプ熱交換器の出入口母管および廃棄物処理系，排ガス復水器の入口，出口管」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料プール冷却浄化系熱交換器および原子炉冷却材浄化系非再生熱交換器出口より原子炉補機冷却系熱交換器入口まで」と記載。

8.3　緊急用海水系

(6)　ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前	変　更　後
名称				緊急用海水系ストレーナ
種類		－		バスケット形ダブルストレーナ
容量		m^3/h/個		
最高使用圧力		MPa		
最高使用温度		℃		
主要寸法	胴内径	mm		576*
	胴板厚さ	mm		
	カバー厚さ	mm		
	管台口径（海水入口）	mm		350*
	管台厚さ（海水入口）	mm		
	管台口径（海水出口）	mm		350*
	管台厚さ（海水出口）	mm		
	全長	mm	－	
材料	上部胴	－		SCS14
	下部胴	－		SCS14
	ボンネット	－		SCS14
	カバー	－		SCS14
個数		－		1
取付箇所	系統名（ラインナ名）	－		緊急用海水系ストレーナ 緊急用海水系
	設置床	－		緊急用海水ポンプピット EL.0.80 m
	溢水防護上の区画番号	－		ES-B1-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－

注記　＊：公称値を示す。

(9)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合には，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
緊急用海水系		—					緊急用海水系	緊急用海水ポンプ～代替燃料プール冷却系配管分岐点	2.45*3	38*3	355.6	11.1*4	STPT410
											355.6 /355.6 /355.6	11.1 /11.1 /11.1	STPT410
											355.6 /355.6 /165.2	11.1 /11.1 /7.1	STPT410
								代替燃料プール冷却系配管分岐点～残留熱除去系海水系E12-F113A，B弁	2.45*3	38*3	355.6	11.1*4	STPT410
											355.6 /355.6 /—	11.1 /11.1 /—	STPT410
											355.6 /318.5	11.1 /10.3	STPT410
											318.5	10.3*4	STPT410
											318.5 /318.5 /318.5	10.3 /10.3 /10.3	STPT410
								代替燃料プール冷却系配管分岐点～代替燃料プール冷却系熱交換器	2.45*3	38*3	165.2	7.1*4	STPT410
									0.98*3	38*3	165.2	7.1*4	STPT410
											165.2 /165.2 /—	7.1 /7.1 /—	STPT410
											165.2 /114.3	7.1 /6.0	STPT410
											114.3	6.0*4	STPT410

（続き）

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
緊急用海水系		—					緊急用海水系	代替燃料プール冷却系熱交換器～残留熱除去系海水系3-12V-115A，B弁	0.98*3	66*3	114.3	6.0	STPT410
											165.2 /114.3	7.1 /6.0	STPT410
											165.2	7.1*4	STPT410
											165.2 /165.2 /165.2	7.1 /7.1 /7.1	STPT410
								残留熱除去系海水系 E12-F113A，B弁～A，B系統緊急用海水系配管合流点	3.45*3	38*3	318.5	10.3*4	STPT410
								残留熱除去系海水系 3-12V-115A，B弁～A，B系統代替燃料プール冷却系緊急用海水配管合流点	3.45*3	66*3	165.2	7.1	STPT410
											216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410

注記　＊1：外径は公称値を示す。
＊2：厚さは公称値を示す。
＊3：重大事故等時における使用時の値を示す。
＊4：エルボについては取り合う配管と同等以上の厚さである。

8.4　補機冷却系海水系

(3)　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変　更　前			変　更　後
名　　称				補機冷却系海水ポンプ			変更なし
ポンプ	種　　類		―	ターボ型*1			
	容　　量		m³/h/個	2838.8 以上*1 (2838.8*1, *2)			
	揚　　程		m	44.5 以上*1 (44.5*1, *2)			
	最高使用圧力		MPa	0.86*1			
	最高使用温度		℃	38*1			
	主要寸法	吸込口径	mm	1100*1			
		吐出口径	mm	750*1			
		コラム外径	mm	774*1			
		コラム厚さ	mm	[redacted] (12*1, *2)			
		高さ	mm	9360*1			
	材料	ケーシング	―	[redacted]			
	個　　数		―	3*1			
	取付箇所	系統名（ライン名）	―	補機冷却系 海水ポンプ A 補機冷却系海水系	補機冷却系 海水ポンプ B 補機冷却系海水系	補機冷却系 海水ポンプ C 補機冷却系海水系	
		設置床	―	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*1	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*1	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*1	
		溢水防護上の区画番号	―	（取水口）*1	（取水口）*1	（取水口）*1	
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	―	―*3	―*3	―*3	
原動機	種　　類		―	誘導電動機*1			
	出　　力		kW/個	485*1			
	個　　数		―	3*1			
	取付箇所		―	ポンプと同じ*1			

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
　　＊2：公称値を示す。
　　＊3：溢水源がなく溢水による影響がない区画。

(6) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後
名称			補機冷却系海水ストレーナ		変更なし
種類		－	たて置円筒形*1		
容量		m^3/h/個	5678 以上*1 (5678*1)		
最高使用圧力		MPa	0.86*1, *3		
最高使用温度		℃	38*1		
主要寸法	胴内径	mm			
	胴厚さ	mm			
	カバー厚さ	mm			
	管台口径（海水入口）	mm			
	管台厚さ（海水入口）	mm			
	管台口径（海水出口）	mm			
	管台厚さ（海水出口）	mm			
	全長	mm			
材料	上部胴	－	SCS14*1		
	下部胴	－	SCS14*1		
	カバー	－	SCS14*1		
個数		－	2*1		
取付箇所*1	系統名（ライン名）	－	補機冷却系 海水ストレーナA 補機冷却系 海水系	補機冷却系 海水ストレーナB 補機冷却系 海水系	
	設置床	－	海水ポンプ室　EL.0.80 m		
	溢水防護上の区画番号	－	－		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

(9)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
補機冷却系海水系	補機冷却系海水ポンプ ～ 補機冷却系海水ストレーナ	0.86	38	762.0	9.5	SM41A	補機冷却系海水系	変更なし					
				762.0	9.5	SM400B							
				914.4	12.7	SM41A							
	補機冷却系海水ストレーナ ～ 原子炉補機冷却系熱交換器出口	0.86	38	914.4	12.7	SM41A		変更なし					
				914.4	10.3	SM400B							
				762.0	12.7	SM41A							
				762.0	12.7	SM400B							
				508.0	9.5	SM41A							
				508.0	9.5	SM400B							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
　　＊2：公称値を示す。

9 原子炉冷却材浄化設備に係る次の事項

9.1 原子炉冷却材浄化系

(1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変更前	変更後
名称				再生熱交換器	変更なし
種類			－	横置三胴U字管式*1	
容量			MW/個	25.75*2	
管側	最高使用圧力		MPa	9.80	
	最高使用温度		℃	302	
胴側	最高使用圧力		MPa	9.80	
	最高使用温度		℃	302	
伝熱面積			m^2/個	149.5 以上／1 胴×3 胴 (149.5*3／1 胴×3 胴)	
主要寸法	管側	胴内径*4	mm	760*3	
		胴板厚さ*5	mm	[redacted](97.5*3)	
		平板厚さ*7	mm	[redacted](126.0*3)	
		管台外径（管側入口）	mm	165.2*3,*6	
		管台厚さ（管側入口）	mm	[redacted](11.0*3,*6)	
		管台外径（管側出口）	mm	165.2*3,*6	
		管台厚さ（管側出口）	mm	[redacted](11.0*3,*6)	
	胴側	胴内径*8	mm	700*3	
		胴板厚さ*9	mm	[redacted](41.0*3)	
		鏡板厚さ*10	mm	[redacted](45.0*3)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	700*3,*6 （鏡板の内面における長径） 175*3,*6 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
		管台外径（胴側入口）	mm	165.2*3,*6	
		管台厚さ（胴側入口）	mm	[redacted](11.0*3,*6)	
		管台外径（胴側出口）	mm	165.2*3,*6	
		管台厚さ（胴側出口）	mm	[redacted](11.0*3,*6)	
	管板厚さ		mm	[redacted](117.0*3)	
	伝熱管外径		mm	15.9*3	
	伝熱管厚さ		mm	[redacted](2.6*3)	
	全長		mm	5550*3	

（続き）

				変　更　前	変更後
材料	管側	胴板	－	SUSF316	変更なし
		平板	－	SF490A	
	胴側	胴板	－	SUS316	
		鏡板	－	SUS316	
	管板		－	SUSF316	
	伝熱管		－	SUS316LTB	
個数			－	1（3胴）	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横置Ｕ字管式」と記載。
＊2：ＳＩ単位に換算したもの。
＊3：公称値を示す。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴部厚さ」と記載。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成10年10月27日付け発管発第81号にて届出した工事計画書の添付書類「Ⅳ-2-1-1-1　原子炉冷却材浄化系再生熱交換器の強度計算書」による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室平板厚さ」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴部鏡板厚さ」と記載。

				変　更　前	変更後
名　　称				非再生熱交換器	変更なし
種　　類			－	横置二胴U字管式*1	
容　　量			MW/個	8.84*2, *3	
管側	最高使用圧力		MPa	9.80*3	
	最高使用温度		℃	302	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.86*3	
	最高使用温度		℃	188	
伝熱面積			m²/個	139以上／1胴×2胴 (139*4／1胴×2胴)	
主要寸法	管側	胴内径*4	mm	740*4, *6	
		胴板厚さ*6	mm	[redacted](85.0*4, *9)	
		平板厚さ	mm	[redacted](118.0*4, *8)	
		管台外径(管側入口)	mm	165.2*4, *8	
		管台厚さ(管側入口)	mm	[redacted](11.0*4, *8)	
		管台外径(管側出口)	mm	165.2*4, *8	
		管台厚さ(管側出口)	mm	[redacted](11.0*4, *8)	
	胴側	胴内径*9	mm	650*4	
		胴板厚さ*10	mm	[redacted](12.0*4)	
		鏡板厚さ*10	mm	[redacted](12.0*4)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	650*4, *8 (鏡板の内面における長径)	
				162.5*4, *8 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
		管台外径(胴側入口)	mm	216.3*4, *8	
		管台厚さ(胴側入口)	mm	[redacted](8.2*4, *8)	
		管台外径(胴側出口)	mm	216.3*4, *8	
		管台厚さ(胴側出口)	mm	[redacted](8.2*4, *8)	
	管板厚さ		mm	[redacted](103.0*4)	
	伝熱管外径		mm	15.9*4	
	伝熱管厚さ		mm	[redacted](1.6*4)	
	全長		mm	6210*4	

（続き）

				変　更　前	変更後
材料	管側	胴　　板*12	－	SF50*13	変更なし
		平　　板	－	SF50*8	
	胴側	胴　　板*14	－	SB42	
		鏡　　板*14	－	SB42	
	管　　板		－	SF50*13	
	伝　熱　管		－	SUS304LTB	
個　数			－	1（2胴）	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横置Ｕ字管式」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1.21×10^{5}kg/h」と記載。記載内容は設計図書による。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：公称値を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室側内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「680 mm」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室側板厚」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁 4488 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-1-2　非再生熱交換器の規格計算書」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「115 mm」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体側内径」と記載。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体側板厚」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SF50 」と記載。

＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

(3) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変　更　前	変更後
名　　称			原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器	変更なし
種　　類		―	縦置円筒型*1	
容　　量		m^3/h/個	61.3 以上（61.3*2）	
最高使用圧力		MPa	9.80*3	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴内径	mm	1058*2	
	胴板厚さ*4	mm	[redacted]（60.0*2,*6）	
	鏡板厚さ*7	mm	[redacted]（65.0*2,*8）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1058*2, *5 （鏡板の内面における長径）	
		mm	264.5*2, *5 （鏡板の内面における短径の 2 分の 1）	
	管台外径（入口管）	mm	139.8*2,*5	
	管台厚さ（入口管）	mm	[redacted]（9.5*2,*5）	
	管台外径（出口管）	mm	139.8*2,*5	
	管台厚さ（出口管）	mm	[redacted]（9.5*2,*5）	
	本体フランジ厚さ	mm	140.0*2,*5	
	平板厚さ	mm	[redacted]（260*2,*5）	
	高さ*9	mm	2864.5*2,*10	
材料	胴板*11	―	SB42*12	
	鏡板	―	SB42*12	
	平板*13	―	SF50*14	
	本体フランジ	―	SF50*5	
個　　数		―	2	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒竪形（四脚支持）」と記載。
＊2：公称値を示す。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁 4488 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-1-3　フィルタ脱塩器規格計算書」による。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「60+4 mm [redacted]」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「65+4 mm [redacted]」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4260 mm」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SB42+[redacted]」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「上蓋板」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SF50+[redacted]」と記載。

(6)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉冷却材浄化系	再生熱交換器入口管	循環ポンプ出口 ～ 再生熱交換器入口*2	9.80	302	114.3	8.6	STPT49	原子炉冷却材浄化系	変更なし					
					165.2	11.0	STPT49							
					165.2	11.0	STPT480							
					165.2	11.0	SUS316TP							
	再生熱交換器連結管*3		9.80	302	165.2	11.0	SUS316TP		変更なし					
	再生熱交換器出口 ～ 非再生熱交換器入口		9.80	302	165.2	11.0	SUS316TP		変更なし					
					165.2	11.0	STPT49							
					165.2	11.0	STPT480							
	非再生熱交換器連結管*3		9.80	302	165.2	11.0	SUS304TP		変更なし					
	フィルタ脱塩器入口管	非再生熱交換器出口 ～ 弁 G33-32A,B*4	9.80*5	66	165.2	11.0	STPT49		変更なし					
					165.2	11.0	STPT480							
					114.3	8.6	STPT49							
		弁 G33-32A,B ～ フィルタ脱塩器*6	9.80*5	66	114.3	8.6	SUS304TP		変更なし					
					165.2	11.0	SUS304TP							
					139.8	9.5	SUS304TP							

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉冷却材浄化系	フィルタ脱塩器出口管	フィルタ脱塩器 ～ 弁 G33-31A,B*7	9.80*5	66	139.8	9.5	SUS304TP	原子炉冷却材浄化系	変更なし						
					165.2	11.0	SUS304TP								
					114.3	8.6	SUS304TP								
		弁 G33-31A,B ～ 再生熱交換器入口*8	9.80	66	165.2	11.0	STPT49		変更なし						
					165.2	11.0	SUS316TP								
					114.3	8.6	STPT49								

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画には「循環ポンプ出口より再生熱交換器入口まで（再生熱交換器入口管）」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画には「再生熱交換器連結管及び非再生熱交換器連結管」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画には「非再生熱交換器出口より濾過脱塩器へ（濾過脱塩器入口管）」と記載。
＊5：ＳＩ単位に換算したもの。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画には「（フィルタ脱塩器入口管）非再生熱交換器よりフィルタ脱塩器まで」と記載。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画には「（フィルタ脱塩器戻り管）フィルタ脱塩器より再生熱交換器へ」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画には「ろ過脱塩器より再生熱交換器入口まで（ろ過脱塩器出口管）」と記載。

11　原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 原子炉冷却系統施設に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。なお，以下に示す原子炉冷却系統施設に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）」に示す。	第1章　共通項目 原子炉冷却系統施設に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。なお，以下に示す原子炉冷却系統施設に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設)」に示す。
・建築基準法（昭和25年5月24日法律第201号） 建築基準法施行令（昭和25年11月16日政令第338号） 建築基準法施行規則（昭和25年11月16日建設省令第40号）	・建築基準法（昭和25年5月24日法律第201号） 建築基準法施行令（昭和25年11月16日政令第338号） 建築基準法施行規則（昭和25年11月16日建設省令第40号）
	・高圧ガス保安法（昭和26年6月7日法律第204号） 容器保安規則（昭和41年5月25日通商産業省令第50号）
・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） 消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） 消防法施行規則（昭和36年4月1日自治省令第6号）	・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） 消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） 消防法施行規則（昭和36年4月1日自治省令第6号）
・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号）	・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号）
・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号）	・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号）

変　更　前	変　更　後
・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成 17 年 12 月 15 日原院第 5 号）	・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成 17 年 12 月 15 日原院第 5 号）
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306194 号）
	・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成 25 年 5 月 17 日 20130507 商局第 2 号）
	・原子力発電工作物に係る電気設備の技術基準の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306199 号）
・発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会）	・発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会）
・実用発電用原子炉施設への航空機落下確率の評価基準について（平成 14・07・29 原院第 4 号）	・実用発電用原子炉施設への航空機落下確率の評価基準について（平成 21・06・25 原院第 1 号平成 21 年 6 月 30 日原子力安全・保安院制定）
・原子力発電所耐震設計技術指針　重要度分類・許容応力編（JEAG4601・補-1984）	・原子力発電所耐震設計技術指針　重要度分類・許容応力編（JEAG4601・補-1984）
・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）	・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）
・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1991 追補版）	・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1991 追補版）
	・乾式キャスクを用いる使用済み燃料中間貯蔵建屋の基礎構造の設計に関する技術規程（JEAC4616-2009）
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2002　発電用原子力設備規格　維持規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2002　発電用原子力設備規格　維持規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2008　発電用原子力設備規格　維持規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2008　発電用原子力設備規格　維持規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2001　発電用原子力設備規格　溶接規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2001　発電用原子力設備規格　溶接規格

変　更　前	変　更　後
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2007　発電用原子力設備規格　溶接規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2007　発電用原子力設備規格　溶接規格
	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2012/2013　発電用原子力設備規格　溶接規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2001　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2001　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2012　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＪ１－2012　発電用原子力設備規格　材料規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＥ１－2003　発電用原子力設備規格　コンクリート製原子炉格納容器規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＥ１－2003　発電用原子力設備規格　コンクリート製原子炉格納容器規格
・【事例規格】発電用原子力設備における応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮（NC-CC-002）発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・【事例規格】発電用原子力設備における応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮（NC-CC-002）発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・BWR 配管における混合ガス蓄積防止に関するガイドライン（平成 17 年 10 月社団法人火力原子力発電技術協会）	・BWR 配管における混合ガス蓄積防止に関するガイドライン（平成 17 年 10 月社団法人火力原子力発電技術協会）
	・土木学会　2002 年　コンクリート標準示方書〔構造性能照査編〕
	・土木学会　2005 年　原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル
・日本建築学会　1990 年　建築耐震設計における保有耐力と変形性能	・日本建築学会　1990 年　建築耐震設計における保有耐力と変形性能

変　更　前	変　更　後
・日本建築学会　1991 年　鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 －許容応力度設計法－ ・日本建築学会　1987 年　鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説　－許容応力度設計と保有水平耐力－ ・日本建築学会　2005 年　原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 ・日本建築学会　1988 年　鋼構造設計規準　－許容応力度設計法－ ・日本建築学会　1988 年　建築基礎構造設計指針	・日本建築学会　1999 年　鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 －許容応力度設計法－ ・日本建築学会　2001 年　鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説　－許容応力度設計と保有水平耐力－ ・日本建築学会　2005 年　原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 ・日本建築学会　2005 年　鋼構造設計規準　－許容応力度設計法－ ・日本建築学会　2001 年　建築基礎構造設計指針 ・日本建築学会　2017 年　鋼構造塑性設計指針 ・日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅳ下部構造編）・同解説 ・日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅱ鋼橋編）・同解説 ・日本道路協会　平成 4 年改訂版　杭基礎設計便覧 ・2015 年　建築物の構造関係技術基準解説書（国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人建築研究所） ・ＪＩＳ　Ｇ　３３１２－2010　鉄筋コンクリート用棒鋼

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）　　（1／4）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
建築基準法（昭和 25 年 5 月 24 日法律第 201 号） 建築基準法施行令（昭和 25 年 11 月 16 日政令第 338 号） 建築基準法施行規則（昭和 25 年 11 月 16 日建設省令第 40 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高圧ガス保安法（昭和 26 年 6 月 7 日法律第 204 号） 容器保安規則（昭和 41 年 5 月 25 日通商産業省令第 50 号）	－	－		－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	○
消防法（昭和 23 年 7 月 24 日法律第 186 号） 消防法施行令（昭和 36 年 3 月 25 日政令第 37 号） 消防法施行規則（昭和 36 年 4 月 1 日自治省令第 6 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○
発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和 45 年通商産業省告示第 501 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	－
発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和 55 年通商産業省告示第 501 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	－
発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成 17 年 12 月 15 日原院第 5 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	○	－
実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306194 号）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発電用火力設備の技術基準の解釈（平成 25 年 5 月 17 日 20130507 商局第 2 号）	－	－		－	－	－	－	－	○	－	○	－	－	○	－	○
原子力発電工作物に係る電気設備の技術基準の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306199 号）	－	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○
発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
実用発電用原子炉施設への航空機落下確率の評価基準について（平成 21・06・25 原院第 1 号平成 21 年 6 月 30 日原子力安全・保安院制定）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（注）変更後のみ適用する施設

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）　　（2／4）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
原子力発電所耐震設計技術指針　重要度分類・許容応力編（JEAG4601・補-1984）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1991 追補版）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乾式キャスクを用いる使用済み燃料中間貯蔵建屋の基礎構造の設計に関する技術規程（JEAC4616-2009）	－	○		－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	○
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2002　発電用原子力設備規格　維持規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2008　発電用原子力設備規格　維持規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2001　発電用原子力設備規格　溶接規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2007　発電用原子力設備規格　溶接規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＢ１－2012/2013　発電用原子力設備規格　溶接規格	－	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2001　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	－
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	○
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2012　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	－	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）変更後のみ適用する施設

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）　　（3／4）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＪ１－2012　発電用原子力設備規格　材料規格	○	○		○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	－	○
ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＥ１－2003　発電用原子力設備規格　コンクリート製原子炉格納容器規格	○	○		－	○	○	○	○	○	－	－	○	○	－	－	－
【事例規格】発電用原子力設備における応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮（NC-CC-002）発電用原子力設備規格　設計・建設規格	○	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
BWR 配管における混合ガス蓄積防止に関するガイドライン（平成 17 年 10 月社団法人火力原子力発電技術協会）	－	－		－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－
土木学会　2002 年　コンクリート標準示方書〔構造性能照査編〕	－	－		－	－	－	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○
土木学会　2005 年　原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル	－	－		－	－	－	－	－	○	－	－	－	○	－	○	－
日本建築学会　1990 年　建築耐震設計における保有耐力と変形性能	－	－		－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
日本建築学会　1999 年　鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説　－許容応力度設計法－	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本建築学会　2001 年　鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説　－許容応力度設計と保有水平耐力－	－	○		－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
日本建築学会　2005 年　原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	○	○		－	○	○	○	○	○	－	－	○	○	－	－	○
日本建築学会　2005 年　鋼構造設計規準 －許容応力度設計法－	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本建築学会　2001 年　建築基礎構造設計指針	－	○		－	－	○	○	○	○	－	－	－	○	－	－	○

（注）変更後のみ適用する施設

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）　　（4／4）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
日本建築学会　2017 年　鋼構造塑性設計指針	－	○		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅳ下部構造編）・同解説	－	－		－	－	－	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○
日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅱ鋼橋編）・同解説	－	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	－
日本道路協会　平成 4 年改訂版　杭基礎設計便覧	－	－		－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－
2015 年　建築物の構造関係技術基準解説書（国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人建築研究所）	○	○		－	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－	－	○
ＪＩＳ　Ｇ　３３１２－2010　鉄筋コンクリート用棒鋼	－	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○

（注）変更後のみ適用する施設

変　更　前	変　更　後
第2章　個別項目 原子炉冷却系統施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第2章　個別項目 原子炉冷却系統施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号）
・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）	・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）
・軽水型動力炉の非常用炉心冷却系の性能評価指針（平成4年6月11日原子力安全委員会一部改訂）	・軽水型動力炉の非常用炉心冷却系の性能評価指針（平成4年6月11日原子力安全委員会一部改訂）
・沸騰水型原子力発電設備における非常用炉心冷却設備及び格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価及び構造強度評価について（平成17年10月25日付け平成17・10・13）	・非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）（平成20・02・12原院第5号平成20年2月27日原子力安全・保安院制定）
・BWR MARK Ⅱ型格納容器圧力抑制系に加わる動荷重の設計指針（原子力安全委員会 昭和56年7月）	・BWR MARK Ⅱ型格納容器圧力抑制系に加わる動荷重の設計指針（原子力安全委員会 昭和56年7月）
・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004）	・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004）
・ＪＳＭＥ　Ｓ　０１２－1998　配管内円柱状構造物の流力振動評価指針	・ＪＳＭＥ　Ｓ　０１２－1998　配管内円柱状構造物の流力振動評価指針
・ＪＳＭＥ　Ｓ　０１７－2003　配管の高サイクル熱疲労に関する評価指針	・ＪＳＭＥ　Ｓ　０１７－2003　配管の高サイクル熱疲労に関する評価指針

変　更　前	変　更　後
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格
	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2002　発電用原子力設備規格　維持規格
	・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＡ１－2008　発電用原子力設備規格　維持規格
	・ＪＩＳ　Ｂ　８２６５-2003　圧力容器の構造
・ASME CODE SEC Ⅷ PRESSURE VESSELS DIVISION 1 (1971) APPENDIX Ⅱ	・ASME CODE SEC Ⅷ PRESSURE VESSELS DIVISION 1 (1971) APPENDIX Ⅱ
・ASME CODE SEC Ⅲ (1971)	・ASME CODE SEC Ⅲ (1971)
・ANSI B16.5 (1968)	・ANSI B16.5 (1968)

上記の他「耐震設計に係る工認審査ガイド」「原子力発電所の火山影響評価ガイド」「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」「原子力発電所の外部火災影響評価ガイド」を参照する。

1　蒸気タービン本体に係る次の事項

(2)　車室，円板，隔板，噴口，翼，車軸の主要寸法及び材料並びに管の最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
蒸気タービンの管	高圧タービン ～ 湿分分離器	1.81	210	1219.2	[redacted] (15.9*2)	SB42 相当 [redacted]	蒸気タービンの管	変更なし					
	湿分分離器 ～ 中間塞止加減弁	1.81	210	1066.8	[redacted] (15.9*2)	SB42 相当 [redacted]		変更なし					
	主塞止弁 ～ 高圧タービン	8.62	302	711.2	[redacted] (31.8*2)	STPT42 相当 [redacted]		変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 7 月 1 日付け建建発第 60 号にての工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　蒸気タービンに付属する主要配管の規格計算書」による。

(4) 復水器に係る次の事項

イ 種類，冷却水温度，冷気面積及び材料

			変 更 前	変 更 後
名 称			主復水器	変更なし
種 類		－	三胴表面接触一折流 6 区分方式	
冷 却 水 温 度		℃	19（標準温度）	
冷 気 面 積		m^2	76830	
材料	胴 体	－	SMA41A	
	管 板	－	NBsP1	
	冷 却 管	－	BsTF3-0，CNTF1	
	水 室	－	SS41	

2　蒸気タービンの附属設備に係る次の事項

(2)　熱交換器（湿分分離器を含む。）に係る次の事項

イ　種類，容量又は発生蒸気量，入口及び出口の温度，最高使用圧力（一次側及び二次側の別に記載すること。），最高使用温度（一次側及び二次側の別に記載すること。），主要寸法，材料並びに個数

			変　更　前	変更後
名称			湿分分離器	変更なし
種類		－	横置円筒形*1	
発生蒸気量*2		kg/h/個	[redacted]以上（2692114*3）	
温度	入口	℃	[redacted]	
	出口	℃		
最高使用圧力	一次側	MPa	1.81*5	
	二次側	MPa	－*6	
最高使用温度	一次側	℃	210	
	二次側	℃	－*6	
主要寸法	胴内径*7	mm	3200.4*3	
	胴板厚さ*8	mm	[redacted](31.75*3)	
	鏡板厚さ（左右）	mm	[redacted]31.75*3, *10)	
	鏡板長径（左右）	mm	3200.4*3, *9	
	鏡板短径（左右）	mm	800.1*3, *9	
	管台外径（入口）	mm	1558.8*3, *9	
	管台外径（出口）	mm	1092.2*3, *9	
	マンホール外径	mm	800.0*3, *9	
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted](144.0*3, *9)	
材料	全長*11	mm	14789.15*3	
	胴板*12	－	SGV49 相当（[redacted]）*13	
	鏡板	－	SGV49 相当（[redacted]）*13	
	マンホール平板	－	SF45 相当（[redacted]）*9	
個数		－	2	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横形波型式」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「最大蒸気流量」と記載。

＊3：公称値を示す。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊5：ＳＩ単位に換算したものである。

＊6：本設備は，波板式の湿分分離器であり，二次側がないことを示す。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「厚さ」と記載。
＊9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 23 日付け 50 資庁第 11106 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-1　蒸気タービンに附属する熱交換器の規格計算書　Ⅲ-1-1-2　湿分分離器」による。
＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 23 日付け 50 資庁第 11106 号にて認可された工事計画の添付図面「第 2-5 図　湿分分離器構造図」による。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV49 相当（SA-516 Gr70）」と記載。

2.1 抽気系

(4) 管等に係る次の事項

イ 主配管の最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
抽気系	高圧タービン（第5段） ～ RCV 6-2-11-50A,B,C*3	2.97	235	355.6	11.1*2	STPA23	抽気系	変更なし					
				406.4	[redacted] (12.7*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
				609.6	[redacted] (17.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
	クロスアラウンド管 ～ RCV 6-2-12-50A,B,C*5	1.81	210	457.2	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)		変更なし					
				609.6	[redacted] (12.7*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
				508.0	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
	低圧タービン（10段） ～ RCV 6-2-13-50A,B,C*7	0.69	172	267.4	9.3*2	STPA23		変更なし					
				406.4	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							

（続き）

変更前						変更後						
	名称	最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
抽気系	低圧タービン（11段） ～ RCV 6-2-14-50A,B,C*8	0.42	155	457.2	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)	抽気系	変更なし					
				762.0	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
	低圧タービン（13段） ～ RCV 6-2-15-50A,B,C*9	(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	149	508.0	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)		変更なし					
				508.0*10	[redacted] (9.5*10)	SCMV3-2*10							
				762.0	[redacted] (9.5*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
				1016.0	[redacted] (12.7*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)							
				165.2	7.1*2	STPA23		—*11					
	クロスアラウンド管 ～ 6-2V21*12	1.81	210	355.6	11.1*2	STPA23		変更なし					
	原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン排気管 ～ 主復水器*13	(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	149	1676.4	[redacted] (16.0*2)	STPA23 相当 (ASTM A387 GR.C)		変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧タービン（第5段）より第1給水加熱器入口逆止弁まで」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画書の添付資料「Ⅲ-1-7 抽気系配管の規格計算書」による。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「クロスアラウンド管より第2給水加熱器入口逆止弁まで」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け　建建発第 112 号にて届け出た工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-4　抽気系配管の規格計算書」による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン（10 段）より第 3 給水加熱器入口逆止弁まで」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン（11 段）より第 4 給水加熱器入口逆止弁まで」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低圧タービン（13 段）より第 5 給水加熱器入口逆止弁まで及び主復水器まで」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊11：当該ラインについては，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「クロスアラウンド管より原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン入口逆止弁まで」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン排気管」と記載。

2.2 給水加熱器ドレン系

(4) 管等に係る次の事項

イ 主配管の最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
給水加熱器ドレン系	湿分分離器ドレンタンク ～ 第３給水加熱器への逆止弁*3	1.81	210	318.5	10.3*2	STPT42	給水加熱器ドレン系	変更なし					
		(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	149	355.6	15.1*2	STPA23		—*4					

注記 ＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「湿分分離器ドレンタンクより主復水器までおよび第３給水加熱器への逆止弁まで」と記載。

＊4：本設備は，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。

2.3　復水系

(4)　管等に係る次の事項

イ　主配管の最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
復水系	低圧復水ポンプ吸込管	主復水器 ～ 低圧復水ポンプ*3	(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	60	609.6	[redacted] (9.5*2)	SM41A	復水系	変更なし						
					1219.2	[redacted] (12.7*2)	SM41A								
					1066.8	[redacted] (12.7*2)	SM41A								
					1074.0	[redacted] (12.0*2)	SM41B								
	低圧復水主管	低圧復水ポンプ ～ 弁 6-3V67 (弁 6-3V65A のバイパス管除く) *5	1.38	63	609.6	[redacted] (12.7*2)	SM50A		変更なし						
					914.4	[redacted] (15.1*2)	SM50A								
	弁 6-3V67 ～ 復水脱塩塔入口弁*6		1.38*4	63*4	914.4*4	[redacted] (15.1*2,*4)	SM50A*4		変更なし						
					762.0*4	[redacted] (15.1*2,*4)	SM50A*4								
					609.6*4	[redacted] (12.7*2,*4)	SM50A*4								
					457.2*4	[redacted] (12.7*2,*4)	SM50A*4								
					318.5*4	10.3*2,*4	STPT42*4								

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(低圧復水ポンプ吸込管) 主復水器より低圧復水ポンプまで」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて届出した工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-5-1　復水系配管の規格計算書」による。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(低圧復水主管) 低圧復水ポンプより復水脱塩装置入口ヘッダ第１弁まで（ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗｲﾝ：第１仕切弁まで)」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

2.4　復水器空気抽出系

(4)　管等に係る次の事項

イ　主配管の最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
復水器空気抽出系	主復水器出口 ～ 主蒸気式空気抽出器出口弁*3	(正圧) 0.35 (負圧) 0.10	38	318.5	10.3*2	STPT42	復水器空気抽出系	変更なし					
				762.0	[redacted] (9.5*2)	SM41A							
				457.2	[redacted] (9.5*2)	SM41A							
				267.4	9.3*2	STPT42							
		2.41	205	267.4	9.3*2	STPT42							
				165.2	7.1*2	STPT42							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「復水器出口より蒸気式空気抽出器出口止め弁および真空ポンプ気水分離器出口逆止弁まで」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 23 日付け 50 資庁第 11106 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-3　復水器空気抽出系配管の規格計算書」による。

(4) 管等に係る次の事項

ロ 蒸気だめ，ドレンタンクの最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法及び材料

			変 更 前	変更後
名称			湿分分離器ドレンタンク	変更なし
最高使用圧力		MPa	18.1*1	
最高使用温度		℃	210	
主要寸法	胴内径*2	mm	1365*3	
	胴板厚さ*4	mm	[redacted] (22.0*3)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (22.0*3,*5)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1365*3,*5 (鏡板の内面における長径)	
			341.3*3,*5 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	管台外径（ドレン出口）	mm	318.5*3,*5	
	管台厚さ（ドレン出口）	mm	[redacted] (10.3 *3,*5)	
	全長	mm	2750*3	
材料	胴板*6	－	SB42	
	鏡板	－	SB42*5	

注記 ＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊3：公称値を示す。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 23 日付け 50 資庁第 11106 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-1 蒸気タービンに附属する熱交換器の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-1-3 湿分分離器ドレンタンク」による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

3　蒸気タービンの基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 蒸気タービンに適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 蒸気タービンに適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 蒸気タービンに適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格	第2章　個別項目 蒸気タービンに適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格

計測制御系統施設

3　制御材駆動装置に係る次の事項

(2)　制御棒駆動水圧設備に係る次の事項

(2.1)　制御棒駆動水圧系

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前	変更後
名　　称			スクラム排出水容器	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		ℓ/個	94.5 以上*1　(94.5*1, *2)	
最高使用圧力		MPa	8.62*3	
最高使用温度		℃	138	
主要寸法	胴内径	mm	300	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (27.8*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (27.8*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	300*2, *4 (鏡板の内面における長径)	
			75*2, *4 (鏡板の内面における短径の 2 分の 1)	
	高さ*5	mm	955*2	
材料	胴板	－	STPT42	
	鏡板	－	SB42	
個　　数		－	2	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	制御棒駆動水圧系	
	設置床	－	原子炉建屋　EL.20300mm*1	
	溢水防護上の区画番号	－	－	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 61 年 3 月 5 日付け 61 資庁第 11 号にて認可された工事計画の添付書類「1-1-1-1　スクラム排出水容器の強度計算書」による。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

ホ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
制御棒駆動水圧系	駆動水ポンプ吸込管	補給水系 ～ 弁 C12-F013A，B*3	1.03	66	114.3	6.0	STPT42	制御棒駆動水圧系	変更なし						
	駆動水ポンプ吸込管	弁 C12-F013A，B ～ 駆動水ポンプ*4	1.03	66	114.3	6.0	STPT42		変更なし						
	駆動水ポンプ吐出管	駆動水ポンプ ～ 駆動水フィルタ	12.06	66	60.5	8.7	STPT42		変更なし						
	マスターコントロール内配管	駆動水フィルタ ～ 排出水配管合流点*6	12.06	66	60.5	5.5	SUS304TP		変更なし						
					48.6	5.1	SUS304TP								
					33.4	4.5	SUS304TP		―*5						
					26.7	3.9	SUS304TP								
					89.1	11.1	STPT42								
					48.6	7.1	STPT42		変更なし						

（続き）

変更前								変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
制御棒駆動水圧系	駆動水配管	マスターコントロール内配管 ～ マニホールド*7	12.06	66	33.4	4.5	SUS304TP	制御棒駆動水圧系	変更なし						
					21.3	3.7	SUS304TP								
	冷却水配管	マスターコントロール内配管 ～ マニホールド*8	12.06	66	60.5	5.5	SUS304TP		変更なし						
					33.4	4.5	SUS304TP								
					21.3	3.7	SUS304TP								
	アキュムレータ充填水配管	マスターコントロール内配管 ～ アキュームレータ充填水逆止弁*9	12.06	66	60.5	5.5	SUS304TP		変更なし						
					33.4	4.5	SUS304TP								
					21.3	3.7	SUS304TP								
	スクラム排出水配管	排出水配管制御ユニット出口 ～ スクラム排出水容器	8.62	138	26.7	3.9	SUS304TP		変更なし						
					165.2	11.0	STPT42								
					216.3	12.7	STPT42								
					216.3	18.2	STPT42								
					355.6	27.8	STPT42								

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(駆動水ポンプ吸込管）補給水系より駆動水ポンプ吸込弁まで」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(駆動水ポンプ吸込管）駆動水ポンプ吸込弁より駆動水ポンプまで」と記載。
＊5：当該配管については，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(マスターコントロール内配管）駆動水フィルタよりポンプテストバイパスラインの分岐点まで」と記載。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(駆動水配管）マスターコントロール内配管より制御ユニットまで」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(冷却水配管）マスターコントロール内配管より制御ユニットまで」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(アキュームレータ充填水配管）マスターコントロール内配管より制御ユニットまで」と記載。

以下の設備のうち貫通配管は，既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器の原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部であり，制御材駆動装置の制御棒駆動水圧設備（制御棒駆動水圧系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

原子炉格納容器配管貫通部　X-9A,B,C,D

原子炉格納容器配管貫通部　X-10A,B,C,D

(2) 原子炉圧力容器本体の入口又は出口の原子炉冷却材の圧力，温度又は流量（代替注水の流量を含む。）を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名称			－	代替循環冷却系原子炉注水流量	
検出器の種類		－		差圧式流量検出器	
計測範囲		m^3/h		0～150	
警報動作範囲		－		－	
個数		－		2	
取付箇所	系統名（ラインン名）	－		代替循環冷却系原子炉注水流量 代替循環冷却系 A	代替循環冷却系原子炉注水流量 代替循環冷却系 B
	設置床	－		原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m	原子炉建屋原子炉棟 EL. -4.00 m
	溢水防護上の区画番号	－		RB-2-8	RB-B2-3
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL. 14.20 m 以上	EL. -3.36 m 以上

			変更前	変更後	
名称			－	代替循環冷却系ポンプ入口温度	
検出器の種類		－		熱電対	
計測範囲		℃		0～100	
警報動作範囲		－		－	
個数		－		2	
取付箇所	系統名（ライン名）	－		代替循環冷却系ポンプ入口温度 代替循環冷却系 A	代替循環冷却系ポンプ入口温度 代替循環冷却系 B
	設置床	－		原子炉建屋原子炉棟　EL.-4.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－		RB-B2-8	RB-B2-4
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.-3.80 m 以上	EL.-2.98 m 以上

(3) 原子炉圧力容器本体内の圧力又は水位を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="4">変 更 前</td><td colspan="3">変 更 後</td></tr>
<tr><td colspan="3">名称*1</td><td colspan="4">原子炉圧力</td><td colspan="3" rowspan="6">変更なし</td></tr>
<tr><td colspan="3">検出器の種類</td><td>－</td><td colspan="3">弾性圧力検出器*2</td></tr>
<tr><td colspan="3">計測範囲*3</td><td>MPa</td><td>0～8.5*4, 6</td><td>6～7.5*5, 6</td><td>0～10.5*5</td><td>0～10*5</td></tr>
<tr><td colspan="3">警報動作範囲</td><td>MPa</td><td colspan="2">－</td><td>0～10*5</td></tr>
<tr><td colspan="3">個数</td><td>－</td><td>1*7, 8</td><td>1*7, 9</td><td>2*7, 10</td><td>4*7, 11</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td>系統名（ライン名）</td><td>－</td><td colspan="4">原子炉圧力</td></tr>
<tr><td>設置床</td><td>－</td><td colspan="4">原子炉建屋原子炉棟　EL.20.30 m*5</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td colspan="4" rowspan="2">－</td><td rowspan="2">変更なし</td><td>RB-3-1*12
RB-3-2*13</td><td>RB-3-1*14
RB-3-2*15</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td colspan="2">EL.20.50 m以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「項目」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器測定範囲」と記載。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：本計測装置は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「12」と記載。

＊8：対象計器は，PT-C34-N005

＊9：対象計器は，PT-C34-N008

＊10：対象計器は，PT-B22-N051A，PT-B22-N051B

＊11：対象計器は，PT-B22-N078A，PT-B22-N078B，PT-B22-N078C，PT-B22-N078D

＊12：対象計器は，PT-B22-N051A

＊13：対象計器は，PT-B22-N051B

＊14：対象計器は，PT-B22-N078C，PT-B22-N078D

＊15：対象計器は，PT-B22-N078A，PT-B22-N078B

			変 更 前	変 更 後
名称			原子炉水位（燃料域）*1	変更なし
検出器の種類		－	差圧式水位検出器	
計測範囲		mm	-3800～1300*2	
警報動作範囲		－	－	
個数		－	2	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	原子炉水位（燃料域）	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟　EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-2-8*3 RB-2-9*4
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.14.20 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：基準点は，原子炉圧力容器零レベルより 920 cm 上とする。（燃料有効長頂部）

＊3：対象計器は，LT-B22-N044A

＊4：対象計器は，LT-B22-N044B

(4) 原子炉格納容器本体内の圧力，温度，酸素ガス濃度又は水素ガス濃度を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後		
名称			ドライウェル圧力*1		変更なし		
検出器の種類		－	弾性圧力検出器		変更なし		弾性圧力検出器
計測範囲		－	0～20 kPa[gage]	0～500 kPa[abs]			0～1 MPa[abs]
警報動作範囲		－	－				－
個数		－	12*2, 3	2*4, 5			1
取付箇所	系統名（ライン名）	－	－				－
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m				原子炉建屋原子炉棟 EL.29.00 m
	溢水防護上の区画番号	－	－		RB-3-1*2 RB-3-2*3	RB-3-1*4 RB-3-2*5	RB-4-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			EL.20.50 m以上		EL.29.20 m以上

注記 ＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：対象計器は，PT-B22-N067B，PT-B22-N067D，PT-B22-N094A，PT-B22-N094C，PT-C72-N050C，PT-C72-N050D

＊3：対象計器は，PT-B22-N067A，PT-B22-N067C，PT-B22-N094B，PT-B22-N094D，PT-C72-N050A，PT-C72-N050B

＊4：対象計器は，PT-26-79.51A

＊5：対象計器は，PT-26-79.51B

(5) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る容器内又は貯蔵槽内の水位を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称			―	西側淡水貯水設備水位
検出器の種類		―		電波式水位検出器
計測範囲		m		0～6.5
警報動作範囲		―		―
個数		―		1
取付箇所	系統名（ライン名）	―		西側淡水貯水設備水位
	設置床	―		常設代替高圧電源装置置場　EL.-13.50 m
	溢水防護上の区画番号	―		HP-MB2-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		―*

注記　＊：溢水源がなく溢水による影響がない区画。

(10) 原子炉格納容器本体への冷却材流量を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名称			―	代替循環冷却系格納容器スプレイ流量	
検出器の種類		―		差圧式流量検出器	
計測範囲		m^3/h		0～300	
警報動作範囲		―		―	
個数		―		2	
取付箇所	系統名（ラインナ名）	―		代替循環冷却系格納容器スプレイ流量 代替循環冷却系 A	代替循環冷却系格納容器スプレイ流量 代替循環冷却系 B
	設置床	―		原子炉建屋原子炉棟　EL.-4.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―		RB-B2-8	RB-B2-3
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.-3.80 m 以上	EL.-3.36 m 以上

6　原子炉非常停止信号の種類，検出器の種類，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。），原子炉非常停止に要する信号の個数及び設定値並びに原子炉非常停止信号を発信させない条件

・常設

<table>
<tr><th colspan="8">変　更　前</th><th colspan="8">変　更　後</th></tr>
<tr><th>原子炉非常停止信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>原子炉非常停止に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>原子炉非常停止信号を発信させない条件*3</th><th>原子炉非常停止信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>原子炉非常停止信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="4">原子炉
圧力高</td><td rowspan="4">原子炉
圧力
検出器*4</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">7.25 MPa
以下*6, 7</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*5</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*8
RB-3-2*9</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">原子炉
水位低</td><td rowspan="4">原子炉
水位
検出器*10</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">1370 cm
以上（原子炉圧力容器零レベルより）*11</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*5</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*12
RB-3-2*13</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ドライ
ウェル
圧力高</td><td rowspan="4">格納容器
圧力
検出器*4</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">13.7 kPa
以下*6, 14</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*5</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*15
RB-3-2*16</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m
以上</td></tr>
</table>

（続き）

<table>
<tr><th colspan="10">変　更　前</th><th colspan="10">変　更　後</th></tr>
<tr><th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類*1</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">原子炉非常停止に要する信号の個数*2</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号を発信させない条件*3</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">原子炉非常停止に要する信号の個数</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号を発信させない条件</th></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="4">中性子束高*17</td><td rowspan="4">平均出力領域計装</td><td rowspan="4">6*18</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2*18</td><td>原子炉モード・スイッチ*19「運転」位置で定格出力の120 %以下*20</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL. 14.00 m*5</td><td rowspan="2">原子炉モード・スイッチ「運転」位置以外で定格出力の15 %以下*21</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>自動可変設定*22</td></tr>
<tr><td rowspan="4">起動領域計装</td><td rowspan="4">8</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">最終レンジ目盛の120/125以下（中間領域）*23</td><td rowspan="4">原子炉モード・スイッチ「運転」位置*24</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL. 14.00 m*5</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スクラム水排出容器水位高*17, 25</td><td rowspan="4">スクラム水排出容器水位検出器*26</td><td rowspan="4">8</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">94.5 L/個に相当する水位以下（合計189 L）*27</td><td rowspan="4">原子炉モード・スイッチ「燃料取替」又は「停止」位置，かつスクラム水排出容器水位高バイパススイッチ「バイパス」位置*28</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL. 20.30 m*5</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td></tr>
</table>

（続き）

変更前							変更後						
原子炉非常停止信号の種類*1	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数*2	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件*3	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件
原子炉出力ペリオド短*17	起動領域計装	8	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋 原子炉棟 EL. 14.00 m*5 －	2	10秒以上*29（中間領域）*30	原子炉モード・スイッチ「運転」位置*24	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		
中性子束計装動作不能*17	平均出力領域計装	6*18	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋 原子炉棟 EL. 14.00 m*5 －	2*18	－	－	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		
	起動領域計装	8	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋 原子炉棟 EL. 14.00 m*5 －	2	－	原子炉モード・スイッチ「運転」位置*24	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		

（続き）

変更前							変更後						
原子炉非常停止信号の種類*1	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数*2	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件*3	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件
中性子束低*17	平均出力領域計装	6*18	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m*5 －	2*18	2 %以上*31	－	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		
主蒸気管放射能高	主蒸気管放射能検出器*32	4	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m*5 －	2	通常運転時の放射能の10倍以下	－	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：RB-3-2 溢水防護上の配慮が必要な高さ：EL.20.50 m以上*33	変更なし		
主蒸気隔離弁閉*17	主蒸気隔離弁位置検出器*34	8	系統名（ライン名）：－ 設置床：原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m*5 －	3	開度90 %以上*35	原子炉圧力4.13 MPa以下，かつ原子炉モード・スイッチ「運転」位置以外*6, 36	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		
主蒸気止め弁閉*17	主蒸気止め弁位置検出器*34	4	系統名（ライン名）：－ 設置床：タービン建屋 EL.8.20 m*5 －	3	開度90 %以上*35	原子炉出力30 %以下	変更なし			変更なし 溢水防護上の区画番号：－ 溢水防護上の配慮が必要な高さ：－	変更なし		

（続き）

<table>
<tr><th colspan="10">変　更　前</th><th colspan="10">変　更　後</th></tr>
<tr><th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類*1</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">原子炉非常停止に要する信号の個数*2</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号を発信させない条件*3</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">原子炉非常停止に要する信号の個数</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">原子炉非常停止信号を発信させない条件</th></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="3">蒸気加減弁急速閉
*17</td><td rowspan="3">電気油圧式調速装置圧力検出器*4</td><td rowspan="3">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">4.12 MPa
以上*6, 37</td><td rowspan="3">原子炉出力
30 %以下</td><td rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>タービン建屋
EL. 8.20 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="3">原子炉モード・スイッチ「停止」
*38</td><td rowspan="3">原子炉モード・スイッチ*39</td><td rowspan="3">1</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋付属棟
EL. 18.00 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>CS-2-1</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－*40</td></tr>
<tr><td rowspan="3">手　動</td><td rowspan="3">手動スイッチ*41</td><td rowspan="3">2</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋付属棟
EL. 18.00 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>CS-2-1</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－*40</td></tr>
</table>

（続き）

<table>
<tr><th colspan="7">変　更　前</th><th colspan="7">変　更　後</th></tr>
<tr><th>原子炉非常停止信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>原子炉非常停止に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>原子炉非常停止信号を発信させない条件*3</th><th>原子炉非常停止信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="4">取　付　箇　所</th><th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>原子炉非常停止信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="12">地震
加速度大</td><td rowspan="12">地震加速度検出器*42</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="12">2</td><td rowspan="4">水平方向
300 Gal
以下*43</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td><td colspan="4">変更なし</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL.14.00 m</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td colspan="2">RB-2-8*46
RB-2-9*47</td></tr>
<tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td colspan="2">EL.14.20 m以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">水平方向
250 Gal
以下*44</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td><td colspan="4">変更なし</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL.-4.00 m</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-B2-3*48</td><td>RB-B2-8*49</td></tr>
<tr><td rowspan="3">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>想定破損</td><td rowspan="3">－</td><td>－*50</td></tr>
<tr><td>地震</td><td>EL.-3.80 m以上</td></tr>
<tr><td>消火水</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">鉛直方向
120 Gal
以下*45</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td><td colspan="4">変更なし</td><td rowspan="4" colspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL.-4.00 m</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-B2-3*51</td><td>RB-B2-8*52</td></tr>
<tr><td rowspan="3">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>想定破損</td><td rowspan="3">－</td><td>－*50</td></tr>
<tr><td>地震</td><td>EL.-3.80 m以上</td></tr>
<tr><td>消火水</td><td>－</td></tr>
</table>

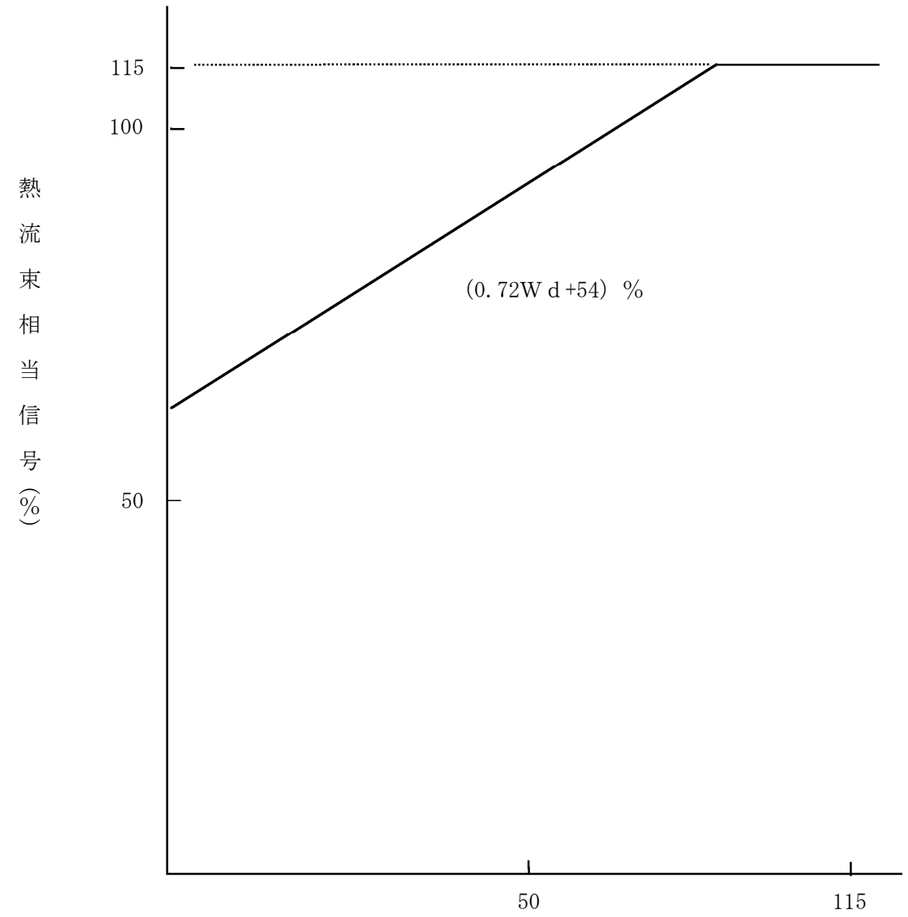
（続き）

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉スクラム信号の種類」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉スクラムに要する個数」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉スクラムをバイパスするインターロック」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。
＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊6：ＳＩ単位に換算したもの。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「74 kg/cm^{2}g」と記載。
＊8：対象計器は，PT-B22-N078C，PT-B22-N078D
＊9：対象計器は，PT-B22-N078A，PT-B22-N078B
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1370 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊12：対象計器は，LT-B22-N080C，LT-B22-N080D
＊13：対象計器は，LT-B22-N080A，LT-B22-N080B
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^{2}g」と記載。
＊15：対象計器は，PT-C72-N050C，PT-C72-N050D
＊16：対象計器は，PT-C72-N050A，PT-C72-N050B
＊17：本信号は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。
＊18：個数はチャンネル数を示す。
＊19：原子炉モード・スイッチには「停止」，「燃料取替」，「起動」及び「運転」の位置がある。
＊20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「運転」位置で定格出力の 120 ％」と記載。
＊21：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「運転」位置以外で定格出力の 15 ％」と記載。
＊22：原子炉非常停止信号の設定値と炉心流量との関係を第 6-1 図に示す。
＊23：記載の適正化を行う。既工事計画書には「最終レンジ目盛の 120/125（中間領域）」と記載。
＊24：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「運転」位置」と記載。
＊25：記載の適正化を行う。既工事計画書には「スクラムディスチャージボリューム水位高」と記載。
＊26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「レベルスイッチ」と記載。
＊27：記載の適正化を行う。既工事計画書には「94.5 ℓ/個に相当するレベル（合計 189 ℓ）」と記載。
＊28：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「燃料取替」又は「停止」位置，かつスクラムディスチャージボリューム水位高バイパススイッチ「バイパス」位置」と記載。
＊29：起動領域計装原子炉出力ペリオド指示値
＊30：記載の適正化を行う。既工事計画書には「10 秒（中間領域）」と記載。
＊31：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 ％」と記載。
＊32：記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載。
＊33：設置高さではなく溢水防護の設備対策高さを記載。
＊34：記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁位置スイッチ」と記載。
＊35：記載の適正化を行う。既工事計画書には「90 ％開度」と記載。
＊36：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力 42.2 kg/cm^{2}以下，かつモードスイッチ「運転」位置以外」と記載。
＊37：記載の適正化を行う。既工事計画書には「42 kg/cm^{2}g」と記載。

（続き）

＊38：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「停止」」と記載。
＊39：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ」と記載。
＊40：溢水源がなく溢水による影響がない区画。
＊41：記載の適正化を行う。既工事計画書には「押ボタンスイッチ」と記載。
＊42：記載の適正化を行う。既工事計画書には「加速度検出器」と記載。
＊43：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平方向 300 Gal（EL.14.0 m）」と記載。
＊44：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平方向 250 Gal（EL.-4.0 m）」と記載。
＊45：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鉛直方向 120 Gal（EL.-4.0 m）」と記載。
＊46：対象計器は，C72-N009C，C72-N009D
＊47：対象計器は，C72-N009A，C72-N009B
＊48：対象計器は，C72-N010A，C72-N010B
＊49：対象計器は，C72-N010C，C72-N010D
＊50：安全区分の区画分離等により，多重性又は多様性を有する系統は機能喪失しない。
＊51：対象計器は，C72-N011A，C72-N011B
＊52：対象計器は，C72-N011C，C72-N011D

注：原子炉緊急停止系は２つの独立のチャンネルが設けられ，これらの同時動作によって原子炉を緊急停止させる。両トリップシステムの電源が喪失したときには，フェイル・セイフの機能により原子炉は緊急停止する。

変　更　前	変　更　後
 第 6-1 図　中性子束高－自動可変設定（熱流束相当）の原子炉非常停止信号の設定値	変更なし

7　工学的安全施設等の起動信号の種類，検出器の種類，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。），工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件

7.1　主蒸気隔離弁

・常設

変更前								変更後						
工学的安全施設等の起動信号の種類*1	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件
原子炉水位異常低下*4	原子炉水位検出器*5	4	系統名（ライン名）	－	2	1245 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*7	－	変更なし			変更なし		変更なし		
			設置床	原子炉建屋 原子炉棟 EL.20.30 m*6											
			－								溢水防護上の区画番号	RB-3-1*8 RB-3-2*9			
											溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m以上			
主蒸気管圧力低	主蒸気管圧力検出器 *10	4	系統名（ライン名）	－	2	5.89 MPa以上*11, 12	原子炉モード・スイッチ「運転」位置以外*13	変更なし			変更なし		変更なし		
			設置床	タービン建屋 EL.8.20 m*6											
			－								溢水防護上の区画番号	TB-1-2*14 TB-1-20*15			
											溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.8.20 m以上 EL.9.48 m以上			
主蒸気管放射能高	主蒸気管放射能検出器 *16, 17	4	系統名（ライン名）	－	2	通常運転時の放射能の10倍以下	－	変更なし			変更なし		変更なし		
			設置床	原子炉建屋 原子炉棟 EL.20.30 m*6											
			－								溢水防護上の区画番号	RB-3-2			
											溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m*18 以上			

（続き）

<table>
<tr><th colspan="8">変　更　前</th><th colspan="8">変　更　後</th></tr>
<tr><th>工学的安全施設等の起動信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3</th><th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="4">主蒸気管トンネル温度高</td><td rowspan="4">主蒸気管トンネル温度検出器*19</td><td rowspan="4">40</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">93 ℃
以下*23</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL. 14.00 m*6, 20
タービン建屋
EL. 8.20 m*6, 21
EL. 14.00 m*6, 22</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-2-1*20
TB-1-14*21
TB-1-15*24
TB-1-16*25</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL. 15.30 m以上
EL. 10.10 m以上
EL. 15.90 m以上
EL. 15.90 m以上</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">主蒸気管流量大</td><td rowspan="4">主蒸気管流量検出器*5</td><td rowspan="4">16</td><td>系　統　名
（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">定格流量の140 %
以下*26</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋
原子炉棟
EL. 14.00 m*6</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-2-8*27
RB-2-9*28</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL. 14.20 m以上</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

（続き）

変更前								変更後							
工学的安全施設等の起動信号の種類*1	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件
復水器真空度低	復水器真空度検出器*10	4	系統名（ライン名）	－	2	真空度24.0 kPa以上*12, 29	主蒸気止め弁開度90 %以下，かつ原子炉圧力4.13 MPa以下，かつ復水器真空度低バイパススイッチ「バイパス」位置かつ原子炉モード・スイッチ「運転」位置以外*12, 30	変更なし			変更なし		変更なし		
			設置床	タービン建屋EL.10.00 m*6											
			－												

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉水位異常低」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1245 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊8：対象計器は，LT-B22-N081C，LT-B22-N081D
＊9：対象計器は，LT-B22-N081A，LT-B22-N081B
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「60 kg/cm^{2}g」と記載。
＊12：ＳＩ単位に換算したもの。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モードスイッチ「運転」位置以外」と記載。
＊14：対象計器は，PT-B22-N076C，PT-B22-N076D
＊15：対象計器は，PT-B22-N076A，PT-B22-N076B
＊16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載。
＊17：原子炉非常停止信号用の検出器と共用。
＊18：設置高さではなく溢水防護の設備対策高さを記載。
＊19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「温度検出器」と記載。
＊20：対象計器は，TE-E31-N031A，TE-E31-N031B，TE-E31-N031C，TE-E31-N031D
＊21：対象計器は，TE-E31-N040A，TE-E31-N040B，TE-E31-N040C，TE-E31-N040D，TE-E31-N041A，TE-E31-N041B，TE-E31-N041C，TE-E31-N041D，TE-E31-N042A，TE-E31-N042B，TE-E31-N042C，TE-E31-N042D，TE-E31-N047A，TE-E31-N047B，TE-E31-N047C，TE-E31-N047D
＊22：対象計器は，TE-E31-N039A，TE-E31-N039B，TE-E31-N039C，TE-E31-N039D，TE-E31-N043A，TE-E31-N043B，TE-E31-N043C，TE-E31-N043D，TE-E31-N044A，TE-E31-N044B，TE-E31-N044C，TE-E31-N044D，TE-E31-N045A，TE-E31-N045B，TE-E31-N045C，TE-E31-N045D，TE-E31-N046A，TE-E31-N046B，TE-E31-N046C，TE-E31-N046D

＊23：記載の適正化を行う。既工事計画書には「93℃」と記載。
＊24：対象計器は，TE-E31-N039A，TE-E31-N039B，TE-E31-N039C，TE-E31-N039D
＊25：対象計器は，TE-E31-N043A，TE-E31-N043B，TE-E31-N043C，TE-E31-N043D，TE-E31-N044A，TE-E31-N044B，TE-E31-N044C，TE-E31-N044D，TE-E31-N045A，TE-E31-N045B，TE-E31-N045C，TE-E31-N045D，TE-E31-N046A，TE-E31-N046B，TE-E31-N046C，TE-E31-N046D
＊26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格流量の 140 %」と記載。
＊27：対象計器は，DPT-E31-N086C，DPT-E31-N086D，DPT-E31-N087C，DPT-E31-N087D，DPT-E31-N088C，DPT-E31-N088D，DPT-E31-N089C，DPT-E31-N089D
＊28：対象計器は，DPT-E31-N086A，DPT-E31-N086B，DPT-E31-N087A，DPT-E31-N087B，DPT-E31-N088A，DPT-E31-N088B，DPT-E31-N089A，DPT-E31-N089B
＊29：記載の適正化を行う。既工事計画書には「真空度 180 mmHg」と記載。
＊30：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気止め弁開度 90 %以下，かつ原子炉圧力 42.2 kg/cm^{2}以下，かつ復水器真空度低バイパススイッチ「バイパス」位置かつモードスイッチ「運転」位置以外」と記載。

7.2　その他の原子炉格納容器隔離弁

・常設

変更前								変更後							
工学的安全施設等の起動信号の種類*1		検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件
(1)	ドライウェル圧力高	格納容器圧力検出器*4, 5	4	系統名（ライン名）	－	2	13.7 kPa以下*7, 8	－	変更なし			変更なし		変更なし		
				設置床	原子炉建屋原子炉棟EL.20.30 m*6							溢水防護上の区画番号	RB-3-1*9 RB-3-2*10			
				－								溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m以上			
	原子炉水位低	原子炉水位検出器*5, 11	4	系統名（ライン名）	－		1370 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*12	－	変更なし			変更なし		変更なし		
				設置床	原子炉建屋原子炉棟EL.20.30 m*6							溢水防護上の区画番号	RB-3-1*13 RB-3-2*14			
				－								溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m以上			
(2)	原子炉水位低	原子炉水位検出器*5, 11	4	系統名（ライン名）	－	2	1370 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*12	－	変更なし			変更なし		変更なし		
				設置床	原子炉建屋原子炉棟EL.20.30 m*6							溢水防護上の区画番号	RB-3-1*13 RB-3-2*14			
				－								溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m以上			

（続き）

変更前								変更後							
工学的安全施設等の起動信号の種類 *1		検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件
(3)	原子炉水位異常低下*15	原子炉水位検出器 *11, 16	4	系統名（ライン名）	－	2	1245 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*17	－	変更なし			変更なし		変更なし		
				設置床	原子炉建屋 原子炉棟 EL.20.30 m*6											
				－								溢水防護上の区画番号	RB-3-1*18 RB-3-2*19			
												溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.20.50 m以上			

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。
＊5：原子炉非常停止信号用の検出器と共用。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^{2}g」と記載。
＊8：ＳＩ単位に換算したもの。
＊9：対象計器は，PT-C72-N050C，PT-C72-N050D
＊10：対象計器は，PT-C72-N050A，PT-C72-N050B
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1370 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊13：対象計器は，LT-B22-N080C，LT-B22-N080D
＊14：対象計器は，LT-B22-N080A，LT-B22-N080B
＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉水位異常低」と記載。
＊16：主蒸気隔離弁作動信号用の検出器と共用。
＊17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1245 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊18：対象計器は，LT-B22-N081C，LT-B22-N081D
＊19：対象計器は，LT-B22-N081A，LT-B22-N081B

7.3　原子炉建屋ガス処理系

・常設

<table>
<tr><th colspan="8">変　更　前</th><th colspan="8">変　更　後</th></tr>
<tr><th>工学的安全施設等の起動信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3</th><th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="4">原子炉建屋放射能高</td><td rowspan="4">原子炉建屋放射能検出器*4</td><td rowspan="4">8</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">通常運転時の放射能の10倍以下</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋付属棟
EL.23.00 m*5, 6
原子炉建屋原子炉棟
EL.46.50 m*5, 7</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>CS-3-2*6
RB-6-1*7</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.24.00 m以上
EL.47.13 m以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ドライウェル圧力高</td><td rowspan="4">格納容器圧力検出器*8, 9</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">13.7 kPa以下*10, 11</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*12
RB-3-2*13</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">原子炉水位低</td><td rowspan="4">原子炉水位検出器*9, 14</td><td rowspan="4">4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">1370 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*15</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*16
RB-3-2*17</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m以上</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「半導体」と記載。
＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊6：対象計器は，RE-D17-N009A，RE-D17-N009B，RE-D17-N009C，RE-D17-N009D
＊7：対象計器は，RE-D17-N300A，RE-D17-N300B，RE-D17-N300C，RE-D17-N300D
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。
＊9：原子炉非常停止信号用の検出器と共用。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^2」と記載。
＊11：ＳＩ単位に換算したもの。
＊12：対象計器は，PT-C72-N050C，PT-C72-N050D
＊13：対象計器は，PT-C72-N050A，PT-C72-N050B
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。
＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1370 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊16：対象計器は，LT-B22-N080C，LT-B22-N080D
＊17：対象計器は，LT-B22-N080A，LT-B22-N080B

7.4　高圧炉心スプレイ系

・常設

<table>
<tr><th colspan="8">変　更　前</th><th colspan="8">変　更　後</th></tr>
<tr><th>工学的安全施設等の起動信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3</th><th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ドライウェル圧力高</td><td rowspan="3">格納容器圧力検出器*4</td><td rowspan="3">4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">13.7 kPa以下*6, 7</td><td rowspan="3">－</td><td colspan="3" rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td colspan="3" rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m*5</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="3">原子炉水位異常低下*10</td><td rowspan="3">原子炉水位検出器*11</td><td rowspan="3">4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">1245 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*12</td><td rowspan="3">－</td><td colspan="3" rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td colspan="3" rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m*5</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^{2}g」と記載。

＊7：ＳＩ単位に換算したもの。

＊8：対象計器は，PT-B22-N067B，PT-B22-N067D

＊9：対象計器は，PT-B22-N067A，PT-B22-N067C

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉水位異常低」と記載。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1245 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。

＊13：対象計器は，LT-B22-N073B，LT-B22-N073D

＊14：対象計器は，LT-B22-N073A，LT-B22-N073C

7.5　低圧炉心スプレイ系

・常設

<table>
<tr><th colspan="8">変　更　前</th><th colspan="8">変　更　後</th></tr>
<tr><th>工学的安全施設等の起動信号の種類*1</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3</th><th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th><th>検出器の種類</th><th>個数</th><th colspan="2">取　付　箇　所</th><th>工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th><th>設定値</th><th>工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ドライウェル圧力高</td><td rowspan="4">格納容器圧力検出器*4</td><td rowspan="4">2</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">13.7 kPa以下*6, 7</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m以上</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">原子炉水位異常低下*8</td><td rowspan="4">原子炉水位検出器*9</td><td rowspan="4">2</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="4">960 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）*10</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td><td rowspan="4">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟 EL.20.30 m*5</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m以上</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^{2}g」と記載。

＊7：ＳＩ単位に換算したもの。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉水位異常低」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「960 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。

7.6　残留熱除去系

・常設

<table>
<tr><th colspan="10">変　更　前</th><th colspan="10">変　更　後</th></tr>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類*1</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数*2</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件*3</th><th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th><th rowspan="2">検出器の種類</th><th rowspan="2">個数</th><th colspan="2" rowspan="2">取　付　箇　所</th><th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th><th rowspan="2">設定値</th><th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="3">低圧注水系</td><td>ドライウェル圧力高</td><td>格納容器圧力検出器*4, 5</td><td>4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">13.7 kPa以下*7, 8</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2" rowspan="2">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*6</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td></td><td>原子炉水位異常低下*11</td><td>原子炉水位検出器
*5, 12</td><td>4</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td rowspan="3">960 cm以上（原子炉圧力容器零レベルより）
*13</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">変更なし</td><td colspan="2">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td><td rowspan="3">変更なし</td></tr>
<tr><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋原子炉棟
EL.20.30 m*6</td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>RB-3-1*14
RB-3-2*15</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>EL.20.50 m以上</td></tr>
<tr><td>格納容器スプレイ冷却系</td><td>手動</td><td>－</td><td>－</td><td>系　統　名（ライン名）</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>変更なし</td><td>変更なし</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">変更なし</td><td>－</td><td>－</td><td>変更なし</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>設　置　床</td><td>原子炉建屋付属棟
EL.18.00 m*6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>CS-2-1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">－</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－*16</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動信号の種類」と記載。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動に要する個数」と記載。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「安全保護系起動バイパス条件」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。
＊5：低圧炉心スプレイ系起動信号用の検出器と共用。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.14 kg/cm^{2}g」と記載。
＊8：ＳＩ単位に換算したもの。
＊9：対象計器は，PT-B22-N094A，PT-B22-N094C
＊10：対象計器は，PT-B22-N094B，PT-B22-N094D
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉水位異常低」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「960 cm（原子炉圧力容器零レベルより）」と記載。
＊14：対象計器は，LT-B22-N091A，LT-B22-N091C
＊15：対象計器は，LT-B22-N091B，LT-B22-N091D
＊16：溢水源がなく溢水による影響がない区画。

8.2　非常用窒素供給系

(5)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

以下の設備は，既存の原子炉冷却系統施設のうち原子炉冷却材の循環設備（主蒸気系）であり，制御用空気設備（非常用窒素供給系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

弁 B22-F040～アキュムレータ窒素供給配管分岐点

自動減圧機能用アキュムレータ～アキュムレータ窒素供給配管分岐点

アキュムレータ窒素供給配管分岐点～逃がし安全弁（自動減圧機能付）

以下の設備のうち貫通配管は，既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器の原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部であり，制御用空気設備（非常用窒素供給系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

原子炉格納容器配管貫通部 X-55

原子炉格納容器配管貫通部 X-57

8.3　非常用逃がし安全弁駆動系

(2)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変更後
名称			―	高圧窒素ボンベ
種類		―		一般継目なし鋼製容器
容量		L/個		46.7 以上 (46.7*1)
最高使用圧力		MPa		14.7*2
最高使用温度		℃		40*2
主要寸法	外径	mm		232*1
	高さ	mm		1365*1
	胴部厚さ	mm		5.0 以上 (6.0*1)
	底部厚さ	mm		10.0 以上 (10.0*1)
材料		―		マンガン鋼
個数		―		6（予備 6）
取付箇所		―		保管場所： 原子炉建屋　EL.8.2 m 取付箇所： （6 本： 原子炉建屋　EL.8.2 m）

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

8.3　非常用逃がし安全弁駆動系

(5)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用逃がし安全弁駆動系	－						非常用逃がし安全弁駆動系	高圧窒素ガスボンベ～逃がし安全弁（操作対象弁）	15.0*2	66*2	27.2	3.9*1	SUS304TP
											27.7*3 /27.7*3 /27.7*3	4.9*4 /4.9*4 /4.9*4	SUS304
											27.7*3	4.9*4	SUS304
											27.7*3 /27.7*3 /-	4.9*4 /4.9*4 /-	SUS304
									1.45*2	66*2	27.2	2.9*1	SUS304TP
											27.7*3	4.3*4	SUS304
											27.7*3 /27.7*3 /-	4.3*4 /4.3*4 /-	SUS304
									2.28*2	171*2	27.2	2.9*1	SUS304TP
											27.7*3 /- /27.7*3	4.3*4 /- /4.3*4	SUS304
											27.7*3	4.3*4	SUS304
											60.5 /27.2	3.9*1 /2.9*1	SUS304TP
											89.1 /60.5	5.5*1 /3.9*1	SUS304TP
											89.1	5.5*1	SUS304TP
											89.1	3.9（5.5*1）	SFVC2B
											27.7*3 /27.7*3 /27.7*3	4.3*4 /4.3*4 /4.3*4	SUS304

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊3：差込み継手の差込み部内径を示す。

＊4：差込み継手の最小厚さを示す。

以下の設備のうち貫通配管は，既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器の原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部であり，制御用空気設備（非常用逃がし安全弁駆動系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

原子炉格納容器配管貫通部　X-57

10　計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 計測制御系統施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 計測制御系統施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 計測制御系統施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年8月13日法律第128号） ・安全保護系へのディジタル計算機の適用に関する規程（JEAC4620-2008） ・ディジタル安全保護系の検証及び妥当性確認に関する指針（JEAG4609-2008）	第2章　個別項目 計測制御系統施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年8月13日法律第128号） ・安全保護系へのディジタル計算機の適用に関する規程（JEAC4620-2008） ・ディジタル安全保護系の検証及び妥当性確認に関する指針（JEAG4609-2008）

変　更　前	変　更　後
・原子力発電所安全保護系の設計規程（JEAC4604-2009） ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009）	・原子力発電所安全保護系の設計規程（JEAC4604-2009） ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009）

放射性廃棄物の廃棄施設

1　気体，液体又は固体廃棄物貯蔵設備に係る次の事項

1.2　固体廃棄物貯蔵タンク

(2)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			使用済樹脂貯蔵タンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	252*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	6400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (18.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (18.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	6400*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			640*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	12.0*1, *3	
	管台外径（樹脂入口）	mm	60.5*1, *3	
	管台厚さ（樹脂入口）	mm	3.9*1, *3	
	管台外径（デカント水出口）	mm	60.5*1, *3	
	管台厚さ（デカント水出口）	mm	[redacted] (3.9*1, *3)	
	高さ	mm	8760*1	
材料	胴板	－	SUS316	
	鏡板	－	SUS316	
個数		－	2	
漏えい防止のための制御方法		－	受入側でないタンクの液位高による流入弁自動閉回路	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年2月4日付

け57資庁第19601号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-1-2　固体廃棄物貯蔵タンクの強度計算書」のうち，添付資料「Ⅴ-2-1-2-(1)　使用済樹脂貯蔵タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			クラッドスラリタンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	252 以上*1 (252*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	6500*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	6500*2, *3 (鏡板中央部内半径)	
			650*2, *3 (鏡板すみの丸み半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	[redacted] (9.0*1, *2)	
	管台外径（逆洗水入口）	mm	165.2*1, *2	
	管台厚さ（逆洗水入口）	mm	[redacted] (7.1*1, *2)	
	管台外径（上澄水出口）	mm	60.5*1, *2	
	管台厚さ（上澄水出口）	mm	[redacted] (3.9*2, *3)	
	管台外径（濃縮器ブロー入口）	mm	60.5*1, *2	
	管台厚さ（濃縮器ブロー入口）	mm	[redacted] (3.9*1, *2)	
	管台外径（オーバーフロー）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（オーバーフロー）	mm	[redacted] (6.0*2, *3)	
	高さ*4	mm	8335*2, *5	
材料	胴板	―	SUS316L	
	鏡板	―	SUS316L	
	屋根板	―	SUS304*1	

(続き)

		変　更　前	変　更　後
個　　数	－	2	変更なし
漏えい防止のための制御方法	－	液位高による 流入弁自動閉回路	

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊2：公称値を示す。
＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1　固体廃棄物貯蔵タンクの強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-1-1-(1)　クラッドスラリタンク」による。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。既工事計画書には「8810」と記載。

2　気体，液体又は固体廃棄物処理設備に係る次の事項

2.1　気体廃棄物処理系

(1)　熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変　更　前	変更後
名　　称				排ガス復水器	変更なし
種　　類			－	横置U字管式	
容量（設計熱交換量）			MW/個	4.865*1,*2	
管側	最高使用圧力		MPa	0.86*1	
	最高使用温度		℃	538	
胴側	最高使用圧力		MPa	2.41*1	
	最高使用温度		℃	538	
伝熱面積			m²/個	207以上（207*3）	
主要寸法	管側	胴内径	mm	900*3	
		胴板厚さ*4	mm	[redacted]（16.0*3）	
		鏡板厚さ*4	mm	[redacted]（16.0*3）	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	900*3,*5 （鏡板の内面における長径） 225*3,*5 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
		管台外径（冷却水入口）	mm	165.2*3,*5	
		管台厚さ（冷却水入口）	mm	[redacted]（7.1*3,*5）	
		管台外径（冷却水出口）	mm	165.2*3,*5	
		管台厚さ（冷却水出口）	mm	[redacted]（7.1*3,*5）	
		胴フランジ厚さ	mm	60.0*3,*5	
	胴側	胴内径	mm	900*3	
		胴板厚さ*4	mm	[redacted]（30.0*3）	
		鏡板厚さ*4	mm	[redacted]（30.0*3）	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	900*3,*5 （鏡板の内面における長径） 225*3,*5 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
		管台外径（排ガス入口）	mm	267.4*3,*5	
		管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（9.3*3,*5）	
		管台外径（排ガス出口）	mm	114.3*3,*5	
		管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（6.0*3,*5）	
		管台外径（ドレンポット）	mm	644*3,*5	

（続き）

				変　更　前	変更後
主要寸法	胴側	管台厚さ（ドレンポット）	mm	[redacted] (22.0*3, *5)	変更なし
	管板厚さ*6		mm	[redacted] (110.0*3, *5)	
	伝熱管外径		mm	15.9*3	
	伝熱管厚さ*7		mm	[redacted] (2.6*3)	
	全長		mm	4890*3, *8	
材料	管側	胴板*9	－	STPA23 相当 [redacted]	
		鏡板*9	－	STPA23 相当 [redacted]	
		胴フランジ	－	[redacted]	
	胴側	胴板*10	－	STPA23 相当 [redacted]	
		鏡板*10	－	STPA23 相当 [redacted]	
	管板		－	SUS304	
	伝熱管		－	SUS304TB	
個数			－	2	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したものである。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：公称値を示す。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 54 年 11 月 2 日付け 54 資庁第 11618 号にて認可された工事計画の添付書類「1-3　排ガス復水器の規格計算書」による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板厚 114」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱管肉厚」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4890 mm（＋4.5 mm ガスケット)」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

				変　更　前	変更後
名　　称				排ガス前置除湿器	変更なし
種　　類			―	たて置直管式	
容量（設計熱交換量）			kW/個	3.629*1,*2	
管側	最高使用圧力		MPa	0.34*1,*3	
	最高使用温度		℃	66	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.59*1	
	最高使用温度		℃	66	
伝熱面積			m^2/個	25 以上（25*4）	
主要寸法	管側	胴内径	mm	500*4	
		胴板厚さ*5	mm	[redacted]（9.0*4）	
		上部平板厚さ	mm	[redacted]（28.0*4,*6）	
		下部平板厚さ	mm	[redacted]（30.0*4,*6）	
		管台外径（排ガス入口）	mm	80.0*4,*6	
		管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（9.45*4,*6）	
		管台外径（排ガス出口）	mm	80.0*4,*6	
		管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（9.45*4,*6）	
		胴フランジ厚さ	mm	30.0*4,*6	
	胴側	胴内径	mm	500*4	
		胴板厚さ*5	mm	[redacted]（9.0*4）	
	上部管板厚さ		mm	[redacted]（35.0*4,*6）	
	下部管板厚さ*7		mm	[redacted]（26.0*4）	
	伝熱管外径		mm	15.9*4	
	伝熱管厚さ*8		mm	[redacted]（1.6*4）	
	高さ*9		mm	2808*4,*2	
材料	管側	胴板*10	―	SM41A	
		上部平板	―	SM41B*6	
		下部平板	―	SM41B*6	
		胴フランジ	―	SM41B*6	
	胴側	胴板*11	―	SM41A	
	上部管板		―	SUS304*6	
	下部管板*12		―	SUS304	
	伝熱管		―	SUS304TB	
個　　数			―	2*13	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したものである。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}及び真空」と記載。

＊4：公称値を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-6　排ガス前置除湿器の規格計算書」による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板厚」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱管肉厚」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長 3518 mm」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板」と記載。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			再生ガス加熱器	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	500 以上（500*2）	
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	340	
主要寸法	胴内径*4	mm	900*2	
	胴板厚さ*5	mm	[redacted]（9.0*2）	
	鏡板厚さ*7	mm	[redacted]（9.0*2）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	900*2,*6 （鏡板の内面における長径）	
			225*2,*6 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	管台外径（再生ガス入口）	mm	139.8*2,*6	
	管台厚さ（再生ガス入口）	mm	[redacted]（6.6*2,*6）	
	管台外径（再生ガス出口）	mm	139.8*2,*6	
	管台厚さ（再生ガス出口）	mm	[redacted]（6.6*2,*6）	
	管板厚さ	mm	[redacted]（42.0*2,*6）	
	胴フランジ厚さ	mm	50.0*2,*6	
	高さ	mm	2412*2,*8	
材料	胴板*9	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
	管板	－	SUS304*6	
	胴フランジ	－	SF50*6	
個　　数		－	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。
＊2：公称値を示す。
＊3：ＳＩ単位に換算したものである。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-15　再生ガス加熱器の規格計算書」による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3670　mm」と記載。記載内容は，設計図書による。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変 更 前	変更後
名称			排ガス再結合器	変更なし
種類		―	たて置円筒形*1	
容量		m^3/h/個 [normal]	7145 以上（7145*2）	
最高使用圧力		MPa	2.41*3	
最高使用温度		℃	538	
主要寸法	胴内径*4	mm	1950*2	
	胴板厚さ*5	mm	[redacted]（60.0*2）	
	鏡板厚さ*7	mm	[redacted]（60.0*2）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1950*2,*6 （鏡板の内面における長径）	
			487.5*2,*6 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	管台外径（排ガス入口）	mm	406.4*2,*6	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（21.4*2,*6）	
	管台外径（排ガス出口）	mm	508.0*2,*6	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（26.2*2,*6）	
	触媒取出口平板厚さ	mm	[redacted]（43.0*2,*6）	
	高さ	mm	2500*2,*8	
材料	胴板*9	―	STPA24 相当 [redacted]	
	鏡板	―	STPA24 相当 [redacted]	
	触媒取出口平板	―	[redacted]	
個数		―	2*10	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記 ＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-2　排ガス再結合器の規格計算書」による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3715 mm」と記載。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-3 図　気

体廃棄物処理系排ガス再結合器」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

(8) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変 更 前	変更後
名称			排ガス気水分離器	変更なし
種類		－	たて置円筒形*1	
容量		m^3/h/個 [normal]	112 以上 (112*2)	
最高使用圧力		MPa	2.41*3	
最高使用温度		℃	94	
主要寸法	胴外径*4	mm	267.4*2, *5	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted] (9.3*2)	
	鏡板厚さ*8	mm	[redacted] (9.3*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	248.8*2, *7 (鏡板の内面における長径)	
			62.2*2, *7 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	管台外径（排ガス入口）	mm	216.3*2, *7	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted] (8.2*2, *7)	
	管台外径（排ガス出口）	mm	216.3*2, *7	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted] (8.2*2, *7)	
	高さ	mm	736.6*2	
材料	胴板*9	－	SUS304TP	
	鏡板	－	SUS304	
個数		－	2	

注記 ＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「同筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径 248.8 mm」と記載。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 54 年 11 月 2 日付け 54 資庁第 11618 号にて認可された工事計画の添付書類「1-4　排ガス気水分離器の規格計算書」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			排ガス前置フィルタ	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	80 以上 (80*2)	
最高使用圧力		MPa	0.34*3,*4	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴内径	mm	1100	
	胴板厚さ*5	mm	[redacted] (12.0*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (12.0*2,*6)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1100*2,*6 (鏡板の中央部における内面の半径)	
			110*2,*6 (鏡板のすみの丸みの内半径)	
	管台外径（排ガス入口）	mm	165.2*2,*6	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted] (7.1*2,*6)	
	管台外径（排ガス出口）	mm	165.2*2,*6	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted] (7.1*2,*6)	
	胴フランジ厚さ	mm	42.0*2	
	高さ	mm	1059*2,*7	
材料	胴板*9	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
	胴フランジ	―	SF45*6	
個　　数		―	2*10	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}g 及び真空」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-5　排ガス前置フィルタの規格計算書」による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1279」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-6 図　気体廃棄物処理設備　排ガス前置フィルタ構造図」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			気水分離器	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	40 以上（40*2）	
最　高　使　用　圧　力		MPa	0.34*3,*4	
最　高　使　用　温　度		℃	66	
主要寸法	胴　外　径*5	mm	139.8*2,*6	
	胴　板　厚　さ*7	mm	[redacted](6.6*2)	
	上　部　平　板　厚　さ	mm	[redacted](23.0*2,*8)	
	下　部　平　板　厚　さ*9	mm	[redacted](19.0*2)	
	管台外径（排ガス入口）	mm	60.5*2,*8	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted](5.5*2,*8)	
	管台外径（排ガス出口）	mm	60.5*2,*8	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted](5.5*2,*8)	
	胴フランジ厚さ	mm	21.1*2,*10	
	高　　さ	mm	276*2,*11	
材料	胴　　板*12	―	STPG38	
	上　部　平　板	―	SM41A*8	
	下　部　平　板*13	―	SM41A	
	胴　フ　ラ　ン　ジ	―	SM41A*14	
個　　数		―	2*15	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}g 及び真空」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「126.6 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-7　気水分離器の規格計算書」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「253 mm」と記載。記載内容は，設計図書

による。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。

＊14：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-8 図　気体廃棄物処理系気水分離器構造図」による。

＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			排ガス後置除湿器	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	40 以上（40*2）	
最高使用圧力		MPa	0.34*3,*4	
最高使用温度		℃	340	
主要寸法	胴内径*5	mm	900*2	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted]（9.0*2）	
	鏡板厚さ*8	mm	[redacted]（9.0*2）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	900*2,*7 （鏡板の内面における長径）	
			225*2,*7 （鏡板の内面における短径の２分の1）	
	管台外径（排ガス入口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（6.6*2,*7）	
	管台外径（排ガス出口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（6.6*2,*7）	
	充填物投入口外径	mm	406.4*2,*7	
	充填物投入口厚さ	mm	[redacted]（12.7*2,*7）	
	充填物取出口外径	mm	406.4*2,*7	
	充填物取出口厚さ	mm	[redacted]（12.7*2,*7）	
	平板厚さ（充填物投入口/充填物取出口）	mm	[redacted]（35.0*2,*7）	
	高さ	mm	4037*2,*9	
材料	胴板*10	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
	平板（充填物投入口/充填物取出口）	―	SM41A*7	
個　　数		―	2*11	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}g 及び真空」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-8　排ガス後置除湿器の規格計算書」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「5200　mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			排ガスメッシュフィルタ	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	40 以上（40*2）	
最高使用圧力		MPa	0.34*3,*4	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴外径*5	mm	216.3*2,*6	
	胴板厚さ*7	mm	[redacted]（8.2*2）	
	上部平板厚さ	mm	[redacted]（26.0*2,*8）	
	下部平板厚さ*9	mm	[redacted]（19.0*2）	
	管台外径（排ガス入口）	mm	75.0*2,*8	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（6.95*2,*8）	
	管台外径（排ガス出口）	mm	75.0*2,*8	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（6.95*2,*8）	
	胴フランジ厚さ	mm	22.5*2,*10	
	高さ	mm	826*2,*11	
材料	胴板*12	―	STPG38	
	上部平板	―	SM41A*8	
	下部平板*13	―	SM41A	
	胴フランジ	―	SM41A*14	
個　　数		―	2*15	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}g 及び真空」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「199.9 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-9　排ガスメッシュフィルタの規格計算書」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

＊10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1500 mm」と記載。記載内容は，設計図

書による。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。

＊14：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-10 図　気体廃棄物処理系排ガスメッシュフィルタ構造図」による。

＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1)」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			排ガス活性炭ベッド	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	40 以上（40*2）	
最高使用圧力		MPa	0.34*3,*4	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴内径*5	mm	1350*2	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted]（12.0*2）	
	鏡板厚さ*8	mm	[redacted]（12.0*2）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1350*2,*7 （鏡板の内面における長径）	
			337.5*2,*7 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
	管台外径（排ガス入口）	mm	89.1*2,*7	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（7.6*2,*7）	
	管台外径（排ガス出口）	mm	89.1*2,*7	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（7.6*2,*7）	
	活性炭投入口外径	mm	406.4*2,*7	
	活性炭投入口厚さ	mm	[redacted]（12.7*2,*7）	
	活性炭取出口外径	mm	267.4*2,*7	
	活性炭取出口厚さ	mm	[redacted]（9.3*2,*7）	
	活性炭投入口平板厚さ	mm	[redacted]（35.0*2,*7）	
	高さ	mm	7300*2,*9	
材料	胴板*10	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
	活性炭投入口平板	―	SM41A*7	
個　　数		―	20	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm^{2}g 及び真空」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-10　排ガス活

性炭ベッドの規格計算書」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「7800 ㎜」と記載。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-11 図　気体廃棄物処理系排ガス活性炭ベッド構造図」による。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			再生ガスメッシュフィルタ	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	500 以上（500*2）	
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	250	
主要寸法	胴外径*4	mm	406.4*2,*5	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted](12.7*2)	
	上部平板厚さ	mm	[redacted](35.0*2,*7)	
	下部平板厚さ*8	mm	[redacted](25.0*2)	
	管台外径（再生ガス入口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス入口）	mm	[redacted](6.6*2,*7)	
	管台外径（再生ガス出口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス出口）	mm	[redacted](6.6*2,*7)	
	胴フランジ厚さ	mm	28.0*2,*9	
	高さ	mm	1137*2,*10	
材料	胴板*11	―	STPG38	
	上部平板	―	SM41A*7	
	下部平板*12	―	SM41A	
	胴フランジ	―	SM41A*13	
個　　数		―	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「381　mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-11-16　再生ガスメッシュフィルタの規格計算書」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

＊9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「1800　㎜」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。

＊13：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画書の添付書類「第 3-19 図　気体廃棄物処理系再生ガスメッシュフィルタ構造図」による。

			変　更　前	変更後
名　　称			再生ガス気水分離器	変更なし
種　　類		－	横置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	500 以上 (500*2)	
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴外径*4	mm	406.4*2,*5	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted](12.7*2)	
	平板厚さ*8	mm	[redacted](25.0*2)	
	管台外径（再生ガス入口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス入口）	mm	[redacted](6.6*2,*7)	
	管台外径（再生ガス出口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス出口）	mm	[redacted](6.6*2,*7)	
	全長*9	mm	1100*2	
材料	胴板*10	－	STPG38	
	平板	－	SM41A	
個　　数		－	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「381 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-11-18　再生ガス気水分離器」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			再生ガス油分離器	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	500 以上 (500*2)	
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	胴外径*4	mm	318.5*2,*5	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted] (10.3*2)	
	上部平板厚さ	mm	[redacted] (26.0*2,*7)	
	下部平板厚さ*8	mm	[redacted] (22.0*2)	
	管台外径（再生ガス入口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス入口）	mm	[redacted] (6.6*2,*7)	
	管台外径（再生ガス出口）	mm	139.8*2,*7	
	管台厚さ（再生ガス出口）	mm	[redacted] (6.6*2,*7)	
	胴フランジ厚さ	mm	24.1*2,*9	
	高さ	mm	596*2,*10	
材料	胴板*11	―	STPG38	
	上部平板	―	SM41A*7	
	下部平板*12	―	SM41A	
	胴フランジ	―	SM41A*13	
個　　数		―	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「297.9 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-11-20　再生ガス油分離器の規格計算書」による。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

＊9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「570 mm」と記載。記載内容は，設計図書に

よる。

＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。

＊13：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画書の添付書類「第 3-23 図　気体廃棄物処理系再生ガス油分離器構造図」による。

			変　更　前	変更後
名　　称			排ガスフィルタ	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形*1	
容　　量		m^3/h/個 [normal]	11870 以上（11870*2）	
最高使用圧力		MPa	0.35*3	
最高使用温度		℃	94	
主要寸法	上部胴内径	mm	2700*2,*4	
	下部胴内径*5	mm	3100*2	
	上部胴板厚さ	mm	[redacted]（19.0*2,*4）	
	下部胴板厚さ*6	mm	[redacted]（19.0*2）	
	鏡板厚さ	mm	[redacted]（19.0*2,*4）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3100*2,*4 （鏡板の中央部における内面の半径）	
			310*2,*4 （鏡板のすみの丸みの内半径）	
	管台外径（排ガス入口）	mm	762.0*2,*4	
	管台厚さ（排ガス入口）	mm	[redacted]（12.0*2,*4）	
	管台外径（排ガス出口）	mm	762.0*2,*4	
	管台厚さ（排ガス出口）	mm	[redacted]（12.0*2,*4）	
	胴フランジ厚さ	mm	200.0*2	
	高さ	mm	4465*2,*7	
材料	胴板*9	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
	胴フランジ	―	SF45*8	
個　　数		―	1	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦置円筒形」と記載。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したものである。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-5-2　排ガスフィルタの規格計算書」による。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴内径」と記載。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「5315」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画の添付書類「第 4-2 図　気体廃棄物処理系排ガスフィルタ構造図」による。

＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前						変更後					
名　　称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外　径 (mm)	厚　さ (mm)	材　料	名　　称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外　径 (mm)	厚　さ (mm)	材　料
排ガス空気抽出器	0.98*1	66	76.4*2, *3	[redacted] (7.7*2, *3)	SCS14	変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したものである。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-12　排ガス空気抽出器の規格計算書」による。

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	排ガス消音器	0.34*3	180	216.3*4,*5	8.2*4	STPG38	気体廃棄物処理系	変更なし					

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：公称値を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「199.9 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	再生ガス消音器	0.34*3	80	318.5*4,*5	10.3*4	STPG38	気体廃棄物処理系	変更なし					

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：公称値を示す。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「297.9 mm」と記載。記載内容は，設計図書による。

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	主蒸気式空気抽出器出口弁 ～ 排ガス予熱器*3	2.41	205	267.4	9.3*2	STPT42	気体廃棄物処理系	変更なし					
				165.2	7.1*2	STPT42							
				318.5	10.3*2	STPT42							
	排ガス予熱器 ～ 排ガス再結合器*4	2.41	205	318.5	10.3*2	STPT42		変更なし					
	排ガス再結合器 ～ 排ガス復水器*5	2.41	538	318.5	14.3*2	STPA23		変更なし					
	排ガス復水器 ～ 排ガス気水分離器*6	2.41	205	216.3	8.2*2	STPT42		変更なし					
	排ガス気水分離器 ～ 排ガス前置フィルタ （排ガス減衰管を除く）*7	2.41	205	216.3	8.2*2	STPT42		変更なし					
		0.34	66	216.3	8.2*2	STPT42							
				216.3	8.2*2	STPG38							
				89.1	7.6*2	STPG38							
				60.5	5.5*2	STPG38							
		（正圧） 0.34 （負圧） 0.10	66	89.1	7.6*2	STPG38							
				216.3	8.2*2	STPG38							
				165.2	7.1*2	STPG38							
	排ガス減衰管	0.34	66	812.8	(9.5*2)	SM41A		変更なし					
				216.3	8.2*2	STPG38							
	排ガス前置フィルタ ～ 排ガス後置フィルタ （排ガス前置除湿器，気水分離器，排ガス後置除湿器，排ガスメッシュフィルタ及び排ガス活性炭ベッド経由）*9	（正圧） 0.34 （負圧） 0.10	66	165.2	7.1*2	STPG38		変更なし					
				216.3	8.2*2	STPG38							
				89.1	7.6*2	STPG38							
				60.5	5.5*2	STPG38							
			340	139.8	6.6*2	STPT42							
				60.5	5.5*2	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	排ガス後置フィルタ ～ 排気筒（屋外配管を除く）*10	（正圧） 0.34 （負圧） 0.10	66	89.1	7.6*2	STPG38	気体廃棄物処理系	変更なし					
		0.34	200	89.1	7.6*2	STPG38*11							
		0.34	66	89.1	7.6*2	STPG38							
				114.3	6.0*2	STPG38							
				216.3	8.2*2	STPG38							
	排ガス後置除湿器 ～ 再生ガスブロワ*12	（正圧） 0.34 （負圧） 0.10	340	139.8	6.6*2	STPT42		変更なし					
		0.34	250	139.8	6.6*2	STPT42							
			66	139.8	6.6*2	STPT42							
			250	89.1	7.6*2	STPG38							
	再生ガスブロワ ～ 排ガス後置除湿器*13	（正圧） 0.34 （負圧） 0.10	340	139.8	6.6*2	STPT42		変更なし					
		0.34	340	139.8	6.6*2	STPT42							
		0.34	80	139.8	6.6*2	STPT42							
	廃棄物処理棟 ～ 排気筒*14	0.35	66	216.3	8.2*2	STPT42		変更なし					
	弁 6-23V502 及びタービングランド蒸気 排風機出口弁 ～ 排気筒（屋外配管を除く）*15	0.35	94	457.2	[redacted] (9.5*2)	SM41A		変更なし					
				762.0	[redacted] (12.7*2)	SM41A							
				318.5	10.3*2	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	タービン建屋 ～ 排気筒*17	0.35	94	762.0	[redacted] (12.7*2)	SM41A	気体廃棄物処理系	変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「蒸気式空気抽出器出口弁より排ガス予熱器まで」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス予熱器より排ガス再結合器まで」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス再結合器より排ガス復水器まで」と記載。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス復水器より排ガス気水分離器まで」と記載。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス気水分離器より排ガス前置フィルタまで（排ガス減衰管を除く）」と記載。
＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年4月5日付け建建発第2号にて認可された工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-3-1　排ガス減衰管の規格計算書」による。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス前置フィルタより排ガス前置除湿器，気水分離器，排ガス後置除湿器，排ガスメッシュフィルタ及び排ガス活性炭ベッドを経て排ガス後置フィルターまで」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス後置フィルタより排ガスブロワ及び排ガス空気抽出器を経て排気筒へ（屋外配管を除く）」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画書の「2.廃棄設備[1]気体廃棄物処理系(15)排ガス後置冷却器」の内，「一次側（内管側）　（排ガス）」として記載されるが，「一次側（内管側）　（排ガス）」は，当項目へ含める。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「排ガス後置除湿器より再生ガスブロワまで」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「再生ガスブロワから排ガス後置除湿器まで」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「廃棄物処理棟から排気筒まで」と記載。
＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「真空ポンプ水分離機出口逆止弁及びタービングランド蒸気排風機出口弁より排気筒へ（屋外配管を除く）」と記載。
＊16：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月27日付け建建発第112号にて届出した工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-11-21　気体廃棄物処理系配管の規格計算書」による。
＊17：記載の適正化を行う。既工事計画書には，「タービン建屋から排気筒まで」と記載。

2.2　液体廃棄物処理系

2.2.1　機器ドレン処理系

(2)　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度），最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

				変　更　前	変　更　後
名　　称				廃棄物処理棟機器 ドレンサンプポンプ	変更なし
ポンプ	種　　類		－	うず巻形	
	容　　量		m^3/h/個	11.9*1	
	揚　　程		m	22*1	
	最高使用圧力		MPa	0.28*2	
	最高使用温度		℃	65*2	
	主要寸法	吸込内径	mm	80*1, *2	
		吐出内径	mm	40*1, *2	
		高　　さ	mm	3705*1, *2	
		コラム外径	mm	135*1, *2	
	材料	ケーシング	－	FC25	
	個　　数		－	2	
原動機	種　　類		－	三相誘導電動機	
	出　　力		kW/個	[redacted]	
	個　　数		－	2	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			廃液収集タンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	113.5*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4400*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			440*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *3	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *3	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*1, *3)	
	管台外径（入口）	mm	139.8*1, *3	
	管台厚さ（入口）	mm	6.6*1, *3	
	高さ	mm	8568.5*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記 ＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-1 廃液収集タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			サージタンク	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	142*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	5000*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (9.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5000*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			500*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *3	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *3	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*1, *3)	
	高さ	mm	8583.5*1	
材料	胴板	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
個　　数		―	2	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-2　サージタンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			凝集装置供給タンク	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	81.4*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4900*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (9.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4900*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			490*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *3	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	60.5*1, *3	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.9*1, *3)	
	高さ	mm	5485.5*1	
材料	胴板	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
個　　数		―	1	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-3　凝集装置供給タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			凝縮水サンプルタンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	64.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (13.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4400*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			440*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	屋根厚さ	mm	6.0*1, *2	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*1, *2)	
	管台外径（ミキシング及び入口）	mm	89.1*1, *2	
	管台厚さ（ミキシング及び入口）	mm	[redacted] (5.5*1, *2)	
	高さ	mm	5540*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：公称値を示す。
　　＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			廃棄物処理建屋機器 ドレンサンプタンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	8.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	1700*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1700*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			170*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	管台外径 （オーバフロー入口）	mm	165.2*1, *3	
	管台厚さ （オーバフロー入口）	mm	[redacted] (7.1*1, *3)	
	高さ	mm	3740*1	
材料	胴板	－	SUS304	
	鏡板	－	SUS304	
個　　数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1-1　機器ドレン処理系の強度計算書」のうち，添付資料「Ⅴ-2-2-1-1-(1)　廃棄物処理建屋機器ドレンサンプタンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			機器ドレン処理水タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	154 以上*1 (154*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	5500*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5500*2, *3 (鏡板中央部内半径)	
			550*2, *3 (鏡板すみの丸み半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	[redacted] (9.0*1, *2)	
	管台外径（処理水入口）	mm	139.8*1, *2	
	管台厚さ（処理水入口）	mm	[redacted] (6.6*1, *2)	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*2, *3)	
	管台外径（オーバーフロー）	mm	139.8*1, *2	
	管台厚さ（オーバーフロー）	mm	[redacted] (6.6*2, *3)	
	高さ*4	mm	7241*2, *5	
材料	胴板	―	SUS304	
	鏡板	―	SUS304	
個数		―	2	
漏えい防止のための制御方法		―	液位高による流入弁自動切替回路	

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画書の添付資料「Ⅴ-2-2-1-1　機器ド

レン処理系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-1-1-(4)　機器ドレン処理水タンク」による。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカート等を含めた高さである「7760」と記載。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			電磁ろ過器供給タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	138 以上*1 (138*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	5500*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (14.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5500*2, *3 (鏡板中央部内半径)	
			550*2, *3 (鏡板すみの丸み半径)	
	平板(屋根)厚さ	mm	[redacted] (9.0*1, *2)	
	管台外径(入口)	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ(入口)	mm	[redacted] (6.0*1, *2)	
	管台外径(出口)	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ(出口)	mm	[redacted] (6.0*2, *3)	
	管台外径 (機器ドレンサンプ水入口)	mm	76.3*1, *2	
	管台厚さ (機器ドレンサンプ水入口)	mm	[redacted] (5.2*1, *2)	
	管台外径 (オーバーフロー)	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ (オーバーフロー)	mm	[redacted] (6.0*2, *3)	
	管台外径(上澄水入口)	mm	60.5*1, *2	
	管台厚さ(上澄水入口)	mm	[redacted] (3.9*2, *3)	
	高さ*4	mm	6581*2, *5	

(続き)

			変　更　前	変　更　後
材料	胴　　板	－	SM41A	変更なし
	鏡　　板	－	SM41A	
	屋　根　板	－	SM41A*1	
個　　数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	液位高による流入 ポンプ自動停止回路	

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊2：公称値を示す。
＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1-1　機器ドレン処理系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-1-1-(2)　電磁ろ過器供給タンク」による。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。既工事計画書には「7100」と記載。

(8) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変 更 前	変 更 後
名称			電磁ろ過器	変更なし
種類		―	たて置円筒形*1	
容量		m^3/h/個	20 以上*2 (20*3)	
最高使用圧力		MPa	1.32*4	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	850*3	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (14.0*3)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (14.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	850*3, *5 (鏡板中央部内半径)	
			85*3, *5 (鏡板すみの丸み半径)	
	高さ*6	mm	2674*7	
	管台外径（入口）	mm	165.2*3, *5	
	管台厚さ（入口）	mm	[redacted] (7.1*3, *5)	
	管台外径（出口）	mm	165.2*3, *5	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (7.1*3, *5)	
	フランジ厚さ	mm	80.9*5 (82*3)	
材料	胴板	―	SUS304	
	鏡板	―	SUS304	
	フランジ	―	SUS304	
個数		―	2	

注記 ＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「固定床式」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊3：公称値を示す。

＊4：SI 単位に換算したもの。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-1-1-1-(6) 電磁ろ過器」による。

＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

＊7：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。既工事計画書には「3470」と

記載。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			超ろ過器	変更なし
種　　類		―	円筒形膜式	
容　　量		m³/h/個	6.7 以上*1 (6.7*2)	
最高使用圧力		MPa	0.49*1, *3 (超ろ過器)	
			静水頭*1 (集水管)	
最高使用温度		℃	65*1	
主要寸法	直管部外筒外径	mm	34.0*2	
	U字管部外筒外径	mm	27.2*2	
	直管部外筒厚さ	mm	[redacted] (1.2*1, *2)	
	U字管部外筒厚さ	mm	[redacted] (1.2*1, *2)	
	管台外径（入口）	mm	34.0*1, *2	
	管台厚さ（入口）	mm	[redacted] (4.5*1, *2)	
	管台外径（循環水出口）	mm	34.0*1, *2	
	管台厚さ（循環水出口）	mm	[redacted] (4.5*1, *2)	
	管台外径（処理水出口）	mm	76.3*1, *2	
	管台厚さ（処理水出口）	mm	[redacted] (5.2*1, *2)	
	たて	mm	2800*1, *2	
	横	mm	3550*1, *2	
	高さ	mm	2500*1, *2	
	長さ*4	mm	2993*2	
材料	管*5	―	SUS304TP, SUS304	
個数		―	6 (ろ過膜　320 本／個)	

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「外筒」と記載。

(9) 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

			変 更 前*1	変 更 後
名称			G13-F132	変更なし
種類		－	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.28*2	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	呼び径	－	80 A	
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	－	SCS13	
	弁ふた	－	SCS13	
	弁体	－	SCS13	
駆動方法		－	空気作動	
個数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	G13-F132 機器ドレン処理系	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟 EL.2.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-B1-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.5.63 m以上

注記 ＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前*1	変　更　後
名　　称			G13-F133	変更なし
種　　類		－	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.28*2	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	呼び径	－	80 A	
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	－	SCS13	
	弁ふた	－	SCS13	
	弁体	－	SCS13	
駆動方法		－	空気作動	
個　　数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	G13-F133 機器ドレン処理系	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟 EL.2.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-B1-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.5.63 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	格納容器機器ドレンサンプスリット～格納容器機器ドレン配管分岐点*2		0.52*3	105	89.1	7.6*1	SUS316TP	機器ドレン処理系	格納容器機器ドレンサンプスリット～格納容器機器ドレン配管分岐点*4	変更なし 0.62*5	変更なし 200*5	変更なし*6, *7		
					―							89.1 / ― /89.1	7.6*1 / ― /7.6*1	SUS316TP
	格納容器機器ドレン配管分岐点～原子炉格納容器*2		0.52*3	105	89.1	7.6*1	SUS316TP		変更なし					
	原子炉格納容器～弁 G13-F132*2		0.52*3	105	89.1*8, *9	7.6*1, *8, *9	STPT42*8, *9		変更なし					
					89.1	7.6*1, *6	SUS316TP							
	弁 G13-F132～原子炉棟機器ドレンサンプ*2		0.27*3	79	89.1	5.5*1	STPT42		変更なし					
					89.1	5.5*1	STPT410							
	原子炉棟機器ドレンサンプポンプ吐出管	原子炉棟機器ドレンサンプポンプ～廃液収集タンク*10	1.03*3	65	76.3	5.2*1	STPT42		変更なし					
					89.1	5.5*1	STPT42							
					114.3	6.0*1	STPT42							
					114.3	6.0*1	STPT410							
	タービン建屋機器ドレンサンプポンプ吐出管	タービン建屋機器ドレンサンプポンプ～廃液収集タンク*11	1.03*3	65	76.3	5.2*1	STPT42		変更なし					
					89.1	5.5*1	STPT42							
					114.3	6.0*1	STPT42							

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料	名称			最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料
機器ドレン処理系	廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ吐出管	廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ～廃液収集タンク*12	1.03*3	65	48.6	5.1*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし						
					76.3	5.2*1	STPT42								
	廃液収集ポンプ吸込管	廃液収集タンク～廃液収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし						
	サージポンプA吸込管	サージタンクA～サージポンプA	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし						
	サージポンプA吐出管	サージポンプA～廃液収集ポンプ吐出管	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし						
	サージポンプB吸込管	サージタンクB～サージポンプB	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし						

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	サージポンプB吐出管	サージポンプB ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし						
					114.3	6.0*1	STPT410								
	廃液脱塩器～廃液サンプルタンク*13		1.32*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
			1.03*3		114.3	4.0*1	SUS304TP								
	廃液サンプルポンプ吸込管	廃液サンプルタンク ～ 廃液サンプルポンプ*14	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
	廃液サンプルポンプ吐出管	廃液サンプルポンプ ～ 補給水系*15	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
	凝縮水収集ポンプ吸込管	凝縮水収集タンク ～ 凝縮水収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
	凝縮水収集ポンプ吐出管	凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管	1.07*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
			1.42*3		114.3	6.0*1	STPT42								

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	凝集装置供給ポンプ吸込管	凝集装置供給タンク ～ 凝集装置供給ポンプ	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし						
					60.5	5.5*1	STPT410								
	凝集装置供給ポンプ吐出管	凝集装置供給ポンプ ～ 凝集沈澱装置	1.07*3	65	60.5	5.5*1	STPT42		変更なし						
			1.03*3		60.5	5.5*1	STPT42								
					48.6	5.1*1	STPT42								
					48.6	3.7*1	SUS304TP								
	凝集沈澱装置 ～ 廃液収集タンク		1.03*3	65	89.1	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
					89.1	5.5*1	STPT42								
					89.1	5.5*1	STPT410								
	廃液収集ポンプ出口分岐管 ～ 電磁ろ過器供給タンク		1.32*3	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし						
	廃棄物処理建屋機器ドレンサンプポンプA ～ 電磁ろ過器供給タンク		1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42		変更なし						
					48.6	5.1*1	STPT42								
					76.3	5.2*1	STPT42								
					76.3	5.2*1	SUS304TP								
	廃棄物処理建屋機器ドレンサンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋機器ドレンサンプポンプA出口管合流点		1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42		変更なし						
					48.6	5.1*1	STPT42								

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	弁 NR24-F007A ～ 電磁ろ過器供給タンク*16	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP	機器ドレン処理系	変更なし					
		静水頭		60.5	3.9*1	SUS316TP							
	弁 NR24-F007B ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B デカント水出口管合流点*17	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP		変更なし					
	電磁ろ過器供給タンク ～ 機器ドレン樹脂分離器 A	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP		変更なし					
				114.3	6.0*1	STPT42							
				89.1	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
		1.32*3		48.6	5.1*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	機器ドレン樹脂分離器 A ～ 電磁ろ過器 A	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42		変更なし					
				76.3	5.2*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	電磁ろ過器供給タンク出口管分岐点 ～ 機器ドレン樹脂分離器 B	静水頭	65	89.1	5.5*1	STPT42		変更なし					
				76.3	5.2*1	STPT42							
		1.32*3		48.6	5.1*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	機器ドレン樹脂分離器 B ～ 電磁ろ過器 B	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42		変更なし					
				76.3	5.2*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	電磁ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP		変更なし					
				165.2	7.1*1	STPT42							
				60.5	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
				89.1	5.5*1	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	電磁ろ過器B ～ 電磁ろ過器A出口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし					
				165.2	7.1*1	STPT42							
				60.5	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	超ろ過器供給タンク ～ 超ろ過器A	静水頭	65	355.6	11.1*1	SUS304TP		変更なし					
				355.6	11.1*1	STPT42							
				318.5	10.3*1	STPT42							
				216.3	8.2*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプA入口管 分岐点 ～ 超ろ過器B	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42		変更なし					
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプA入口管 分岐点 ～ 超ろ過器C	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42		変更なし					
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	超ろ過器供給ポンプA入口管 分岐点 ～ 超ろ過器D	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし					
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプD入口管 分岐点 ～ 超ろ過器E	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42		変更なし					
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプE入口管 分岐点 ～ 超ろ過器F	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42		変更なし					
		1.32*3		89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3		139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	[redacted] (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器A ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	超ろ過器B ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	超ろ過器C ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	超ろ過器D ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	超ろ過器E ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	超ろ過器F ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
				165.2	7.1*1	STPT42							
	超ろ過器A ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	超ろ過器B ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	超ろ過器C ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	超ろ過器D ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	超ろ過器E ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	超ろ過器F ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	超ろ過器出口集合管 ～ 機器ドレン処理水タンクA	静水頭	65	216.3	8.2*1	SUS304TP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	弁NR21-F021 ～ 機器ドレン処理水タンクB*19	静水頭	65	139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし					
	機器ドレン処理水タンクB ～ 機器ドレン処理水タンクA 出口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP		変更なし					
				89.1	5.5*1	SUS304TP							
		1.32*3		60.5	3.9*1	SUS304TP							
				114.3	6.0*1	SUS304TP							
	機器ドレン樹脂分離器A ～ 使用済樹脂貯蔵タンクB	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP		変更なし					
	機器ドレン樹脂分離器B ～ 機器ドレン樹脂分離器A 出口管合流点	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP		変更なし					

（続き）

変更前						変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	使用済樹脂貯蔵タンクB 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンクC （機器ドレン樹脂分離器側）	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし					
	電磁ろ過器A入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42		変更なし					
	電磁ろ過器B入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA 入口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42		変更なし					
	クラッドスラリタンクA 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクB （電磁ろ過器側）	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42		変更なし					
	超ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ クラッドスラリタンクA 入口管合流点	静水頭	65	60.5	5.5*1	STPT42		変更なし					
		1.32*3		60.5	5.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプA 入口管分岐点 ～ 電磁ろ過器A入口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	STPT42		変更なし					
				89.1	5.5*1	STPT42							
		1.32*3		60.5	5.5*1	STPT42							
				89.1	5.5*1	STPT42							
				76.3	5.2*1	STPT42							
	電磁ろ過器循環供給ポンプ 出口管分岐点 ～ 電磁ろ過器B入口管合流点	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42		変更なし					
				76.3	5.2*1	STPT42							

（続き）

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	クラッドスラリタンクA ～ クラッドスラリ上澄水受タンク	静水頭	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP	機器ドレン処理系	変更なし					
	クラッドスラリタンクB ～ クラッドスラリタンクA 出口管合流点	静水頭	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし					
	クラッドスラリ上澄水受タンク ～ クラッドスラリ濃縮器加熱器	静水頭	65	89.1	5.5*1	SUS304TP		変更なし					
		0.49*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP							
				76.3	5.2*1	SUS304TP							
				21.7	2.8*1	SUS304TP							
			120	21.7	2.8*1	SUS316LTP							
				60.5	3.9*1	SUS316LTP							
				165.2	7.1*1	SUS316LTP							
				139.8	6.6*1	SUS316LTP							
	クラッドスラリ濃縮器加熱器 ～ クラッドスラリ濃縮器	0.49*3	120	114.3	6.0*1	SUS316LTP		変更なし					
	クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器デミスタ	0.49*3	120	139.8	6.6*1	SUS316LTP		変更なし					
	クラッドスラリ濃縮器デミスタ ～ クラッドスラリ濃縮器復水器	0.49*3	120	139.8	6.6*1	SUS316LTP		変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP							
	クラッドスラリ濃縮器復水器 ～ 機器ドレン処理水タンクA 入口管合流点	静水頭	65	27.2	2.9*1	SUS304TP		変更なし					
				60.5	3.9*1	SUS304TP							
	クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器循環 ポンプ入口管合流点	0.49*3	120	165.2	7.1*1	SUS316LTP		変更なし					

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
機器ドレン処理系	クラッドスラリ濃縮器 循環ポンプ入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP	機器ドレン処理系	変更なし					
	クラッドスラリタンクA 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクB （クラッドスラリ濃縮器側）	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし					

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器機器ドレンサンプ排出管（格納容器機器ドレンサンプから原子炉棟機器ドレンサンプまで)」と記載。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。
＊4：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ペデスタル排水系）と兼用する。
＊5：重大事故等時における使用時の値を示す。
＊6：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。
＊7：本設備は既存の設備である。
＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月12日付け51資庁第12241号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅳ-1-5　液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-3-5　配管」による。
＊9：エルボを示す。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟機器ドレンサンプポンプ"A" "B" "C" "D"吐出管（原子炉棟機器ドレンサンプポンプ"A" "B" "C" "D"より廃液収集タンクまで)」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋機器ドレンサンプポンプ"A" "B" "C" "D"吐出管（タービン建屋機器ドレンサンプポンプ"A" "B" "C" "D"より廃液収集タンクまで)」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ吐出管（機器ドレンサンプポンプ"A" "B"より廃液収集タンクまで)」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液脱塩器より廃液サンプルタンク"A" "B"まで」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ"A" "B"吸込管（廃液サンプルタンク"A" "B"より廃液サンプルポンプ"A" "B"まで)」と記載。
＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ"A" "B"吐出管（廃液サンプルポンプ"A" "B"より復水貯蔵タンクまで)」と記載。
＊16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口第1元弁より電磁ろ過器供給タンクまで」と記載。
＊17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（C）デカント水出口第1元弁より使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口管合流点まで」と記載。
＊18：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1-1　機器ドレン処理系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-1-1-（12）　主配管」による。
＊19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機器ドレン処理水タンク（A）入口管三方弁より機器ドレン処理水タンク（B）まで」と記載。

2.2.2　床ドレン処理系

(2)　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度），最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

				変　更　前	変　更　後
名　　称				廃棄物処理棟床 ドレンサンプポンプ	変更なし
ポンプ	種　　類		－	うず巻形	
	容　　量		m^3/h/個	11.9*1	
	揚　　程		m	22*1	
	最高使用圧力		MPa	0.28*2	
	最高使用温度		℃	65*2	
	主要寸法	吸込内径	mm	80*1, *2	
		吐出内径	mm	40*1, *2	
		高　　さ	mm	3905*1, *2	
		コラム外径	mm	135*1, *2	
	材料	ケーシング	－	FC25	
	個　　数		－	2	
原動機	種　　類		－	三相誘導電動機	
	出　　力		kW/個	[redacted]	
	個　　数		－	2	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			床ドレン収集タンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	64.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	3400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (9.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3400*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			340*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *2	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*1, *2)	
	管台外径（入口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（入口）	mm	6.0*1, *2	
	高さ	mm	8073.5*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記 ＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			床ドレンサンプルタンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	64.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (13.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4400*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			440*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	6.0*1, *2	
	管台外径（出口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（出口）	mm	[redacted] (6.0*1, *2)	
	管台外径（入口）	mm	114.3*1, *2	
	管台外径（入口）	mm	6.0*1, *2	
	高　　さ	mm	5540*1	
材料	胴　　板	－	SM41A	
	鏡　　板	－	SM41A	
個　　数		－	2	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(9) 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

			変 更 前*1	変 更 後
名称			G13-F129	変更なし
種類		－	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.28*2	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	呼び径	－	80 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	－	SCS13	
	弁ふた	－	SCS13	
	弁体	－	SCS13	
駆動方法		－	空気作動	
個数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	G13-F129 床ドレン処理系	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟 EL.2.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-B1-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.5.63 m以上

注記 ＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前*1	変　更　後
名　　称			G13-F130	変更なし
種　　類		－	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.28*2	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	呼び径	－	80 A	
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	－	SCS13	
	弁ふた	－	SCS13	
	弁体	－	SCS13	
駆動方法		－	空気作動	
個　　数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	G13-F130 床ドレン処理系	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟 EL.2.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-B1-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.5.63 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
床ドレン処理系	格納容器床ドレンサンプスリット～格納容器床ドレン配管分岐点*3		0.52	105	89.1	7.6	SUS316TP	床ドレン処理系	格納容器床ドレンサンプスリット～格納容器床ドレン配管分岐点*4		変更なし 0.62*5	変更なし 200*5	変更なし*6, *7		
			－										89.1 / － /89.1	7.6 / － /7.6	SUS316TP
	格納容器床ドレン配管分岐点～原子炉格納容器*3		0.52	105	89.1	7.6	SUS316TP		変更なし						
	原子炉格納容器～弁 G13-F129*3		0.52	105	89.1*8, *9	7.6*8, *9	STPT42*8, *9		変更なし						
					89.1	7.6*6	SUS316TP								
	弁 G13-F129～原子炉棟床ドレンサンプ*3		0.27	79	89.1	5.5	STPT42		変更なし						
	サンプポンプ吐出管 原子炉棟床ドレン	原子炉棟床ドレンサンプポンプ～床ドレン収集タンク*10	1.03	65	76.3	5.2	STPT42		変更なし						
					114.3	6.0	STPT42								
					114.3	6.0	STPT410								
	サンプポンプ吐出管 タービン建屋床ドレン	タービン建屋床ドレンサンプポンプ～床ドレン収集タンク*11	1.03	65	76.3	5.2	STPT42		変更なし						
					89.1	5.5	STPT42								
					114.3	6.0	STPT42								

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
床ドレン処理系	廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ吐出管	廃棄物処理棟 床ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン収集タンク *12	1.03	65	48.6	5.1	STPT42	床ドレン処理系	変更なし						
					76.3	5.2	STPT42								
	床ドレン収集ポンプ吸込管	床ドレン収集タンク ～ 床ドレン収集ポンプ	1.03	65	114.3	6.0	STPT42		変更なし						
	床ドレンサンプルポンプ吸込管	床ドレンサンプルタンク ～ 床ドレンサンプルポンプ *13	1.03	65	114.3	6.0	STPT42		変更なし						
					114.3	6.0	STPT410								
	床ドレンサンプルポンプ吐出管	床ドレンサンプルポンプ ～ 廃液中和タンク入口管 *14	1.03	65	114.3	6.0	STPT42		変更なし						
					114.3	6.0	SUS316TP								
	床ドレンサンプルポンプ出口分岐管（床ドレン収集タンク戻り）～床ドレン収集タンク入口管		1.03	65	114.3	6.0	STPT42		変更なし						

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
床ドレン処理系	廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA ～ 床ドレン収集タンク 入口管合流点	1.03	65	60.5	5.5	STPT42	床ドレン処理系	変更なし					
				48.6	5.1	STPT42							
				76.3	5.2	STPT42							
				76.3	5.2	STPT410							
	廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA出口管合流点	1.03	65	60.5	5.5	STPT42		変更なし					
				48.6	5.1	STPT42							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器床ドレンサンプ排出管（格納容器床ドレンサンプから原子炉棟床ドレンサンプまで)」と記載。
＊4：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ペデスタル排水系）と兼用する。
＊5：重大事故等時における使用時の値を示す。
＊6：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。
＊7：本設備は既存の設備である。
＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅳ-1-5　液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-3-5　配管」による。
＊9：エルボを示す。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟床ドレンサンプポンプ″A″ ″B″ ″C″ ″D″吐出管（原子炉棟床ドレンサンプポンプ″A″ ″B″ ″C″ ″D″より床ドレン収集タンクまで)」と記載。
＊11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋床ドレンサンプポンプ″A″ ″B″ ″C″ ″D″吐出管（タービン建屋床ドレンサンプポンプ″A″ ″B″ ″C″ ″D″より床ドレン収集タンクまで)」と記載。
＊12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ吐出管（床ドレンサンプポンプ″A″ ″B″より床ドレン収集タンクまで)」と記載。
＊13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ″A″ ″B″吸込管（床ドレンサンプルタンク″A″ ″B″より床ドレンサンプルポンプ″A″ ″B″まで)」と記載。
＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ″A″ ″B″吐出管（床ドレンサンプルポンプ″A″ ″B″より廃液中和タンク入口管まで)」と記載。

2.2.3　再生廃液処理系

(4)　熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変　更　前	変　更　後
名　　称				廃液濃縮器加熱器	変更なし
種　　類			―	たて置直管式	
容量（設計熱交換量）			MW/個	4.88 *1	
管側	最高使用圧力		MPa	（正圧）0.34*1（負圧）0.10*1	
	最高使用温度		℃	149	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.34*1	
	最高使用温度		℃	149	
伝熱面積			m^2/個	95.4*2	
主要寸法	管側	胴内径	mm	901.7*2	
		胴板厚さ	mm	[redacted]（6.4*2）	
		鏡板厚さ	mm	[redacted]（6.4*2, *4）	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	914.4*2, *4 （中央部における内面の半径）	
			mm	54.9*2, *4 （すみの丸みの内半径）	
		フランジ厚さ	mm	[redacted]（50.8*2, *4）	
		平板厚さ	mm	[redacted]（38.1*2, *4）	
		管台外径（リサイクル入口）	mm	406.4*2, *4	
		管台厚さ（リサイクル入口）	mm	[redacted]（6.4*2, *4）	
		管台外径（リサイクル出口）	mm	323.9*2, *4	
		管台厚さ（リサイクル出口）	mm	[redacted]（6.4*2, *4）	

(続き)

				変更前	変更後
主要寸法	胴側	胴内径	mm	889.0*2	変更なし
		胴板厚さ	mm	[redacted] (12.7*2)	
		管台外径（蒸気入口）	mm	219.1*2, *4	
		管台厚さ（蒸気入口）	mm	[redacted] (8.2*2, *4)	
		管台外径（復水出口）	mm	88.9*2, *4	
		管台厚さ（復水出口）	mm	[redacted] (5.5*2, *4)	
	管板厚さ		mm	[redacted] (50.8*2)	
	伝熱管外径		mm	50.8*2	
	伝熱管厚さ		mm	1.2*2	
	高さ		mm	6230.3*2	
材料	管側	胴板	－	SUS316L SUS316L相当材 [redacted]	
		鏡板	－	SUS316L*4	
		平板	－	SB480相当材 [redacted]	
	胴側	胴板	－	SB35相当材 [redacted]	
	管板		－	SUS316L相当材 [redacted]	
	伝熱管		－	SUS316LTB相当材 [redacted]	
個数			－	2	

注記　＊1：SI単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年3月28日付け50資庁第1524号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-3　液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-3-2　廃液濃縮器加熱器」による。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			廃液濃縮器	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
処理流量		m³/h/個	6.8*1	
最高使用圧力		MPa	（正圧）0.34*2 （負圧）0.10*2	
最高使用温度		℃	105	
主要寸法	胴内径	mm	2400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）	
	さら形鏡板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）	
	円すい形鏡板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1, *4）	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2400*1, *4 （中央部における内面の半径）	
			240*1, *4 （すみの丸みの内半径）	
	円すい鏡板の形状に係る寸法	mm	240*1, *4 （すその丸みの内半径）	
	管台外径（リサイクル出口）	mm	508*1, *4	
	管台厚さ（リサイクル出口）	mm	[redacted]（10.0*1, *4）	
	管台外径（蒸気出口）	mm	508*1, *4	
	管台厚さ（蒸気出口）	mm	[redacted]（10.0*1, *4）	
	管台外径（リサイクル入口）	mm	318.5*1, *4	
	管台厚さ（リサイクル入口）	mm	[redacted]（10.3*1, *4）	
	フランジ厚み	mm	[redacted]（82.0*1, *4）	
	高さ	mm	5362.2*1	
材料	胴板	－	SUS316L	
	鏡板	－	SUS316L相当材[redacted]	
	円すい鏡板	－	SUS316L*3	
個数		－	2	

（続き）

		変　更　前	変　更　後
漏　え　い　防　止　の た　め　の　制　御　方　法	－	－	変更なし

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：SI単位に換算したものである。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年3月28日付け50資庁第1524号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-3　液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-3-1　廃液濃縮器」による。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			廃液中和タンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	68.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	100	
主要寸法	胴内径	mm	3400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (12.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	3400*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			340*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.0*1, *3	
	管台外径（出口＆ドレン）	mm	114.3*1, *3	
	管台厚さ（出口＆ドレン）	mm	[redacted] (6.0*1, *3)	
	管台外径（入口）	mm	165.2*1, *3	
	管台厚さ（入口）	mm	7.1*1, *3	
	高さ	mm	8476*1	
材料	胴板	－	SUS316L	
	鏡板	－	SUS316L	
個数		－	2	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記 ＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			廃棄物処理建屋高電導度 ドレンサンプタンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	8.2*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	1700*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1700*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			170*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	管台外径 (オーバフロー入口)	mm	165.2*1, *3	
	管台厚さ (オーバフロー入口)	mm	[redacted] (7.1*1, *3)	
	高さ	mm	3740*1	
材料	胴板	－	SUS316L	
	鏡板	－	SUS316L	
個　　数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-1-3　再生廃液処理系の強度計算書」のうち，添付資料「Ⅴ-2-2-1-3-(1)　廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(10) 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
	名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
再生廃液処理系	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプA ～ 廃液中和タンク入口管合流点		1.03	65	60.5	3.9	SUS316LTP	再生廃液処理系	変更なし					
					48.6	3.7	SUS316LTP							
					76.3	5.2	SUS316LTP							
					76.3	5.2	SUS316TP							
	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプA 出口管合流点		1.03	65	60.5	3.9	SUS316LTP		変更なし					
					48.6	3.7	SUS316LTP							
	廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ吐出管	廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管*3	1.03	65	48.6	3.7	SUS316TP		変更なし					
					76.3	3.5	SUS316TP							
	廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク*4		1.03	65	165.2	7.1	SUS316TP		変更なし					
	廃液濃縮器供給ポンプ吸込管	廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ*5	1.03	65	114.3	6.0	SUS316TP		変更なし					
					60.5	3.9	SUS316TP							
					48.6	3.7	SUS316TP							
	廃液濃縮器供給ポンプ吐出管	廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁G13-F1612A,B*6	1.03	65	48.6	3.7	SUS316TP		変更なし					

（続き）

変更前								変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
再生廃液処理系	廃液濃縮器供給ポンプA吐出管	弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A 吸込管 *7	1.03	65	48.6	3.7	SUS316TP	再生廃液処理系	変更なし						
			(正圧) 1.03 (負圧) 0.10		48.6	3.7	SUS316TP								
				105	48.6	3.7	SUS316LTP								
	廃液濃縮器供給ポンプB吐出管	弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B 吸込管 *8	1.03	65	48.6	3.7	SUS316TP		変更なし						
			(正圧) 1.03 (負圧) 0.10		48.6	3.7	SUS316TP								
				105	48.6	3.7	SUS316LTP								
	廃液濃縮器循環ポンプA吸込管	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	508.0	6.5	SUS316LTP		変更なし						
	廃液濃縮器循環ポンプB吸込管	廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	508.0	6.5	SUS316LTP		変更なし						
	廃液濃縮器循環ポンプA吐出管	廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	406.4	6.5	SUS316LTP		変更なし						
	廃液濃縮器循環ポンプB吐出管	廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	406.4	6.5	SUS316LTP		変更なし						

（続き）

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
再生廃液処理系	廃液濃縮器加熱器A ～ 廃液濃縮器A		(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	318.5	6.5	SUS316LTP	再生廃液処理系	変更なし					
	廃液濃縮器加熱器B ～ 廃液濃縮器B		(正圧) 0.34 (負圧) 0.10	105	318.5	6.5	SUS316LTP		変更なし					
	廃液濃縮器A出口管	廃液濃縮器A ～ 廃液濃縮器復水器A	(正圧) 0.06 (負圧) 0.10	105	508.0	6.5	SUS304TP		変更なし					
	廃液濃縮器B出口管	廃液濃縮器B ～ 廃液濃縮器復水器B	(正圧) 0.06 (負圧) 0.10	105	508.0	6.5	SUS304TP		変更なし					
	廃液濃縮器復水器A出口管	廃液濃縮器復水器A ～ 凝縮水収集タンク	(正圧) 1.03 (負圧) 0.10	65	89.1	4.0	SUS304TP		変更なし					
					76.3	3.5	SUS304TP							
	廃液濃縮器復水器B出口管	廃液濃縮器復水器B ～ 凝縮水収集タンク	(正圧) 1.03 (負圧) 0.10	65	89.1	4.0	SUS304TP		変更なし					
					76.3	3.5	SUS304TP							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
再生廃液処理系	廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ*9	(正圧) 1.03 (負圧) 0.10	105	48.6	3.7	SUS316LTP	再生廃液処理系	変更なし					
				60.5	3.9	SUS316LTP							
		1.03	100	60.5	3.9	SUS316LTP							
	濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク*10	1.03	100	60.5	3.9	SUS316LTP		変更なし					

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ"A" "B"吐出管（高電導度ドレンサンプポンプより廃液中和タンク"A" "B"入口管まで)」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液中和タンク"A" "B"入口管」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ"A" "B"吸込管（廃液中和タンク"A" "B"より廃液濃縮器供給ポンプまで)」と記載。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ"A" "B"吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ"A" "B"より出口弁まで)」と記載。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ"A"吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ"A"出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ"A"吸込管まで)」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ"B"吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ"B"出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ"B"吸込管まで)」と記載。
＊9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ A,B より濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C ヘッダまで」と記載。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C ヘッダより濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C まで」と記載。

2.3　固体廃棄物処理系

2.3.1　固体廃棄物処理系

(1)　熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変　更　前	変　更　後
名　　称				蒸気加熱器	変更なし
種　　類			―	たて置円筒形	
容量（設計熱交換量）			kW/回分/個	71.2 *1	
管側	最高使用圧力		MPa	0.96*1	
	最高使用温度		℃	183	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.96*1	
	最高使用温度		℃	183	
伝熱面積			m^2/個	2.58*2	
主要寸法	管側	伝熱管外径	mm	34.0*2, *3	
		伝熱管厚さ	mm	[redacted] (3.4*2, *3)	
		管台外径（蒸気入口）	mm	34.0*2, *3	
		管台厚さ（蒸気入口）	mm	[redacted] (3.4*2, *3)	
		管台外径（凝縮水出口）	mm	34.0*2, *3	
		管台厚さ（凝縮水出口）	mm	[redacted] (3.4*2, *3)	
	胴側	胴内径	mm	950*2	
		胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*2, *3)	
		鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*2, *3)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	950*2, *3 (鏡板の内面における長径)	
			mm	237.5*2, *3 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
		フランジ厚さ	mm	[redacted] (79.0*2, *3)	
		管台外径（水入口）	mm	60.5*2, *3	
		管台厚さ（水入口）	mm	[redacted] (5.5*2, *3)	

（続き）

				変　更　前	変　更　後
主要寸法	胴側	管　台　外　径（水　出　口）	mm	60.5*2, *3	変更なし
		管　台　厚　さ（水　出　口）	mm	[redacted] (5.5*2, *3)	
	高　さ		mm	1643*2	
材料	管側	伝　熱　管	－	SUS304TP	
	胴側	胴　板	－	SM41A	
		鏡　板	－	SM41A*3	
	伝　熱　管		－	SUS304TP	
個　数			－	1	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

				変更前	変更後
名称				タンクベント冷却器	変更なし
種類			―	たて置直管式	
容量（設計熱交換量）			kW/個	69.3	
管側	最高使用圧力		MPa	（負圧）0.005	
	最高使用温度		℃	65	
胴側	最高使用圧力		MPa	0.86	
	最高使用温度		℃	65	
伝熱面積			m^2/個	16.57*1	
主要寸法	管側	胴内径	mm	350.0*1	
		胴板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）	
		円すい胴板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1, *3）	
		鏡板厚さ	mm	[redacted]（10.0*1）	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	350*1, *3 （鏡板の内面における長径）	
			mm	87.5*1, *3 （鏡板の内面における短径の2分の1）	
		フランジ厚さ	mm	[redacted]（36.0*1, *3）	
		管台外径（ガス入口）	mm	216.3*1, *3	
		管台厚さ（ガス入口）	mm	[redacted]（8.2*1, *3）	
		管台外径（ガス出口）	mm	267.4*1, *3	
		管台厚さ（ガス出口）	mm	[redacted]（15.1*1, *3）	

（続き）

				変　更　前	変　更　後
主要寸法	胴側	胴内径	mm	350.0*1	変更なし
		胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
		管台外径（水入口）	mm	60.5*1, *3	
		管台厚さ（水入口）	mm	[redacted] (8.7*1, *3)	
		管台外径（水出口）	mm	60.5*1, *3	
		管台厚さ（水出口）	mm	[redacted] (8.7*1, *3)	
	管板厚さ		mm	[redacted] (25.0*1)	
	伝熱管外径		mm	25.4*1	
	伝熱管厚さ		mm	[redacted] (2.6*1)	
	高さ		mm	3568*1	
材料	管側	胴板	－	SM400A	
		鏡板	－	SM400A	
	胴側	胴板	－	SM400A	
	管板		－	S25C	
	伝熱管		－	SUS304TB	
個数			－	1	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成8年9月17日付け発管業発第118号にて認可された工事計画の添付資料「2-1　タンクベント冷却器強度計算書」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			廃液フィルタ逆洗水受タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	17.0*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	胴内径	mm	2000*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (6.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (6.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2000*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			200*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *3	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	60.5*1, *3	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.9*1, *3)	
	高さ	mm	6798.5*1	
材料	胴板	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
個数		―	2	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記 ＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-5 廃液フィルタ逆洗水受タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変更後
名　　称*1			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形*2	
容　　量		m³/個	25*3	
最高使用圧力		MPa	静水頭*4	
最高使用温度		℃	94	
主要寸法	胴内径*5	mm	2500*3	
	胴板厚さ*6	mm	[redacted](9.0*3)	
	鏡板厚さ*8	mm	[redacted](9.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2500*3,*7 (鏡板の中央部における内面の半径)	
			250*3,*7 (すみの丸みの内半径)	
	平板厚さ	mm	9.0*3,*9	
	高さ	mm	5980*3,*9,*10	
材料	胴板	－	SUS304L	
	鏡板	－	SUS304L	
個　　数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：記載の適正化を行う。原子炉冷却材浄化系から固体廃棄物処理系に整理。
＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。
＊3：公称値を示す。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
＊6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
＊7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年8月30日付け建建発第98号にて届け出た工事計画書の添付書類「Ⅲ-1-2-4　フィルタ脱塩器逆洗水受タンクの規格計算書」による。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
＊9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
＊10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「6590」と記載。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			床ドレンフィルタ 逆洗水受タンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	17.0*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	80	
主要寸法	胴内径	mm	2000*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (6.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (6.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2000*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			200*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *2	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	60.5*1, *2	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.9*1, *2)	
	高さ	mm	6798.5*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個　　数		－	1	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			廃液スラッジ貯蔵タンク	変更なし
種類		－	たて置円筒形	
容量		m^3/個	161*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	5200*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (12.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5200*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			520*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *2	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	48.6*1, *2	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.7*1, *2)	
	管台外径（入口）	mm	114.3*1, *2	
	管台厚さ（入口）	mm	6.0*1, *2	
	高さ	mm	8825.5*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個数		－	2	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前	変更後
名称			床ドレンスラッジ貯蔵タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	110*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4400*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (10.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4400*1, *2 (中央部における内面の半径)	
			440*1, *2 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.5*1, *2	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	48.6*1, *2	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.7*1, *2)	
	管台外径（入口）	mm	48.6*1, *2	
	管台厚さ（入口）	mm	3.7*1, *2	
	高さ	mm	8268.5*1	
材料	胴板	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
個数		―	1	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			濃縮廃液貯蔵タンク	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	94.6*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	120	
主要寸法	胴内径	mm	4000*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (18.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (21.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4000*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			400*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	9.0*1, *3	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	89.1*1, *3	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (5.5*1, *3)	
	管台外径（入口）	mm	60.5*1, *3	
	管台厚さ（入口）	mm	3.9*1, *3	
	高さ	mm	8606*1	
材料	胴板	－	SM41A	
	鏡板	－	SM41A	
個　　数		－	3	
漏えい防止のための制御方法		－	－	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-7　濃縮廃液貯蔵タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			使用済樹脂貯蔵タンク	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	132.5*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	4800*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (12.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	4800*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			480*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.0*1, *3	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	48.6*1, *3	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.7*1, *3)	
	高さ	mm	8547*1	
材料	胴板	―	SUS304	
	鏡板	―	SUS304	
個　　数		―	1	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-8　使用済樹脂貯蔵タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			使用済粉末樹脂貯蔵タンク	変更なし
種　　類		―	たて置円筒形	
容　　量		m^3/個	144*1	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	5000*1	
	胴板厚さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted] (12.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	5000*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			500*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	4.0*1, *3	
	管台外径（出口及びドレン）	mm	48.6*1, *3	
	管台厚さ（出口及びドレン）	mm	[redacted] (3.7*1, *3)	
	管台外径（入口）	mm	114.3*1, *3	
	管台厚さ（入口）	mm	6.0*1, *3	
	高さ	mm	8586*1	
材料	胴板	―	SUS304	
	鏡板	―	SUS304	
個　　数		―	2	
漏えい防止のための制御方法		―	―	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅲ-1-2　液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，添付資料「Ⅲ-1-2-9　使用済粉末樹脂貯蔵タンク」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
固体廃棄物処理系	逆洗水ポンプ廃液フィルタ吸込管	廃液フィルタ 逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ 逆洗水ポンプ*3	1.03	65	60.5	3.9	SUS304TP	固体廃棄物処理系	変更なし						
					60.5	5.5	STPT42								
	逆洗水ポンプ廃液フィルタ吐出管	廃液フィルタ 逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管*4	1.03	65	48.6	5.1	STPT42		変更なし						
	廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク*5		1.03	65	114.3	6.0	STPT42		変更なし						
	逆洗水ポンプ床ドレンフィルタ吸込管	床ドレンフィルタ 逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ 逆洗水ポンプ	1.03	65	60.5	3.9	SUS304TP		変更なし						
					60.5	5.5	STPT42								
	逆洗水ポンプ床ドレンフィルタ吐出管	床ドレンフィルタ 逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	1.07	65	48.6	5.1	STPT42		変更なし						
			1.03		48.6	5.1	STPT42								

（続き）

変更前								変更後							
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
固体廃棄物処理系	原子炉冷却材浄化系	フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ*6	0.98	94	60.5	5.5	SUS304TP	固体廃棄物処理系	変更なし						
					60.5	3.9	SUS304TP								
		フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点*6	1.03	65	34.0	4.5	STPT42		変更なし						
					48.6	5.1	STPT42								
		燃料プール冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂 貯蔵タンク入口管*6	1.03	65	60.5	5.5	STPT42		変更なし						
	燃料プール冷却材浄化系	フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ*6	1.02	66	60.5	3.9	STPT42		変更なし						
		フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点*6	1.03	65	48.6	5.1	STPT42		変更なし						
					34.0	4.5	STPT42								
					60.5	5.5	STPT42								

（続き）

変更前							変更後						
名称			最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力*1 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
固体廃棄物処理系	使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管～使用済粉末樹脂貯蔵タンク*7		1.03	65	114.3	6.0	STPT42	固体廃棄物処理系	変更なし					
固体廃棄物処理系	濃縮廃液ポンプ吸込管	濃縮廃液貯蔵タンク～濃縮廃液ポンプ*8	1.03	100	89.1	4.0	SUS316LTP	固体廃棄物処理系	変更なし					
				65	89.1	4.0	SUS316LTP							
					60.5	3.9	SUS316LTP							

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。
＊2：公称値を示す。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ"A" "B"吸込管（廃液フィルタ逆洗水受タンク"A" "B"より廃液フィルタ逆洗水ポンプ"A" "B"まで)」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ"A" "B"吐出管（廃液フィルタ逆洗水ポンプ"A" "B"より廃液スラッジ貯蔵タンク入口管まで)」と記載。
＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジ貯蔵タンク"A" "B"入口管」と記載。
＊6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。
＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂貯蔵タンク"A" "B"入口管」と記載。
＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液ポンプ"A" "B" "C"吸込管（濃縮廃液貯蔵タンク"A" "B" "C"より濃縮廃液ポンプ"A" "B" "C"まで)」と記載。

(14) 減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（１）から（１３）までに掲げるもの以外の主要機器の名称，種類，容量又は処理能力，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

				変　更　前	変　更　後
名　　称				減容機	変更なし
本体	種　　類		－	門型油圧プレス	
	処　理　能　力		t/個	10*1	
	主要寸法	た　　て	mm	1190*1, *2	
		横	mm	1500*1, *2	
		高　　さ	mm	2865*1, *2	
	材料	ラ　ム　ロ　ッ　ド	－	S45C	
		油　圧　シ　リ　ン　ダ	－	STKM13C	
	個　　数		－	1	
原動機	プレス用	種　　類	－	三相誘導電動機	
		出　　力	kW/個	[redacted]	
		個　　数	－	1	
	換気用	種　　類	－	三相誘導電動機	
		出　　力	kW/個	[redacted]	
		個　　数	－	1	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

2.3.2　使用済樹脂移送系

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
使用済樹脂移送系	既設使用済樹脂貯蔵タンク入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B	1.32*2	65	114.3	6.0	SUS316TP	使用済樹脂移送系	変更なし					
	使用済樹脂貯蔵タンク B 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク C (廃液脱塩器側)	1.32*2	65	114.3	6.0	SUS316TP		変更なし					
	使用済樹脂貯蔵タンク B ～ 弁 NR24-F007A*3	静水頭	65	60.5	3.9	SUS316TP		変更なし					
	使用済樹脂貯蔵タンク C ～ 弁 NR24-F007B*4	静水頭	65	60.5	3.9	SUS316TP		変更なし					

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：ＳＩ単位に換算したもの。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク (B) より第１元弁まで」と記載。
＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク (C) より第１元弁まで」と記載。

2.3.3　濃縮廃液減容固化系

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
濃縮廃液減容固化系	濃縮廃液ポンプ出口管分岐部 ～ 濃縮廃液受タンク	2.01*2	65	48.6	3.7	SUS316LTP	濃縮廃液減容固化系	変更なし					
	濃縮廃液受タンク ～ 減容固化系移送ポンプA	静水頭	80	139.8	6.6	SUS316LTP		変更なし					
		1.03*2		139.8	6.6	SUS316LTP							
	減容固化系移送ポンプA ～ 減容固化系供給タンク	1.03*2	80	89.1	5.5	SUS316LTP		変更なし					
				139.8	6.6	SUS316LTP							
				60.5	3.9	SUS316LTP							
	濃縮廃液受タンク出口管分岐点 ～ 減容固化系移送ポンプB	静水頭	80	139.8	6.6	SUS316LTP		変更なし					
		1.03*2		139.8	6.6	SUS316LTP							
	減容固化系移送ポンプB ～ 減容固化系移送ポンプA出口管合流点	1.03*2	80	89.1	5.5	SUS316LTP		変更なし					
				139.8	6.6	SUS316LTP							
	減容固化系供給タンク ～ 減容固化系乾燥機	静水頭	80	89.1	5.5	SUS316LTP		変更なし					
				21.7	2.8	SUS316LTP							
		1.03*2		21.7	2.8	SUS316LTP							

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
濃縮廃液減容固化系	減容固化系供給タンク出口管分岐点 ～ 減容固化系循環ポンプA	静水頭	80	89.1	5.5	SUS316LTP	濃縮廃液減容固化系	変更なし					
		1.03*2		89.1	5.5	SUS316LTP							
	減容固化系循環ポンプA ～ 減容固化系供給タンク	1.03*2	80	60.5	3.9	SUS316LTP		変更なし					
				89.1	5.5	SUS316LTP							
	減容固化系循環ポンプA入口管分岐点 ～ 減容固化系循環ポンプB	静水頭	80	89.1	5.5	SUS316LTP		変更なし					
		1.03*2		89.1	5.5	SUS316LTP							
	減容固化系循環ポンプB ～ 減容固化系循環ポンプA出口管合流点	1.03*2	80	60.5	3.9	SUS316LTP		変更なし					
				89.1	5.5	SUS316LTP							
	減容固化系乾燥機 ～ 減容固化系ミストセパレータ	静水頭	105	165.2	7.1	SUS316LTP		変更なし					
	減容固化系ミストセパレータ ～ 減容固化系デミスタ	静水頭	105	165.2	7.1	SUS316LTP		変更なし					

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
濃縮廃液減容固化系	減容固化系デミスタ～減容固化系乾燥機復水器	静水頭	105	165.2	7.1	SUS316LTP	濃縮廃液減容固化系	変更なし					
	減容固化系乾燥機復水器～減容固化系乾燥機排気ブロワ	静水頭	105	48.6	3.7	SUS316LTP		変更なし					
		大気圧		48.6	3.7	SUS316LTP							
	減容固化系乾燥機復水器～減容固化系ミストセパレータ	静水頭	105	48.6	3.7	SUS316LTP		変更なし					
	減容固化系ミストセパレータ～減容固化系溶解タンク入口集合管	静水頭	105	76.3	5.2	SUS316LTP		変更なし					
				48.6	3.7	SUS316LTP							
		1.03*2		48.6	3.7	SUS316LTP							
				114.3	6.0	SUS316LTP							
	減容固化系溶解タンク入口集合管～減容固化系溶解タンク	1.03*2	105	114.3	6.0	SUS316LTP		変更なし					

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
濃縮廃液減容固化系	減容固化系 溶解タンク ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレン サンプポンプ 出口管合流点	静水頭	105	76.3	5.2	SUS316LTP	濃縮廃液減容固化系	変更なし					
		1.03*2		76.3	5.2	SUS316LTP							
				48.6	3.7	SUS316LTP							
				60.5	3.9	SUS316LTP							
			65	60.5	3.9	SUS316LTP							
	減容固化系乾燥機 ～ 減容固化系 水分計ホッパ	静水頭	183	318.5	10.3	SUS316LTP		変更なし					
	減容固化系 水分計ホッパ ～ 弁 NR23-F018*3	静水頭	183	318.5	10.3	SUS316LTP		変更なし					
	減容固化系 造粒機 ～ 減容固化系 トロンメル	大気圧	190	165.2	7.1	SUS316TP		変更なし					
	減容固化系 トロンメル ～ 減容固化系 ペレットホッパ	大気圧	190	165.2	7.1	SUS316TP		変更なし					
	減容固化系 ペレットホッパ ～ 減容固化系 ペレット充填装置	大気圧	190	165.2	7.1	SUS316TP		変更なし					

（続き）

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
濃縮廃液減容固化系	減容固化系 造粒機 ～ 減容固化系 粒子フィルタ	大気圧	190	89.1	5.5	SUS316TP	濃縮廃液減容固化系	変更なし					
		0.009*2		89.1	5.5	SUS316TP							
	減容固化系 ペレットホッパ ～ 減容固化系 粒子フィルタ 入口管合流点	大気圧	190	48.6	3.7	SUS316TP		変更なし					
	減容固化系 トロンメル ～ 減容固化系 ペレットホッパ 出口管合流点	大気圧	190	48.6	3.7	SUS316TP		変更なし					
	減容固化系 粒子フィルタ ～ 減容固化系 高性能粒子フィルタ	0.009*2	80	89.1	5.5	STPT42		変更なし					
		大気圧		89.1	5.5	STPT42							
	減容固化系 高性能粒子フィルタ ～ 減容固化系 粒子ブロワ	大気圧	80	89.1	5.5	STPT42		変更なし					

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：ＳＩ単位に換算したもの。
＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「減容固化系水分計ホッパより減容固化系水分計ホッパ下部三方弁まで」と記載。

(14) 減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（１）から（１３）までに掲げるもの以外の主要機器の名称，種類，容量又は処理能力，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

				変　更　前	変更後
名称				減容固化系乾燥機	変更なし
種類			－	たて置遠心薄膜式	
容量			kg/h	200	
最高使用圧力	本体胴側		MPa	0.20*1,*2	
	本体加熱胴側		MPa	0.96*1	
最高使用温度			℃	183	
主要寸法	本体胴内径		mm	878*3	
	本体加熱胴内径		mm	990*3	
	本体胴厚さ		mm	[redacted] (25.0*3)	
	本体加熱胴厚さ		mm	[redacted] (12.0*3)	
	全高		mm	4750*3	
材料	本体胴側胴板		－	SGV42 [redacted]	
	本体胴側平板		－	SUSF316L	
	本体加熱胴板		－	SGV42	
個数			－	1	
原動機	種類		－	三相誘導電動機	
	出力		kW	[redacted]	
	個数		－	1	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したものである。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内圧2.0　外圧0.1」と記載している。

＊3：公称値を示す。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅴ-2-2-2-1　濃縮廃液減容固化系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-2-1-(5)　減容固化系乾燥機」による。

			変　更　前	変更後
名　　称			減容固化系ミストセパレータ	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
処　理　能　力		kg/h	158	
最　高　使　用　圧　力		MPa	0.20*1,*2	
最　高　使　用　温　度		℃	105	
主要寸法	胴　外　径	mm	267.4*3	
	胴　板　厚　さ	mm	[redacted](9.3*3)	
	上　平　板　厚　さ	mm	[redacted](32.0*3)	
	下　平　板　厚　さ	mm	[redacted](20.0*3)	
	全　高	mm	3600*3	
材料	胴　板	－	SUS316LTP	
	上　平　板	－	SUSF316L	
	下　平　板	－	SUSF316L	
個　数		－	1	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したものである。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内圧2.0　外圧0.1」と記載している。

＊3：公称値を示す。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅴ-2-2-2-1　濃縮廃液減容固化系の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-2-1-(6)　減容固化系ミストセパレータ」による。

2.3.4　雑固体廃棄物焼却設備

(4)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変　更　前	変更後
名称			廃油タンク	変更なし
種類		―	たて置円筒形	
容量		m^3/個	[redacted](1.9*2)	
最高使用圧力		MPa	静水頭	
最高使用温度		℃	65	
主要寸法	胴内径	mm	1300*2	
	胴板厚さ	mm	[redacted](6.0*2)	
	鏡板厚さ	mm	[redacted](6.0*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1300*2, *3 (中央部における内面の半径)	
			130*2, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平板（屋根）厚さ	mm	[redacted](9*1, *2)	
	管台外径（廃油出口）	mm	48*1, *2	
	管台厚さ（廃油出口）	mm	[redacted](6.4*2, *3)	
	マンホール外径	mm	512*1, *2	
	マンホール厚さ	mm	[redacted](6*1, *2)	
	マンホール平板厚さ	mm	[redacted](9*1, *2)	
	高さ*4	mm	1488*2, *5	
材料	胴板	―	SM41A	
	鏡板	―	SM41A	
個数		―	1	
漏えい防止のための制御方法		―	液位高警報による 廃油受入ポンプ手動停止*1	

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：公称値を示す。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 58 年 12 月 13 日付け 58 資庁第 15229 号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅴ-2-2-2-2　雑固体廃棄物焼却設備の強度計算書」のうち，「Ⅴ-2-2-2-2-(1)　廃油タンク」による。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

＊5：記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。既工事計画書には「1830」と記載。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
雑固体廃棄物焼却設備	廃油タンク ～ 廃油バーナ	静水頭	65	34.0	4.5	STPT42	雑固体廃棄物焼却設備	変更なし					
		0.39*2		27.2	3.9	STPT42							

注記　＊1：公称値を示す。
　　＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

2.3.5　雑固体減容処理設備

（10）　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径*1（mm）	厚さ（mm）	材料	名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径（mm）	厚さ（mm）	材料
雑固体減容処理設備	高周波溶融炉 ～ 溶融炉２次燃焼器	大気圧	200	812.8	[redacted] (12.0*1)	SS400	雑固体減容処理設備	変更なし					
	溶融炉２次燃焼器燃焼室 ～ 溶融炉２次燃焼器	大気圧	200	711.2	[redacted] (12.0*1)	SS400		変更なし					
				863.6	[redacted] (12.0*1)	SS400							
				1016.0	[redacted] (12.0*1)	SS400							
	溶融炉２次燃焼器 ～ 溶融炉排ガス冷却器	大気圧	200	914.4	[redacted] (12.0*1)	SS400		変更なし					
	溶融炉排ガス冷却器 ～ 空気混合部	大気圧	200	609.6	[redacted] (12.0*1)	SS400		変更なし					
	空気混合部 ～ 溶融炉セラミックフィルタ	大気圧	200	406.4	[redacted] (12.0*1)	SS400		変更なし					
	溶融炉セラミックフィルタ ～ 溶融炉排ガスフィルタ	大気圧	250	267.4	6.5*1	SUS316LTP		変更なし					

注記　＊1：公称値を示す。

2.3.6　サイトバンカプール水浄化系

(8)　ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

			変　更　前	変　更　後
名　　称			プール水脱塩器	変更なし
種　　類		－	たて置円筒形	
処　理　流　量		m^3/h/個	2*1	
最　高　使　用　圧　力		MPa	1.04	
最　高　使　用　温　度		℃	65	
主要寸法	胴　内　径	mm	600*1	
	胴　板　厚　さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡　板　厚　さ	mm	[redacted] (8.0*1)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	600*1, *3 (中央部における内面の半径)	
			60*1, *3 (すみの丸みの内半径)	
	平　板　厚　さ	mm	[redacted] (62.0*1)	
	フ　ラ　ン　ジ　厚　さ	mm	[redacted] (62.0*1, *3)	
	管台外径（流体出口）	mm	48.6*1, *3	
	管台厚さ（流体出口）	mm	[redacted] (3.7*1, *3)	
	管台外径（流体入口）	mm	48.6*1, *3	
	管台厚さ（流体入口）	mm	[redacted] (3.7*1, *3)	
	高　さ	mm	2174*1	
材料	胴　板	－	SUS304	
	鏡　板	－	SUS304	
	平　板	－	SUSF304	
個　数		－	1	

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成10年11月18日付け平成10・11・11資第15号にて認可された工事計画の添付資料「Ⅳ-2-2　プール水脱塩器の強度計算書」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(10)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前							変更後						
名　　称*1		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外　径*2 (mm)	厚　さ*2 (mm)	材　料	名　　称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外　径 (mm)	厚　さ (mm)	材　料
サイトバンカプール水浄化系	サイトバンカプール ～ スキマサージタンク	静水頭	65	114.3	6.0	SUS304TP	サイトバンカプール水浄化系	変更なし					
	スキマサージタンク ～ プール水浄化フィルタ	静水頭	65	76.3	5.2	SUS304TP		変更なし					
		1.03*3		48.6	3.7	SUS304							
				60.5	3.9	SUS304TP							
				76.3	5.2	SUS304TP							
	スキマサージタンク 出口管分岐点 ～ プール水浄化ポンプA 出口管合流点	静水頭	65	76.3	5.2	SUS304TP		変更なし					
		1.03*3		48.6	3.7	SUS304							
				60.5	3.9	SUS304TP							
	プール水浄化フィルタ ～ サイトバンカプール	1.03*3	65	60.5	3.9	SUS304TP		変更なし					
	プール水浄化フィルタ 出口管分岐点 ～ プール水脱塩器	1.04	65	48.6	3.7	SUS304TP		変更なし					
	プール水脱塩器 ～ プール水浄化フィルタ 出口管合流点	1.04	65	48.6	3.7	SUS304TP		変更なし					

注記　＊1：記載の適正化を行う。液体廃棄物処理系から固体廃棄物処理系に整理。
＊2：公称値を示す。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

5　放射性廃棄物の廃棄施設の基本設計方針，適応基準及び適応規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 放射性廃棄物の廃棄施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 放射性廃棄物の廃棄施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 放射性廃棄物の廃棄施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針（昭和50年5月13日原子力委員会決定） ・日本建築学会　2005年改訂　鋼構造設計規準－許容応力度設計法－ ・日本建築学会　1996年　容器構造設計指針 ・日本建築学会　1999年改訂　鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 ・日本建築学会　1980年　塔状鋼構造設計指針・同解説 ・日本建築学会　2007年　煙突構造設計指針 ・日本建築センター　1982年　煙突構造設計施工指針	第2章　個別項目 放射性廃棄物の廃棄施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針（昭和50年5月13日原子力委員会決定） ・日本建築学会　2005年改訂　鋼構造設計規準－許容応力度設計法－ ・日本建築学会　1996年　容器構造設計指針 ・日本建築学会　1999年改訂　鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 ・日本建築学会　1980年　塔状鋼構造設計指針・同解説 ・日本建築学会　2007年　煙突構造設計指針 ・日本建築センター　1982年　煙突構造設計施工指針

変　更　前	変　更　後
・乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針（JEAG4616-2003）	・乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針（JEAG4616-2003）

放射線管理施設

1　放射線管理用計測装置に係る次の事項（警報装置を有する場合は，その動作範囲を付記すること。）

(1)　プロセスモニタリング設備に係る次の事項

ハ　放射性物質により汚染するおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し，監視・記録の場所を付記すること。）及び個数

・常設

			変更前			変更後		
名称			排ガス放射線モニタ			変更なし		
検出器の種類		－	電離箱*1		シンチレーション			
計測範囲		－	10^{-2}～10^{4} mSv/h*2		10^{-1}～10^{6} cps			
警報動作範囲*3		－	10^{-2}～10^{4} mSv/h*2		10^{-1}～10^{6} cps	－*4		
取付箇所	系統名（ライン名）	－	排ガス放射線モニタ 減衰管入口*5	排ガス放射線モニタ 減衰管出口*5	排ガス放射線モニタ 活性炭吸着塔出口*5	変更なし		
	設置床	－	タービン建屋 EL.-1.60 m （監視・記録は中央制御室）*6	原子炉建屋付属棟 EL.12.00 m （監視・記録は中央制御室）*6	原子炉建屋付属棟 EL.14.00 m （監視・記録は中央制御室）*6	変更なし		
	溢水防護上の区画番号	－	－			TB-B1-1	RW-2-11	RW-2-3
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－				EL.5.76 m 以上	EL.14.02 m 以上	EL.14.10 m 以上*7
個数*8		－	2	2	2	変更なし		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「警報設定範囲」と記載。

＊4：警報動作が要求される検出器ではないため，記載の適正化を行う。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊7：設置高さではなく溢水防護の設備対策高さを記載。

＊8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器数」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名称			排ガス線形放射線モニタ	変更なし
検出器の種類		－	電離箱*1	
計測範囲		mSv/h	10^{-2}～10^{4} *2	
警報動作範囲		－	－	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	排ガス線形放射線モニタ*3	
	設置床	－	タービン建屋　EL.-1.60 m （監視・記録は中央制御室）*4	
	溢水防護上の区画番号	－	－	TB-B1-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.5.76 m以上
個数*5		－	1	変更なし

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器数」と記載。

			変更前		変更後	
名称			主排気筒放射線モニタ		変更なし	
検出器の種類		－	シンチレーション	電離箱		
計測範囲		－	10^{-1}～10^{6} cps	10^{-2}～10^{4} mSv/h*1		
警報動作範囲		－	10^{-1}～10^{6} cps*2	10^{-2}～10^{4} mSv/h*2		
取付箇所	系統名（ライン名）	－	主排気筒放射線モニタ*3			
	設置床	－	屋外　EL.約８ｍ（監視・記録は中央制御室）*4			
	溢水防護上の区画番号	－	－		（スタック建屋）	（スタック建屋）
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－			－*5	－*5
個数		－	2	1	変更なし	

注記　＊1：ＳＩ単位に換算したもの。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

＊4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主排気筒（監視記録部は中央制御室）」と記載。

＊5：溢水源がなく溢水による影響がない区画。

2　換気設備（中央制御室，緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの（非常用のものに限る。）並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気または排気設備として設置するもの。一時的に設置する可搬型のものを除く。）に係る次の事項

2.1　中央制御室換気系

(4)　送風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率

・常設

				変　更　前	変　更　後
名称				中央制御室換気系空気調和機ファン*1	変更なし
送風機	種類		－	遠心式*2	
	容量		m³/h/個*3	42500以上（42500*4）	
	*5 主要寸法	吸込口径	mm	660*4	991*4
		吐出口径	mm	550*4×840*4	778*4×941*4
		たて	mm	1114*4	1851*4
		横	mm	2210*4	2550*4
		高さ	mm	1900*4	1755*4
	個数		－	2	変更なし
	取付箇所	系統名（ライン名）	－	中央制御室換気系空気調和機ファン 中央制御室換気系*6	
		設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL. 23.00 m*6	
		溢水防護上の区画番号	－	－	CS-3-1
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL. 23.20 m以上
*5 原動機	種類		－	誘導電動機	変更なし
	出力		kW/個	45*4	
	個数		－	2	
	取付箇所		－	送風機と同じ	
設計上の空気の流入率			回/h	－	1.0

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「送風機」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「m^3/ｈｒ」と記載。

＊4：公称値を示す。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(5) 排風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率

・常設

				変 更 前	変 更 後
名称				中央制御室換気系フィルタ系ファン*1	変更なし
排風機	種類		－	遠心式*2	
	容量		m³/h/個*3	5100以上（5100*4）	
	*5 主要寸法	吸込口径	mm	450*4	391*4
		吐出口径	mm	500*4×350*4	321*4×271*4
		たて	mm	1415*4	1230*4
		横	mm	1132*4	870*4
		高さ	mm	1020*4	1250*4
	個数		－	2	変更なし
	取付箇所	系統名（ライン名）	－	中央制御室換気系フィルタ系ファン 中央制御室換気系*6	
		設置床	－	原子炉建屋付属棟 EL. 23.00 m*6	
		溢水防護上の区画番号	－	－	CS-3-1
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL. 23.20 m以上
*5 原動機	種類		－	誘導電動機	変更なし
	出力		kW/個	7.5*4	
	個数		－	2	
	取付箇所		－	排風機と同じ	
設計上の空気の流入率			回/h	－	1.0

注記 ＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「排風機」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「m³/hr」と記載。

＊4：公称値を示す。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

3. 生体遮蔽装置（一次遮蔽，二次遮蔽，補助遮蔽，中央制御室遮蔽，原子炉遮蔽並びに緊急時制御室及び緊急時対策所において従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。使用済燃料運搬用容器の放射線遮蔽材，使用済燃料貯蔵用容器の放射線遮蔽材，放射性廃棄物運搬用容器の放射線遮蔽材及び一時的に設置するものを除く。）の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料

名称 種類		変更前*1 主要寸法*2 ［最小厚さ mm］	変更前 冷却方法	変更前 材料	変更後
二次遮蔽	地下２階 (EL.)		自然冷却	普通コンクリート （密度 2.00g/cm^3 以上）	変更なし
	地下１階 (EL.)				
	地上１階 (EL.)				
	地上中２階 (EL.)				
	地上２階 (EL.)				
	地上中３階 (EL.)				
	地上３階 (EL.)				

（続き）

名称 種類		変更前*1 主要寸法*2 ［最小厚さ mm］	冷却方法	材料	変更後
二次遮蔽	地上４階 (EL.)		自然冷却	普通コンクリート （密度 2.00g/cm^3 以上）	変更なし
	地上５階 (EL.)				
	地上６階 (EL.)				
	屋上階 (EL.)				

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：主要寸法欄は（　　）内に公称値を示す。

名称 種類			変更前*1 主要寸法*2 [最小厚さ mm]	冷却方法	材料	変更後
中央制御室遮蔽	原子炉建屋	地上中３階 (EL.)		自然冷却	普通コンクリート （密度 2.00g/cm³以上）	変更なし
		地上３階 (EL.)				

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊2：主要寸法欄は（　　）内に公称値を示す。

名称 種類			変更前	変更後 主要寸法* [最小厚さ mm]	冷却方法	材料
中央制御室遮蔽 （待避室）	原子炉建屋	地上中３階 (EL.)	—		自然冷却	普通コンクリート （密度 2.10g/cm³以上）
						鉛ガラス （密度 4.36g/cm³以上）
						鋼板 （SS400）

注記　＊：主要寸法欄は（　　）内に公称値を示す。

		変更前	変　更　後		
名　　称 種　　類			主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]	冷却方法	材　　料
緊急時対策所　遮　蔽	地上１階 (EL.)	—		自然冷却	普通コンクリート （密度 2.10g/cm^{3}以上）
	地上２階 (EL.)				
	地上３階 (EL.)				
	地上４階 (EL.)				
	屋上階 (EL.)				

注記　＊：主要寸法欄は（　　）内に公称値を示す。

4　放射線管理施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 放射線管理施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 放射線管理施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第2章　個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号）
・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）	・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）
	・鉱山保安法（昭和24年法律第70号） 鉱山保安法施工規則（平成16年9月27日経済産業省令第96号）
	・労働安全衛生法（昭和47年法律第57号） 酸素欠乏症等防止規則（昭和47年9月30日労働省令42号）
	・労働安全衛生法（昭和47年法律第57号） 事務所衛生基準規則（昭和47年9月30日労働省令第43号）
・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針（昭和51年9月28日原子力委員会決定）	・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針（昭和51年9月28日原子力委員会決定）
・「被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について」（平成元年3月27日原子力安全委員会了承）	・「被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について」（平成元年3月27日原子力安全委員会了承）

変　更　前	変　更　後
・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針（昭和 56 年 7 月 23 日原子力安全委員会決定） ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について（平成元年 3 月 27 日原子力安全委員会了承） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会決定） ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（昭和 57 年 1 月 28 日原子力安全委員会決定） ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）（平成 21・07 原院第 1 号平成 21 年 8 月 12 日原子力・安全保安院制定） ・原子力発電所放射線遮へい設計規程（JEAC4615-2008）（平成 15 年 5 月 23 日制定） ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAC4611-2009） ・環境放射線モニタリング指針（平成 20 年 3 月原子力安全委員会決定）	・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針（昭和 56 年 7 月 23 日原子力安全委員会決定） ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について（平成元年 3 月 27 日原子力安全委員会了承） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会決定） ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（昭和 57 年 1 月 28 日原子力安全委員会決定） ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）（平成 21・07 原院第 1 号平成 21 年 8 月 12 日原子力・安全保安院制定） ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程（JEAC4622-2009）（平成 21 年 6 月 23 日制定） ・原子力発電所放射線遮へい設計規程（JEAC4615-2008）（平成 15 年 5 月 23 日制定） ・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAC4611-2009） ・環境放射線モニタリング指針（平成 20 年 3 月原子力安全委員会決定）

上記の他「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」を参照する・

原子炉格納施設

3　圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(6)　原子炉格納容器安全設備に係る次の事項

(6.5)　代替循環冷却系

ヌ　主配管（スプレイヘッダを含む。）の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
代替循環冷却系	—						代替循環冷却系 代替格納容器スプレイ配管A系分岐点 ～ A系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点		3.45*2	80*2	165.2	7.1*3	STPT410
									3.45*2	174*2	165.2	7.1*3	STPT410
											216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410
											216.3	8.2	STPT410
							代替循環冷却系 テスト配管A系分岐点 ～ A系統代替循環冷却系テスト配管合流点		3.45*2	80*2	216.3	8.2*3	STPT410
									0.86*2	80*2	216.3	8.2*3	STPT410
									0.86*2	174*2	216.3	8.2*3	STPT410
							代替循環冷却系 代替格納容器スプレイ配管B系分岐点 ～ B系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点		3.45*2	80*2	216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410
											165.2	7.1*3	STPT410
									3.45*2	174*2	165.2	7.1*3	STPT410
											216.3 /165.2	8.2 /7.1	STPT410
							代替循環冷却系 テスト配管B系分岐点 ～ B系統代替循環冷却系テスト配管合流点		3.45*2	80*2	216.3	8.2*3	STPT410
									0.86*2	80*2	216.3	8.2*3	STPT410
									0.86*2	174*2	216.3	8.2*3	STPT410

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊3：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

(6.13)　ペデスタル排水系

ヌ　主配管（スプレイヘッダを含む。）の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
ペデスタル排水系	－						ペデスタル排水系	格納容器床ドレンサンプ導入管	0.62*2	200*2	89.1	7.6*1, *3	SUS316TP
								格納容器床ドレン配管分岐点～ベント管	0.62*2	200*2	89.1	7.6*1, *3	SUS316TP
											89.1 /89.1 / －	7.6*1 /7.6*1 / －	SUS316TP
											89.1	6.0 (7.6*1)	SFVC2B
								格納容器機器ドレンサンプ導入管	0.62*2	200*2	89.1	7.6*1, *3	SUS316TP
											89.1 /89.1 / －	7.6*1 /7.6*1 / －	SUS316TP
								格納容器機器ドレン配管分岐点～ベント管	0.62*2	200*2	89.1	7.6*1, *3	SUS316TP
											89.1 /89.1 / －	7.6*1 /7.6*1 / －	SUS316TP
											89.1	6.0 (7.6*1)	SFVC2B

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊3：エルボについては取り合う配管と同等以上の厚さである。

以下の設備は，既存の放射性廃棄物の廃棄施設のうち気体，液体又は固体廃棄物処理設備（床ドレン処理系）であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ペデスタル排水系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

格納容器床ドレンサンプスリット～格納容器床ドレン配管分岐点

以下の設備は，既存の放射性廃棄物の廃棄施設のうち気体，液体又は固体廃棄物処理設備（機器ドレン処理系）であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ペデスタル排水系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

格納容器機器ドレンサンプスリット～格納容器機器ドレン配管分岐点

(7) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項

(7.1) 原子炉建屋ガス処理系

(7.1.2) 非常用ガス処理系

ヨ 排風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変 更 前		変 更 後
名称				非常用ガス処理系排風機*1		変更なし
排風機	種類		－	遠心式*2		
	容量		m^3/h/個	3570以上 (3570*3, *4)		
	主要寸法	吸込口径	mm	500*4, *5		318*4
		吐出口径	mm	350×600*4, *5		202×338*4
		たて	mm	1620*4, *6		965*4
		横	mm	1127*4, *6		1570*4
		高さ	mm	1400*4, *6		1250*4
	個数		－	2*7		変更なし
	取付箇所	系統名（ラインナ名）	－	非常用ガス処理系排風機A*8 非常用ガス処理系	非常用ガス処理系排風機B*8 非常用ガス処理系	
		設置床	－	原子炉建屋 EL.38.80 m*8		

（続き）

				変　更　前	変　更　後	
排風機	取付箇所	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-5-14	RB-5-14
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		39.20 m以上	39.20 m以上
原動機	種類		－	誘導電動機*6	変更なし	
	出力		kW/個	7.5*4, *6	5.5*4	
	個数		－	2*6, *7	変更なし	
	取付箇所		－	排風機と同じ		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には放射線管理設備のうち原子炉建屋ガス処理系に記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心型」と記載。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3570 m^3/hr（全風圧 153 mmAq)」と記載。

＊4：公称値を示す。

＊5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

＊6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 6 月 2 日付け 51 資庁第 3467 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-6 図　非常用ガス処理系排風機外形図」による。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 台（1 台予備)」と記載。

＊8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(8)　原子炉格納容器調気設備に係る次の事項

(8.1)　不活性ガス系

ニ　主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

・常設

			変　更　前	変更後
名称			2-26B-2*1	変更なし
種類		－	止め弁*2	
最高使用圧力		MPa	0.31*3, *4	
最高使用温度		℃	171*3	
主要寸法	呼び径	－	600 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	－		
	弁ふた	－		
駆動方法		－	空気作動	
個数		－	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	－	2-26B-2 不活性ガス系	
	設置床	－	原子炉建屋原子炉棟*3 EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	－	－	RB-2-9
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		EL.14.20 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（ドライウエル）管　格納容器外」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には［　　］と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			2-26B-9*1	変更なし
種　　類		―	止め弁*2	
最高使用圧力		MPa	0.31*3, *4	
最高使用温度		℃	171*3	
主要寸法	呼び径	―	80 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個　　数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-9 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟*3 EL. 14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-2-9
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL. 14.20 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（ドライウエル）管　格納容器外」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には［　　］と記載。

			変　更　前	変更後	
名　　称			2-26B-12*1	2-26B-12*2	
種　　類		―	止め弁*3	変更なし	
最高使用圧力		MPa	0.31*4, *5	変更なし 0.62*6	
最高使用温度		℃	171*4	変更なし 200*6	
主要寸法	呼び径	―	600 A	変更なし	
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	[redacted]	
	弁ふた厚さ	mm			
材料	弁箱	―			
	弁ふた	―			
駆動方法		―	空気作動	電気作動	
個　　数		―	1	変更なし	
取付箇所	系統名 （ライン名）	―	2-26B-12 不活性ガス系	変更なし	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟*4 EL.29.00 m		
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-4-3	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		想定破損	EL.33.63 m以上
				地震	
				消火水	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス排気（ドライウェル）管　格納容器外」と記載。

＊2：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置，耐圧強化ベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用する。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊5：ＳＩ単位に換算したもの。

＊6：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には [redacted] と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			2-26B-5*1	変更なし
種　　類		―	止め弁*2	
最高使用圧力		MPa	0.31*3, *4	
最高使用温度		℃	171*3	
主要寸法	呼び径	―	600 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個　　数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-5 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟*3 EL. 8.20 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-1-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL. 8.40 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（サプレッションプール）管格納容器外」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には［　　］と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			2-26B-6*1	変更なし
種　　類		―	止め弁*2	
最高使用圧力		MPa	0.31*3, *4	
最高使用温度		℃	171*3	
主要寸法	呼び径	―	80 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個　　数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-6 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟*3 EL.8.20 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-1-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.8.40 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス供給（サプレッションプール）管格納容器外」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊4：ＳＩ単位に換算したもの。

＊5：記載の適正化を行う。既工事計画書には［　　］と記載。

			変　更　前	変更後
名　　称			2-26B-10*1	2-26B-10*2
種　　類		―	止め弁*3	変更なし
最高使用圧力		MPa	0.31*4, *5	変更なし 0.62*6
最高使用温度		℃	104.5*4	変更なし 200*6
主要寸法	呼び径	―	600 A	変更なし
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	[redacted]
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	電気作動
個　　数		―	1	変更なし
取付箇所	系統名 （ライン名）	―	2-26B-10 不活性ガス系	変更なし
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟*4 EL.8.20 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-1-2
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.9.60 m以上

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス排給（サプレッションプール）管格納容器外」と記載。

＊2：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置，耐圧強化ベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用する。

＊3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「バタフライ弁」と記載。

＊4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊5：ＳＩ単位に換算したもの。

＊6：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊7：記載の適正化を行う。既工事計画書には［　　］と記載。

			変　更　前*1	変更後
名称			2-26B-7	変更なし
種類		―	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.31*2	
最高使用温度		℃	171	
主要寸法	呼び径	―	80 A	
	弁箱厚さ	mm	[redacted]	
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-7 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-2-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.14.20 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前[*1]	変更後
名称			2-26B-1	変更なし
種類		―	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.31[*2]	
最高使用温度		℃	171	
主要寸法	呼び径	―	600 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個数		―	1	
取付箇所	系統名（ラインN名）	―	2-26B-1 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-2-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.14.20 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前[*1]	変更後
名称			2-26B-8	変更なし
種類		―	止め弁	
最高使用圧力		MPa	1.04[*2]	
最高使用温度		℃	171	
主要寸法	呼び径	―	450 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-8 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-2-8
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.14.20 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前[*1]	変更後
名称			2-26B-13	変更なし
種類		―	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.31[*2]	
最高使用温度		℃	171	
主要寸法	呼び径	―	600 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-13 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟 EL.38.80 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-5-14
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.39.10 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

			変　更　前[*1]	変更後
名称			2-26B-14	変更なし
種類		―	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.31[*2]	
最高使用温度		℃	171	
主要寸法	呼び径	―	600 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―		
	弁ふた	―		
駆動方法		―	空気作動	
個数		―	1	
取付箇所	系統名（ライン名）	―	2-26B-14 不活性ガス系	
	設置床	―	原子炉建屋原子炉棟 EL.14.00 m	
	溢水防護上の区画番号	―	―	RB-5-14
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		EL.39.10 m以上

注記　＊1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

＊2：ＳＩ単位に換算したもの。

(8.2)　窒素ガス代替注入系

ホ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
窒素ガス代替注入系							窒素ガス代替注入系	格納容器窒素供給ライン西側接続口及び格納容器窒素供給ライン東側接続口　～　東側接続配管合流点（ドライウェル側）	1.0*2	60*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3
											60.5 /60.5 /60.5	5.5 /5.5 /5.5	STPT410
									0.62*2	60*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3
								東側接続配管合流点（ドライウェル側）　～　原子炉格納容器	0.62*2	60*2	60.5 /60.5 /60.5	5.5 /5.5 /5.5	STPT410
											60.5*3	5.5*3	STPT410*3
									0.62*2	200*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3
											89.1 /60.5	7.6 /5.5	STPT410
								格納容器窒素供給ライン西側接続口及び格納容器窒素供給ライン東側接続口　～　東側接続配管合流点（サプレッション・プール側）	1.0*2	60*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3
											60.5 /60.5 /60.5	5.5 /5.5 /5.5	STPT410
									0.62*2	60*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3
								東側接続配管合流点（サプレッション・プール側）　～　窒素ガス代替注入系配管合流点	0.62*2	60*2	60.5 /60.5 /60.5	5.5 /5.5 /5.5	STPT410
											60.5*3	5.5*3	STPT410*3
									0.62*2	200*2	60.5*3	5.5*3	STPT410*3

（続き）

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
窒素ガス代替注入系		—					窒素ガス代替注入系	格納容器窒素供給ライン西側接続口連絡配管	1.0*2	60*2	60.5	5.5	STPT410
								フィルタベント配管窒素供給ライン接続口 ～ ドライウェル側窒素ガス代替注入系配管合流点及びサプレッション・チェンバ側窒素ガス代替注入系配管合流点	1.0*2	60*2	60.5*3	3.9*3	STPT410*3
											60.5 /60.5 /60.5	3.9 /3.9 /3.9	STPT410
									0.62*2		60.5*3	3.9*3	STPT410*3

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。
＊3：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

以下の設備は，既存の原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（耐圧強化ベント系）であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気設備（窒素ガス代替注入系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

耐圧強化ベント系配管分岐点～格納容器圧力逃がし装置配管分岐点

以下の設備は，圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気設備（窒素ガス代替注入系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

格納容器圧力逃がし装置配管分岐点～フィルタ装置

フィルタ装置～排気管

以下の設備は,既存の圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気設備(不活性ガス系)であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気設備（窒素ガス代替注入系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

ドライウェル側窒素ガス代替注入系配管合流点及びサプレッション・チェンバ側窒素ガス代替注入系配管合流点～窒素排気管合流点

窒素排気管合流点～原子炉棟換気系及び原子炉建屋ガス処理系分岐点

原子炉棟換気系及び原子炉建屋ガス処理系分岐点～耐圧強化ベント系配管分岐点

窒素ガス代替注入系配管合流点～サプレッション・チェンバ側窒素供給配管合流点

サプレッション・チェンバ側窒素供給配管合流点～原子炉格納容器

以下の設備のうち貫通配管は，既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器の原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部であり，圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気設備（窒素ガス代替注入系）として本工事計画で兼用とする。

・常設

原子炉格納容器配管貫通部 X-56

原子炉格納容器配管貫通部 X-80

変更前								変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所
窒素ガス代替注入系	―							窒素ガス代替注入系	窒素供給用 5m ホース	1.0*1	60*1	50A*2	―*3	補強繊維入り合成ゴム	40*4 (予備 2)	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所（西側） EL.23.0 m, ・可搬型重大事故等対処設備保管場所（南側） EL.25.0 m ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL.8.0 m 取付箇所： （・EL.約 8.0 m 可搬型窒素発生装置～ EL.約 8.0 m 原子炉建屋西側接続口 (20 本*5)）

注記　＊1：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊2：メーカにて規定する呼び径を示す。

＊3：メーカ仕様によるものとし，完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって，使用材料の特性を踏まえた上で，重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。

＊4：必要本数 20 本を 2 セット及び予備 2 本の数量。

＊5：最長ルートである「可搬型窒素供給装置（原子炉建屋付近）から原子炉建屋西側接続口」に敷設した場合の本数を示す。

(9)　圧力逃がし装置に係る次の事項

(9.1)　格納容器圧力逃がし装置

ロ　主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称				SA14-F001A,B*1
種類		―		止め弁
最高使用圧力		MPa		0.31 0.62*2
最高使用温度		℃		171 200*2
主要寸法	呼び径	―		450 A
	弁箱厚さ	mm		[redacted]
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	―	―	
	弁ふた	―		
駆動方法		―		電気作動
個数		―		1
取付箇所	系統名（ラインナ名）	―		SA14-F001A,B 格納容器圧力逃がし装置
	設置床	―		原子炉建屋原子炉棟 EL.29.00 m
	溢水防護上の区画番号	―		―
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		―

注記　＊1：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）と兼用する。

＊2：重大事故等時における使用時の値を示す。

4　原子炉格納施設の基本設計方針，適用基準及び適用規格

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 原子炉格納施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 原子炉格納施設に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 原子炉格納施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・原子炉格納容器の漏えい率試験規程（JEAC4203-2008） ・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004） ・電気技術規定　原子力編　原子力配管規程（JEAC4702-1973）	第2章　個別項目 原子炉格納施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和45年通商産業省告示第501号） ・発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成2年8月30日原子力安全委員会決定） ・原子炉格納容器の漏えい率試験規程（JEAC4203-2008） ・原子炉冷却材圧力バウンダリ，原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAC4602-2004） ・電気技術規定　原子力編　原子力配管規程（JEAC4702-1973）

変　更　前	変　更　後
	・BWR 配管における混合ガス（水素・酸素）蓄積防止に関するガイドライン（平成 17 年 10 月社団法人火力原子力発電技術協会）
・ASME CODE SEC Ⅲ 1971	・ASME CODE SEC Ⅲ 1971
・ASME CODE SEC Ⅷ 1971	・ASME CODE SEC Ⅷ 1971
・ASME nuclear power piping USAS31.7-1969	・ASME nuclear power piping USAS31.7-1969
・ANSI B16.5-1968	・ANSI B16.5-1968

その他発電用原子炉の附属施設

1　非常用電源設備

2　非常用発電装置に係る次の事項

2.1　非常用ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変更後	
名称				―	非常用ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ	
ポンプ	種類		―		スクリュー式	
	容量		m^3/h/個		1.92 以上(2*1)	
	吐出圧力		MPa		0.190 (0.25*1) *2	
					0.156 (0.25*1) *3	
	最高使用圧力		MPa		1.0	
	最高使用温度		℃		55	
	主要寸法	吸込口径	mm		40*1	
		吐出口径	mm		32*1	
		たて	mm		220*1	
		横	mm		470*1	
		高さ	mm		230*1	
	材料	ケーシング	―		S25C	
	個数		台		2	
	取付箇所	系統名 （ライン名）	―		2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 2C 非常用ディーゼル発電機燃料油ライン	2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 2D 非常用ディーゼル発電機燃料油ライン

（続き）

				変更前	変更後
ポンプ	取付箇所	設置床	－	－	常設代替高圧電源装置置場 EL.2.0 m
		溢水防護上の区画番号	－		－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－
原動機	種類		－		三相誘導電動機
	出力		kW/個		1.2
	個数		台		2
	取付箇所		－		ポンプと同じ

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプの記載事項を示す。

＊3：2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプの記載事項を示す。

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称				軽油貯蔵タンク*1, *2
種類		－		横置円筒形
容量		kL/個		378（400*3）
最高使用圧力		MPa		静水頭*4
最高使用温度		℃		55*4
主要寸法	胴内径	mm		5000*3
	胴板厚さ	mm		36.8(38.0*3)
	鏡板厚さ（左右）	mm		29.5(38.0*3)
	鏡板の形状に係る寸法	mm		5000*3 (鏡板中央部内半径(左右))
				500*3 (鏡板隅の丸み半径(左右))
	行き（常設代替高圧電源装置用燃料移送ポンプ）外径	mm		48.6*3
	行き（常設代替高圧電源装置用燃料移送ポンプ）厚さ	mm	－	4.0(5.1*3)
	行き（2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）外径*5	mm		42.7*3
	行き（2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）厚さ*5	mm		3.8(4.9*3)
	行き(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ)外径*5	mm		42.7*3
	行き(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ)厚さ*5	mm		3.8(4.9*3)
	行き（2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）外径*6	mm		42.7*3
	行き（2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ）厚さ*6	mm		3.8(4.9*3)
	全長	mm		23092*3

（続き）

			変更前	変更後
材料	胴板	－	－	SPV490
	鏡板	－		SPV490
個数		基		2
取付箇所	系統名（ライン名）	－		軽油貯蔵タンク 燃料油移送ライン
	設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.2.00 m 地下埋設
	溢水防護上の区画番号	－		－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－

注記　＊1：軽油貯蔵タンク A は非常用電源設備のうち非常用発電装置の燃料設備（常設代替高圧電源装置）と兼用する。

＊2：軽油貯蔵タンク B は非常用電源設備のうち非常用発電装置の燃料設備（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機及び常設代替高圧電源装置）と兼用する。

＊3：公称値を示す。

＊4：重大事故等時における使用時の値を示す。

＊5：軽油貯蔵タンク B の記載事項を示す。

＊6：軽油貯蔵タンク A の記載事項を示す。

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	—						非常用ディーゼル発電装置	軽油貯蔵タンク ～ 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	-0.10 ／1.00	55	42.7	4.9*1	SUS304TP
											48.6	5.1*1	SUS304TP
								非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク	1.00	55	42.7	4.9*1	SUS304TP
											42.7	4.9*1	SUS304TP (端管)
											42.7	0.18 (0.3*1)	SUS304 (ベローズ)
											48.6	5.1*1	SUS304TP
									0.20*2, *3	55*2	60.5*2	3.9*1, *2	STPT38*2
											60.5*2 /48.6*2	5.5*1, *2 /5.1*1, *2	S25C*2
											48.6*2	3.7*1, *2	STPT38*2
								非常用ディーゼル発電機燃料油デイタンク ～ 燃料油フィルタ*2	0.20*3	55	60.5	3.9*1	STPT38
											99.8	0.4*1	SUS304
								燃料油フィルタ ～ 非常用ディーゼル発電機内燃機関*2	0.20*3	55	60.5	3.9*1	STPT38
											89.1 /60.5	5.5*1 /3.9*1	S25C
											139.8 /89.1	6.6*1 /5.5*1	S25C
											139.8	6.6*1	STPT38

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：本設備は既存の設備である。

＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

2.2　高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変更後
名称					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
ポンプ	種類		－		スクリュー式
	容量		m^3/h/個		1.04（2.0*1）
	吐出圧力		MPa		0.190（0.25*1）
	最高使用圧力		MPa		1.0
	最高使用温度		℃		55
	主要寸法	吸込口径	mm		40*1
		吐出口径	mm		32*1
		たて	mm		220*1
		横	mm		470*1
		高さ	mm		230*1
	材料	ケーシング	－	－	SS25C
	個数		台		1
	取付箇所	系統名（ライン名）	－		高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油ライン
		設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.2.0 m
		溢水防護上の区画番号	－		－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－

（続き）

			変更前	変更後
原動機	種類	－	－	三相誘導電動機
	出力	kW/個		1.2
	個数	台		1
	取付箇所	－		ポンプと同じ

注記　＊1：公称値を示す。

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，非常用電源設備のうち燃料設備であり，非常用発電装置（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

軽油貯蔵タンク

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	—						高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	軽油貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	-0.10 ／1.00	55	42.7	4.9*1	SUS304TP
								高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク	1.00	55	48.6	5.1*1	SUS304TP
											42.7	4.9*1	SUS304TP
											42.7	0.18 (0.3*1)	SUS304 (ベローズ)
											48.6	5.1*1	SUS304TP
									0.20*2, *3	55*2	60.5*2	3.9*1, *2	STPT38*2
											60.5*2 /48.6*2	5.5*1, *2 /5.1*1, *2	S25C*2
											48.6*2	3.7*1, *2	STPT38*2
								高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク ～ 燃料油フィルタ*2	0.20*3	55	60.5	3.9*1	STPT38
											99.8	0.4*1	SUS304
								燃料油フィルタ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関*2	0.20*3	55	60.5	3.9*1	STPT38
											89.1 /60.5	5.5*1 /3.9*1	S25C
											139.8 /89.1	6.6*1 /5.5*1	S25C
											139.8	6.6*1	STPT38

注記　＊1：公称値を示す。
＊2：本設備は既存の設備である。
＊3：ＳＩ単位に換算したもの。

2.3　常設代替高圧電源装置

(2)　内燃機関に係る次の事項

イ　機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変　更　後					
名　　称				－	常設代替高圧電源装置 内燃機関					
機関	種　　類		－		4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関					
	出　　力		kW/個		1450					
	回　転　速　度		min^{-1}		1500					
	燃料	種　　類	－		軽油					
		使　用　量	L/h/個		397／411					
	個　　数		－		6					
	取付箇所	系統名（ライン名）	－		No.1常設代替高圧電源装置	No.2常設代替高圧電源装置	No.3常設代替高圧電源装置	No.4常設代替高圧電源装置	No.5常設代替高圧電源装置	No.6常設代替高圧電源装置
		設　置　床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m
		溢水防護上の区画番号	－		－	－	－	－	－	－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－	－	－	－	－	－

（続き）

			変更前	変　更　後
過給機	種　　類	－	－	排気ガスタービン式
	出　口　の　圧　力	kPa		168.0／200.0
	回　転　速　度	min^{-1}		90000／81000
	個　　数	－		24（機関1台当たり4）
	取　付　箇　所	－		機関と同じ

ロ　調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変更前	変　更　後	
名　　称		－	常設代替高圧電源装置 調速装置	常設代替高圧電源装置 非常調速装置
種　　類	－		電気式	電気式

ハ　内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変　更　後					
名称				常設代替高圧電源装置 冷却水ポンプ					
種類		－		遠心式					
容量		L/min/個		1650／1500					
個数		－		6（機関1台当たり1）					
取付箇所	系統名（ライン名）	－	－	No.1 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	No.2 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	No.3 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	No.4 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	No.5 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ	No.6 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ
	設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m
	溢水防護上の区画番号	－		－	－	－	－	－	－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－	－	－	－	－	－

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称				常設代替高圧電源装置 燃料油サービスタンク
種類		―		角形
容量		L/個		890*1
最高使用圧力		―		静水頭
最高使用温度		℃		50
寸法要主	たて	mm	―	1050*1
	横	mm		1480*1
	高さ	mm		640*1
材料	胴板	―		SS400
	底板	―		SS400
個数		―		6（機関1台当たり1）

注記　＊1：公称値を示す。

（続き）

			変更前	変更後					
取付箇所	系統名（ラインナ名）	－	－	No.1 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	No.2 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	No.3 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	No.4 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	No.5 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク	No.6 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク
	設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m
	溢水防護上の区画番号	－		－	－	－	－	－	－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－	－	－	－	－	－

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変　更　後
名　　称					常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプ
ポンプ	種　　類		－		スクリュー式
	容　　量		m^3/h/個		3.02（3.0*）
	吐　出　圧　力		MPa		0.285（0.30*）
	最　高　使　用　圧　力		MPa		1.0
	最　高　使　用　温　度		℃		55
	主要寸法	吸　込　口　径	mm		50*
		吐　出　口　径	mm		40*
		た　　て	mm		220*
		横	mm		535*
		高　　さ	mm		250*
	材料	ケ　ー　シ　ン　グ	－		S25C
	個　　数		台		2
	取付箇所	系　統　名（ラ　イ　ン　名）	－		常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプ 常設代替高圧電源装置燃料油ライン
		設　置　床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.2.00 m
		溢水防護上の区画番号	－		－
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－
原動機	種　　類		－		三相誘導電動機
	出　　力		kW/個		2.2
	個　　数		台		2
	取　付　箇　所		－		ポンプと同じ

注記　＊：公称値を示す

ロ　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，非常用電源設備のうち燃料設備であり，非常用発電装置（常設代替高圧電源装置）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

軽油貯蔵タンク

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料
—							常設代替高圧電源装置	軽油貯蔵タンクA ～ 常設代替高圧電源装置 燃料移送ポンプA	-0.10 ／1.00	55	48.6	4.5 (5.1)	SUS304TP
											60.5	3.4 (3.9)	SUS304TP
								常設代替高圧電源装置 燃料移送ポンプA ～ 常設代替高圧電源装置 燃料油サービスタンク	1.00	55	48.6	4.5 (5.1)	SUS304TP
											89.1	4.9 (5.5)	SUS304TP
											60.5	3.4 (3.9)	SUS304TP
											60.5	3.4 (3.9)	SUS304TP (端管)
											60.5	0.24 (0.4)	SUS304 (ベローズ)
								軽油貯蔵タンクB ～ 常設代替高圧電源装置 燃料移送ポンプB	-0.10 ／1.00	55	48.6	4.5 (5.1)	SUS304TP
											60.5	3.4 (3.9)	SUS304TP
								常設代替高圧電源装置 燃料移送ポンプB ～ 常設代替高圧電源装置 燃料移送ポンプB出口配管 合流点	1.00	55	48.6	4.5 (5.1)	SUS304TP

注記　＊1：外径は公称値を示す。

＊2：厚さの（　）内は公称値を示す。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称，種類，容量，主要寸法，力率，電圧，相，周波数，回転速度，結線法，冷却方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後
名称				常設代替高圧電源装置
種類		－		防滴保護，空気冷却自己自由通風型三相交流発電機
容量		kVA/個		1725
主要寸法	たて	mm		2453*1／1965*1
	横	mm		1753*1／1090*1
	高さ	mm		1572*1／1000*1
力率		%	－	80（遅れ）
電圧		V		6600
相		－		3
周波数		Hz		50
回転速度		min^{-1}		1500
結線法		－		星形
冷却方法		－		空気冷却
個数		－		6

注記 ＊1：公称値を示す。

（続き）

			変更前	変　更　後					
取付箇所	系統名（ライン名）	－	－	No.1 常設代替高圧電源装置	No.2 常設代替高圧電源装置	No.3 常設代替高圧電源装置	No.4 常設代替高圧電源装置	No.5 常設代替高圧電源装置	No.6 常設代替高圧電源装置
	設置床	－		常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m
	溢水防護上の区画番号	－		－	－	－	－	－	－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－	－	－	－	－	－

ロ　励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前	変　更　後					
名　　称		―	常設代替高圧電源装置励磁装置					
種　　類	―		ブラシレス方式（PMG 付）					
容　　量	VA/個		1040／9650					
個　　数	―		6（発電機 1 台当たり 1）					
取付箇所	系統名（ライン名）	―	No.1 常設代替高圧電源装置励磁装置	No.2 常設代替高圧電源装置励磁装置	No.3 常設代替高圧電源装置励磁装置	No.4 常設代替高圧電源装置励磁装置	No.5 常設代替高圧電源装置励磁装置	No.6 常設代替高圧電源装置励磁装置
	設置床	―	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m
	溢水防護上の区画番号	―	―	―	―	―	―	―
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―	―	―	―	―	―	―

ハ　保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変　更　後
名　　称		―	常設代替高圧電源装置保護継電装置
種　　類	―		不足電圧継電器 過電圧継電器 過電流継電器

ニ　原動機との連結方法

		変更前	変　更　後
連　　結　　方　　法	－	－	直結

2.4　緊急時対策所用発電機

(2)　内燃機関に係る次の事項

ホ　燃料デイタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所

・常設

			変更前	変更後
名称				緊急時対策所用発電機 燃料油サービスタンク
種類		―		たて置円筒形
容量		L/個		650 以上
最高使用圧力		MPa		大気圧
最高使用温度		℃		45
主要寸法	胴内径	mm		960*
	胴板厚さ	mm		4.3 (6.0*)
	平板厚さ	mm		7.4 (9.0*)
	屋根板厚さ	mm		4.5 (6.0*)
	入口管台外径	mm		48.6*
	入口管台厚さ	mm		2.2 (3.7*)
	出口管台外径	mm	―	27.2*
	出口管台厚さ	mm		1.4 (2.9*)
	高さ	mm		1,140*
材料	胴板	―		SM400B
	平板	―		SM400B
	屋根板	―		SM400B
個数		基		2
取付箇所	系統名 （ライン名）	―		軽油貯蔵タンク 燃料油移送ライン
	設置床	―		緊急時対策所 EL.23.30 m
	溢水防護上の区画番号	―		―
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		―

注記　＊：公称値を示す。

(4)　燃料設備に係る次の事項

イ　ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名称				緊急時対策所用 発電機給油ポンプ
種類		－		歯車式
容量		m^3/h/個		1.3 以上
吐出圧力		MPa		0.3
最高使用圧力		MPa		0.5
最高使用温度		℃		45
主要寸法	吸込内径	mm		40*
	吐出内径	mm		40*
	たて	mm		208*
	横	mm		330*
	高さ	mm		123*
材料（ケーシング）		－	－	SCS13A
個数		台		2
取付箇所	系統名 （ライン名）	－		軽油貯蔵タンク 燃料油移送ライン
	設置床	－		緊急時対策所 EL.19.30 m
	溢水防護上の区画番号	－		－
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		－
原動機	種類	－		三相誘導電動機
	出力	kW/個		1.5
	個数	－		2
	取付箇所	－		ポンプと同様

注記　＊：公称値を示す。

ハ　貯蔵槽の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

		変更前	変更後
名称	－		緊急時対策所用発電機 燃料油貯蔵タンク
種類	－		横置円筒形
容量	m^3/個		71.514 以上（75*1）
最高使用圧力	－		大気圧
最高使用温度	℃		40
主要寸法	mm		胴内径　3,800*1
			胴板厚さ 16.0（20.0）*1
			鏡板厚さ 16.0（20.0）*1
			鏡の形状に係る寸法 3,800*2 380*3
			燃料油取出口管台外径 60.5*1
			燃料油取出口管台厚さ 2.9（3.9*1）
			全長　7,970
材料	－		胴板　SM400B
			鏡板　SM400B
個数	－		2
取付箇所	系統名 （ライン名）		緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク 緊急時対策所用発電機燃料油ライン
	設置床		緊急時対策所 EL.15.50 m
	溢水防護上の区画番号		EM-B1-1
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		－

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：鏡板の中央部における内面の半径を示す。

＊3：鏡板のすみの丸みの内半径を示す。

ニ　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径（mm）	厚さ（mm）	材料	名称		最高使用圧力（MPa）	最高使用温度（℃）	外径（mm）	厚さ（mm）	材料
－						緊急時対策所用発電機	緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク2A ～ 緊急時対策所用発電機給油ポンプ2A	0	45	60.5*	3.9*	STPT370
								0.5		60.5*	3.9*	
										48.6*	3.7*	
							緊急時対策所用発電機給油ポンプ2A ～ 緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2A	0	45	48.6*	3.7*	STPT370
								0.5				
							緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2A ～ 緊急時対策所用発電機内燃機関2A	0	45	27.2*	2.9*	STPT370

注記　＊：公称値を示す。

（続き）

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
—						緊急時対策所用発電機	緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク2B ～ 緊急時対策所用発電機給油ポンプ2B	0	45	60.5*	3.9*	STPT370
								0.5		60.5*	3.9*	
										48.6*	3.7*	
							緊急時対策所用発電機給油ポンプ2B ～ 緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2B	0	45	48.6*	3.7*	STPT370
								0.5				
							緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2B ～ 緊急時対策所用発電機内燃機関2B	0	45	27.2*	2.9*	STPT370

注記　＊：公称値を示す。

3　その他の電源装置（非常用のものに限る。）に係る次の事項

(2)　電力貯蔵装置の名称，種類，容量，電圧，主要寸法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変　更　前	変　更　後
名　　称			－	逃がし安全弁用可搬型蓄電池
種　　類		－		リチウムイオン電池
容　　量		Wh		780（1 個あたり）
電　　圧		V		125
主要寸法	た　　て	mm		690*
	横	mm		320*
	高　　さ	mm		595*
個　　数		－		2（予備 1）
取　付　箇　所		－		保管場所： 原子炉建屋付属棟 EL. 18.00 m 取付箇所： （2 個 原子炉建屋付属棟 EL. 18.00 m）

注記　＊：公称値を示す。

(2) 適用基準及び適用規格

変 更 前	変 更 後
第1章 共通項目 非常用電源設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2) 適用基準及び適用規格 第1章 共通項目」に示す。	第1章 共通項目 非常用電源設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2) 適用基準及び適用規格 第1章 共通項目」に示す。
第2章 個別項目 非常用電源設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第2章 個別項目 非常用電源設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号）
・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）	・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）
・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号）	・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号）
	・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） 消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） 消防法施行規則（昭和36年4月1日自治省令第6号） 危険物の規制に関する政令（昭和34年9月26日政令第306号）
・ＪＳＭＥ Ｓ ＮＣ１－2005/2007 発電用原子力設備規格 設計・建設規格	・ＪＳＭＥ Ｓ ＮＣ１－2005/2007 発電用原子力設備規格 設計・建設規格
	・NEGA C 331-2005 可搬型発電設備技術基準
	・ＪＩＳ Ｂ ８２０１－2005 陸用鋼製ボイラー構造

変　更　前	変　更　後
・社団法人電池工業会　据付蓄電池の容量算出法（SBA S 0601-2001）	・社団法人電池工業会　据付蓄電池の容量算出法（SBA S 0601-2014）
	・日本工業会規格「JEM 1354:2003　エンジン駆動陸用同期発電機」
	・日本工業会規格「JEM 1354:2014　エンジン駆動陸用同期発電機」
・電気学会「JEC114-1964　同期機」	・電気学会「JEC114-1964　同期機」
	・電気学会「JEC2130-2000　同期機」
	・電気学会「JEC2300-1985　交流遮断機」

2　変圧器に係る次の事項

(1)　変圧器の種類，容量，電圧（一次，二次及び三次の別に記載し，電圧調整装置を有するものの場合は，電圧調整範囲およびタップ数を付記すること。），相，周波数，結線法，冷却法，個数及び取付箇所並びに電気事業の用に供するものにあっては，常用及び予備の別

			変　更　前	変 更 後
名称			主要変圧器	変更なし
種類		―	屋外用三相二巻線外鉄無圧密封式	
容量		kVA	1300000	
電圧	一次	kV	18.525*1	
	二次	kV	F293.75/F287.5/F281.25/R275	
	三次	―	―	
相		―	3	
周波数		Hz	50	
結線法	一次	―	三角形	
	二次	―	星形	
	三次	―	―	
冷却法		―	導油風冷式	

（続き）

			変　更　前	変 更 後
個数	常　　用	－	1	変更なし
	予　　備	－	0	
取付箇所	系　統　名 （ライン名）	－	主要変圧器*2	
	設　置　床	－	屋外　EL.8.0 m*3	
	溢水防護上の区画番号	－	－	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－		

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「18,525V」と記載。

＊2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成 23 年 11 月 4 日付け発室発第 298 号にて届け出た工事計画の添付書類「第 3 図　単線結線図」による。

＊3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

(2) 保護継電装置の種類

	変　更　前	変 更 後
名　　称	主要変圧器	変更なし
種　　類	・自動遮断用 主要変圧器比率差動継電器*1 発電機・主要変圧器比率差動継電器*1 地絡過電流継電器*1 過電流継電器*1 ・警報用 油温度継電器*2 巻線温度継電器*2 衝撃油圧継電器*2	

注記　＊1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要変圧器比率差動継電器（主要変圧器差電流），発電機・主要変圧器比率差動継電器（主要変圧器後備保護（発電機と共用）），地絡過電流継電器（主要変圧器中性点地絡過電流）及び過電流継電器（主要変圧器過電流（低速時））」と記載。

＊2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「油温度継電器（主要変圧器油温度高），巻線温度継電器，衝撃油圧継電器（衝撃油圧）」と記載。

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 常用電源設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 常用電源設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 常用電源設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・電気学会「JEC114-1964　同期機」 ・電気学会「JEC168-1966　変圧器」 ・電気学会「JEC2200-1995　変圧器」 ・電気学会「JEC181-1971　交流遮断器」	第2章　個別項目 常用電源設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・電気学会「JEC114-1964　同期機」 ・電気学会「JEC168-1966　変圧器」 ・電気学会「JEC2200-1995　変圧器」 ・電気学会「JEC2200-2014　変圧器」 ・電気学会「JEC2300-2010　交流遮断器」

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 補助ボイラーに適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 補助ボイラーに適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 補助ボイラーに適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号） ・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） ・消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） ・消防法施工規則（昭和36年4月1日自治省第6号） ・ＪＩＳ　Ｂ　８５０１－1976　鋼製石油貯槽の構造	第2章　個別項目 補助ボイラーに適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用火力設備の技術基準の解釈（平成25年5月17日20130507商局第2号） ・実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準（平成25年6月19日原規技発第1306195号） ・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） ・消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） ・消防法施工規則（昭和36年4月1日自治省第6号） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格 ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 火災防護設備に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，原子炉冷却系統施設，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。 なお，以下に示す火災防護設備に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については，「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）」に示す。	第1章　共通項目 火災防護設備に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，原子炉冷却系統施設，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。 なお，以下に示す火災防護設備に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については，「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）」に示す。
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号）
・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）	・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号）
	・実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準（平成25年6月19日原規技発第1306195号）
・発電用軽水型原子炉施設の火災防護に関する審査指針（平成19年12月27日）	・発電用軽水型原子炉施設の火災防護に関する審査指針（平成19年12月27日）
・原子力発電所の火災防護規程（JEAC4626-2010）	・原子力発電所の火災防護規程（JEAC4626-2010）
・原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）	・原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）
・ＪＩＳ　Ａ　４２０１－1992　建築物等の避雷設備（避雷針）	・ＪＩＳ　Ａ　４２０１－1992　建築物等の避雷設備（避雷針）

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306194 号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成 17 年 12 月 15 日原院第 5 号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		－	－	○	－
実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306195 号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
発電用軽水型原子炉施設の火災防護に関する審査指針（平成 19 年 12 月 27 日）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		－	－	－	－
原子力発電所の火災防護規程（JEAC4626-2010）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
ＪＩＳ　Ａ　４２０１－1992　建築物等の避雷設備（避雷針）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	－	－	○

（注）変更後のみ適用する施設

変　更　前	変　更　後
第 2 章　個別項目 火災防護設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・建築基準法（昭和 25 年 5 月 24 日法律第 201 号） 建築基準法施行令（昭和 25 年 11 月 16 日政令第 338 号） ・高圧ガス保安法（昭和 26 年 6 月 7 日法律第 204 号） ・消防法（昭和 23 年 7 月 24 日法律第 186 号） 消防法施行令（昭和 36 年 3 月 25 日政令第 37 号） 消防法施行規則（昭和 36 年 4 月 1 日自治省令第 6 号） ・不燃材料を定める件（平成 12 年建設省告示第 1400 号） ・ＪＩＳ　Ｌ　１０９１-1999　繊維製品の燃焼性試験方法	第 2 章　個別項目 火災防護設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・建築基準法（昭和 25 年 5 月 24 日法律第 201 号） 建築基準法施行令（昭和 25 年 11 月 16 日政令第 338 号） ・高圧ガス保安法（昭和 26 年 6 月 7 日法律第 204 号） ・消防法（昭和 23 年 7 月 24 日法律第 186 号） 消防法施行令（昭和 36 年 3 月 25 日政令第 37 号） 消防法施行規則（昭和 36 年 4 月 1 日自治省令第 6 号） 危険物の規制に関する政令（昭和 34 年 9 月 26 日政令第 306 号） ・不燃材料を定める件（平成 12 年建設省告示第 1400 号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（平成 21 年 3 月 9 日原子力安全委員会） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成 13 年 3 月 29 日原子力安全委員会） ・原子力発電所耐震設計技術指針　重要度分類・許容応力編（JEAG4601・補-1984） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1991 追補版） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格 ・ＪＩＳ　Ｌ　１０９１－1999　繊維製品の燃焼性試験方法

変　更　前	変　更　後
・IEEE Std 383-1974　垂直トレイ燃焼試験	・IEEE Std 383-1974　垂直トレイ燃焼試験 ・IEEE Std 1202-1991　垂直トレイ燃焼試験 ・UL 1581（Fourth Edition）1080.VW-1 垂直燃焼試験
・公益社団法人　日本空気清浄協会「空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法指針」（JACA No.11A-2003） ・電気学会技術報告（Ⅱ部）第 139 号	・公益社団法人　日本空気清浄協会「空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法指針」（JACA No.11A-2003）
・社団法人電池工業会「蓄電池室に関する設計指針」（SBA G 0603-2001）	・社団法人電池工業会「蓄電池室に関する設計指針」（SBA G 0603-2001）

上記の他「原子力発電所の内部火災影響評価ガイド」を参照する。

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 浸水防護施設に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，原子炉冷却系統施設，火災防護設備の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。 なお，以下に示す浸水防護施設に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については，「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）に示す。	第1章　共通項目 浸水防護施設に適用する共通項目の基準及び規格については，以下の基準及び規格並びに，原子炉冷却系統施設，火災防護設備の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。 なお，以下に示す浸水防護施設に適用する共通項目の基準及び規格を適用する個別の施設区分については，「表1　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）」に示す。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・ダム・堰施設技術協会　平成25年　ダム・堰施設技術基準（案）（基準解説編・マニュアル編）

表１　施設共通の適用基準及び適用規格（該当施設）

	原子炉本体	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	原子炉冷却系統施設	蒸気タービン	計測制御系統施設	放射性廃棄物の廃棄施設	放射線管理施設	原子炉格納施設	その他の発電用原子炉の附属施設							
									非常用電源設備	常用電源設備	補助ボイラー	火災防護設備	浸水防護施設（注）	補機駆動用燃料設備（注）	非常用取水設備	緊急時対策所（注）
実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成 25 年 6 月 19 日原規技発第 1306194 号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
ダム・堰施設技術協会　平成 25 年　ダム・堰施設技術基準（案）（基準解説編・マニュアル編）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		－	○	－

（注）変更後のみ適用する施設

NT2 補②

変　更　前	変　更　後
第 2 章　個別項目 浸水防護施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第 2 章　個別項目 浸水防護施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・建築基準法（昭和 25 年 5 月 24 日法律第 201 号） 建築基準法施行令（昭和 25 年 11 月 16 日政令第 338 号） ・消防法（昭和 23 年 7 月 24 日法律第 186 号） 消防法施行令（昭和 36 年 3 月 25 日政令第 37 号） ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針（平成 2 年 8 月 30 日原子力安全委員会決定） ・原子力発電所耐震設計技術指針重要度分類・許容応力編（JEAG4601・補-1984） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1991 追補版） ・原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010） ・原子力発電所配管破損防護設計技術指針（JEAG4613-1998） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005　発電用原子力設備規格設計・建設規格 ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2007　発電用原子力設備規格設計・建設規格 ・土木学会　2016 年　トンネル標準示方書（共通編・同解説／開削工法編・同解説） ・日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅱ鋼橋編）・同解説 ・日本道路協会　平成 22 年 3 月　道路土工カルバート工指針

変　更　前	変　更　後
	・名古屋高速道路公社　平成 15 年 10 月　鋼構造物設計規準（Ⅱ鋼製橋脚編） ・日本建築学会　2010 年　各種合成構造設計指針・同解説 ・沿岸技術研究センター　2014 年 3 月　津波漂流物対策施設設計ガイドライン（案）

上記の他「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」「耐津波設計に係る工認評価に関する審査ガイド」を参照する。

6　補機駆動用燃料設備（非常用電源設備及び補助ボイラーに係るものを除く。）

1　燃料設備に係る次の事項

(2)　容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変　更　前	変　更　後
名　　称				ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク*1
種　　類		―		箱形
容　　量		m³/個		0.36 以上 (0.36*2)
最高使用圧力		MPa		静水頭
最高使用温度		℃		55
主要寸法	幅	mm		1000*2
	奥行き	mm		500*2
	高さ	mm		800*2
	側板厚さ	mm		3.0 (3.2*2)
	上板厚さ	mm		3.0 (3.2*2)
	底板厚さ	mm		4.1 (4.5*2)
	出口管台外径	mm	―	27.2*2
	出口管台厚さ	mm		3.9*2
材料	側板	―		SS400
	上板	―		SS400
	底板	―		SS400
個　　数		―		1
取付箇所	系統名（ライン名）	―		ディーゼル用燃料油系
	設置床	―		タービン建屋　EL.8200 mm
	溢水防護上の区画番号	―		―
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	―		―

注記　＊1：本設備は既存の設備である。

＊2：公称値を示す。

(4)　主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前							変更後							
名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料
燃料設備	－						燃料設備	ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク ～ ディーゼル駆動消火ポンプ内燃機関*2	静水頭	55	27.2	3.9	STPG370
											21.7	3.7	STPG370

注記　＊1：公称値を示す。

＊2：本設備は既存の設備である。

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 補機駆動用燃料設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 補機駆動用燃料設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 補機駆動用燃料設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第2章　個別項目 補機駆動用燃料設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準（平成25年6月19日原規技発第1306195号） ・消防法（昭和23年7月24日法律第186号） 消防法施行令（昭和36年3月25日政令第37号） 消防法施行規則（昭和36年4月1日自治省令第6号） 危険物の規制に関する政令（昭和34年9月26日政令第306号） ・ＪＳＭＥ　Ｓ　ＮＣ１－2005/2007　発電用原子力設備規格　設計・建設規格 ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）

7　非常用取水設備に係る次の事項

1　取水設備（非常用の冷却用海水を確保する構造物に限る。）の名称，種類，容量，主要寸法，材料及び個数

			変　更　前	変　更　後
名　　称			－	取水構造物*1
種　　類		－		鉄筋コンクリート函渠
容　　量		m^3		2162 以上*2（2378*2, *3）
主要寸法	た　　て	mm		42800*3
	横	mm		57000*3
	高　　さ	mm		10350*3
材　　料		－		鉄筋コンクリート
個　　数		－		1

注記　＊1：本設備は既存の設備である。

＊2：取水構造物及び貯留堰の合計値を示す。

＊3：公称値を示す。

			変　更　前	変　更　後
名　　称			－	貯留堰*1
種　　類		－		鋼管矢板壁*2
容　　量		m3		2162 以上*3 (2378*3, *4)
主要寸法	た　　て	mm		64662*4
	横	mm		21431*4
	天　端　高　さ	m		T.P.-4.90
材　　料		－		[redacted]
個　　数		－		1

注記　＊1：その他発電用原子炉の附属施設のうち浸水防護施設の外郭浸水防護設備と兼用する。

＊2：貯留堰と貯留堰取付護岸の境界に止水ジョイントを設置する。

＊3：取水構造物及び貯留堰の合計値を示す。

＊4：公称値を示す。

(2) 適用基準及び適用規格

変 更 前	変 更 後
第1章 共通項目 非常用取水設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2) 適用基準及び適用規格 第1章 共通項目」に示す。	第1章 共通項目 非常用取水設備に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2) 適用基準及び適用規格 第1章 共通項目」に示す。
第2章 個別項目 非常用取水設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・土木学会 2005年 原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル ・土木学会 2002年 コンクリート標準示方書 構造性能照査編	第2章 個別項目 非常用取水設備に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈（平成17年12月15日原院第5号） ・港湾の施設の技術上の基準・同解説（国土交通省港湾局2007年） ・防波堤の耐津波設計のガイドライン（国土交通省港湾局平成27年改訂） ・土木学会 2005年 原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル ・土木学会 2002年 コンクリート標準示方書 構造性能照査編 ・土木学会 2008年 鋼・合成構造標準示方書 耐震設計編

変　更　前	変　更　後
・日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅳ下部構造編）・同解説 ・乾式キャスクを用いる使用済燃料中間貯蔵建屋の基礎構造の設計に関する技術規程（JEAC4616-2009）	・水門鉄管協会　平成 29 年　水門鉄管技術基準（水門鉄管・鉄鋼構造物編，溶接・接合編） ・日本道路協会　平成 24 年 3 月　道路橋示方書（Ⅰ共通編・Ⅳ下部構造編）・同解説 ・日本水道協会　2009 年　水道施設耐震工法指針・解説 ・乾式キャスクを用いる使用済燃料中間貯蔵建屋の基礎構造の設計に関する技術規程（JEAC4616-2009） ・原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601－2015）

(2)　適用基準及び適用規格

変　更　前	変　更　後
第1章　共通項目 緊急時対策所に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統設備，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。	第1章　共通項目 緊急時対策所に適用する共通項目の基準及び規格については，原子炉冷却系統施設，火災防護設備，浸水防護施設の「(2)　適用基準及び適用規格　第1章　共通項目」に示す。
第2章　個別項目 緊急時対策所に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。	第2章　個別項目 緊急時対策所に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。 ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（平成25年6月19日原規技発第1306194号） ・発電用火力設備の技術基準の解釈（昭和25年5月17日20130507商局第2号） ・鉱山保安法（昭和24年法律第70号） 鉱山保安法施行規則（平成16年9月27日経済産業省令第96号） ・労働安全衛生法（昭和47年法律第57号） 酸素欠乏症等防止規則（昭和47年9月30日労働省令第42号） ・労働安全衛生法（昭和47年法律第57号） 事務所衛生基準規則（昭和47年9月30日労働省令第43号） ・危険物の規制に関する政令（昭和34年9月26日政令第306号） ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（昭和57年1月28日原子力安全委員会決定）

変　更　前	変　更　後
・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009）	・安全機能を有する計測制御装置の設計指針（JEAG4611-2009） ・ＪＳＭＥ　ＮＣ１－2005（2007 追補版含む）発電用原子力設備規格 設計・建設規格 ・社団法人電池工業会「据付蓄電池の容量算出法」SBA S 0601-2001 ・可搬型発電設備技術基準　NEGAC 331-2005 ・ＪＩＳ　Ａ　５５２５－2014　鋼管ぐい

上記の他「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」を参照する。